

Ⅲ 地区館事業
平成 23 年度 指定管理事業実績

市民センター地区館ホームページアドレス一覧

http://www.stks.city.sendai.jp/citizen/WebPages/〇〇〇〇/index.html

※館によって入る文字が異なる

市民センター名	〇〇〇〇に入る文字	市民センター名	〇〇〇〇に入る文字
青葉区		六郷市民センター	rokugo
青葉区中央市民センター	aochu	沖野市民センター	okino
柏木市民センター	kasiwagi	若林市民センター	wakabayasi
		太白区	
北山市民センター	kitayama	太白区中央市民センター	futochu
福沢市民センター	fukuzawa	生出市民センター	oide
旭ヶ丘市民センター	asahigaoka	中田市民センター	nakada
三本松市民センター	sanbonmatsu	西多賀市民センター	nisitaga
片平市民センター	katahira	八本松市民センター	hachihonmatsu
水の森市民センター	mizunomori	八木山市民センター	yagiyama
貝ヶ森市民センター	kaigamori	山田市民センター	yamada
中山市民センター	nakayama	茂庭台市民センター	moniwadai
折立市民センター	oritate	東中田市民センター	higashinakada
広瀬市民センター	hirose	柳生市民センター	yanagiu
宮城西市民センター	miyaginisi	秋保市民センター	akiu
大沢市民センター	osawa	馬場市民センター	
落合市民センター	ochiai	湯本市民センター	
吉成市民センター	yosinari	富沢市民センター	tomizawa
木町通市民センター	kimachi		
宮城野区		泉区	
中央市民センター	chuo	泉区中央市民センター	izuchu
宮城野区中央市民センター	miyachu	根白石市民センター	nenosiroisi
高砂市民センター	takasago	南光台市民センター	nankodai
岩切市民センター	iwakiri	黒松市民センター	kuromatsu
鶴ヶ谷市民センター	tsurugaya	将監市民センター	syogen
榴ヶ岡市民センター	tsutsujigaoka	加茂市民センター	kamo
東部市民センター	tobu	高森市民センター	takamori
幸町市民センター	saiwaichou	松陵市民センター	syoryo
田子市民センター	tago	寺岡市民センター	teraoka
福室市民センター	fukumuro	長命ヶ丘市民センター	chomeigaoka
若林区		松森市民センター	matsumori
若林中央市民センター	wakachu	桂市民センター	katsura
七郷市民センター	sichigo	南中山市民センター	minaminakayama
荒町市民センター	aramachi		

(平成 24 年 9 月 1 日現在)

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

昭和 61 年の市立東二番丁小学校の全面改築に伴い「仙台市市民教養センター」が廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」が開館。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町(勤労青少年ホーム)」を統合し、新しく「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心地域で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高く、外国人も集まりやすいため、日本語講座を開催するなど国際交流の場としても一役を担っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	【東北三大祭り】仙台七夕に参加しよう		
参加者	どなたでも	参加延人数	39人
開催日	全3回 7月23日(土)、7月30日(土)、8月4日(木)		
ねらい	東日本大震災を経て「復興と鎮魂」をテーマに実施される仙台七夕の由来を学び、今年度七夕まつりを実施する意義を考える場を提供する。 実際に商店街に飾る吹流しを製作し、飾り付ける様子を体験・見学することによって、伝統文化への理解を深め、地域との交流を図る。		
概要・成果	サンモール一番町商店街に実際に飾る七夕飾りの一部を製作し、仙台の伝統行事に参加できる講座を体験したことにより、これまでの七夕の由来に加え、今年度のテーマ「復興と鎮魂」の思いも体感することができた。また、華やかな表舞台だけではなく、笹竹の運搬や商店街が協働で祭りの準備を進める様子を見学したことにより、伝統を支える仙台商人の姿を学ぶこともできた。		

〔平成 23 年度 (地区館) 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
★楽しく！パンダくらぶ	東二番丁幼稚園との共催「人形劇鑑賞—一寸法師」、 「子育て世代の防災準備」の講話から、大震災を体験したことを活かし、改めて防災について考える機会とした。	11月11日・ 12月2日	2	21
知って得する！ 子育て世代のお金の話	家計の収支と貯蓄、保険等について講話を通して学び、演習でライフプランを作成した。	12月6日	1	20
★こども広場—サイエンス☆フェスティバル'11	参加団体ごと展示・体験コーナーを開催し、誰でもわかる科学の世界を提供し、秋休みの子どもの居場所の提供を行った。また被災地支援として千葉工業大学未来科学技術センターから「ロボット解体ショー」の参加があった。	7月16日・10月1日・8日	3	400
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童向けには、インリーダーについての講話と歓送迎会プログラム作りの演習。 世話人向けには、子ども会育成会についての講話。 ゲームの実技。	1月28日	1	48

市民企画員実践講座 「あおばブックカフェ」	市民企画員が会議を経て、伊集院静著「受け月」を読んだ感想の話し合いと、『人生を考えさせてくれる本』というテーマで各自本を紹介し合うという内容で2回開催した。	2月8日・ 3月14日	2	2
ふれあいいきいき講座	聴覚障害者を対象に、調理実習「災害時における非常食作り」と、講話「聴覚に障がいのある方のための遠隔通訳サービスについて」を開催した。気軽に参加できる場を提供した、災害時の過ごし方を学んだ。	12月20日・ 2月21日	2	26
広がれ世界へ、友だちの輪	日本人、外国籍の方々とともに、自己紹介や震災時の体験などを話し合い、情報交換をした。また、日本の年中行事「お月見」を体験し、祖国の月にまつわる話などで交流を図った。	8月26日・ 9月16日	2	41
一番町で会いましょう 一孤独にならないコミュニケーション術	講話とワークショップで、人間関係でのストレスの減らし方と、理想的な人間関係を構築するためのコミュニケーション術を学んだ。	11月22日・ 29日	2	31
あおばカレッジ	「温故知新」を年間テーマにし、基調講話「仙台平野の歴史 地震と津波」実習「高校生と作る伝統食材・みそ作り」「文字を通して見る仙台の街」などを学んだ。	7月15日～3 月16日	9	288
第8回ふれあい祭「和気藹々☆一番町」	3日：ダンスパーティー・展示発表 4日：オープニングセレモニー・舞台発表・展示発表・体験コーナー・出店コーナー・五橋中学校吹奏楽部の演奏・二番丁幼稚園児の作品展示	3月3日・ 4日	2	580
★青中懇話会	事前の聞き取りをまとめた「震災後の活動状況」を共有し合い、今後の地域内での連携体制や防災に対する心構えを話し合った。	2月25日	1	10
まちなか元気いっぱい プロジェクトーまちなかをもっともっと元気に！	「まちなかミニライブと綱引き in サンモール」サンモール一番町商店街のアーケード下で、センター利用者による演舞披露とミニ綱引き大会を開催。	10月29日	1	226
市民企画会議 「読書会を広げよう」	昨年の企画員その他、新たに企画員を募り、より多くの市民の参加で、読書推進へ繋がるような「読書会」を開催することを目的に企画会議を開催し、実践講座を行った。	8月24日～3 月14日	8	50
ジュニアリーダーと遊ぼう	「東二夏祭り」 大きなモグラたたき・バルーンアートコーナー 「ふれあい祭」	8月21日・ 3月4日	2	110

柏木市民センター

〔沿革〕

当市民センターは昭和 61 年 7 月に旧仙台女子高等学校の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては収納式のステージをもつ多目的ホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★こんなまちに！！柏木の未来「地域元気クラブ」人材育成講座		
参加者	地域づくりに関心のある住民	参加延人数	82人
開催日	全7回 11月5日(土)、11月9日(水)、11月22日(火)、12月3日(土)、1月14日(土)、2月11日(土)、2月26日(日)		
ねらい	東日本大震災を受けてさらに浮き彫りとなった地域の課題を整理しながら、更に地域への関心を高め、住民自らが解決の方法について考える場を提供する。また学び合いを支援すると共に、地域人材の育成に資する。		
概要・成果	青葉区中央市民センターと共催で実施。まなびのたねネットワークをファシリテーターとしてワークショップ形式で実施した。動機づけ、理念出し、未来デザインと段階的に講座を展開し、参加者の理解を深める方法で進化した。また、地域を知り、資源を発掘するために地域フィールドワークを実施し、お互いの歩いたエリアについてまとめた情報共有の場を設けたことで参加者間の交流も促進され、次年度に向けての足がかりとなった。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
親子de国際交流サロン	冬至かぼちゃの調理や、小正月の団子木づくり、豆まき、さくらごはんの紹介など日本の季節の暮らしを楽しみながら親子で交流した。また英語の同時通訳で、絵本読み聞かせなども行った。	12月15日・1月12日・2月9日・3月8日	4	84
地域再発見～四ツ谷用水をさぐる～	通町小学校とタイアップして、4年生の児童に地域の歴史的資源「四ツ谷用水」に関する学習を提供。地域で活動するグループが四ツ谷用水跡を案内した。	9月6日	1	59
おもしろ体験！柏木ワンダーランド	大崎東部子供会と連携し、段ボールアートを体験した。また、通町小学校と連携し、理科室にてサイエンスエンジェルによる科学の体験学習を行なった。	7月21日・30日	2	70
インリーダー研修会	社会教育主事の先生による、子ども会についての講話・子ども会行事プログラムの作り方の実習・ジュニアリーダーによるゲームのすすめかたの実習を行なった。	2月4日	1	56
ようこそ仙台へ～ございん仙台～	転入者を対象に、城下町仙台についての講話や市内中心部にある彫刻めぐり、民話の講話の他、郷土料理の調理体験などを実施した。また茶話会での参加者同士の交流も行なった。	10月28日・11月11日・25日・12月9日・16日	5	79

博学さんぽ～柏木界限のツボ～	地域に埋もれている資源や素材を掘り起こして再発見を促しながら、自分たちの住んでいる地域への誇りや愛着を涵養した。	7月1日・8日・3月10日	3	90
柏梁学院	高齢者が健康・文化・歴史・音楽・落語等の様々な分野を学習した。	5月18日～3月7日	10	603
くつろぎタイム 2011	ボランティアグループによる絵本の読み聞かせや、紙芝居の他、仙台弁で語る童話のお話会を実施した。またPPM(ピーター・ホール&マリ-)の楽曲をカバーする在仙バンドによるコンサートも行った。	10月22日・12月10日	2	62
★第8回柏木ふれあい祭り	利用サークルによるロビー発表、展示・地域の住民や町内会による出店、体験販売・震災復興壁画の展示や被災者の手作りの販売等を行った。	10月2日	1	250
★かしわぎお茶っこ会	資料室を開放し、地域住民が気軽に集い、震災体験や様々な思いを語り合いながら、交流した。	6月4日・11日・18日・25日	4	22
★東日本大震災後の地域活動記録	柏木ウオッチングや、町内会記録等の収集	通年	—	—
★柏木市民センター地域懇談会	東日本大震災後地域住民の繋がりを広め、また深めるため、今回は『柏木界限物語』を活用して、街を元気にする会と協働し、「語り合いの会」を実施した。	2月21日・3月22日	2	47
★傾聴のすすめ～上手に話を聴くために～	地域に住む一人暮らしの高齢者に寄り添うため、東日本大震災後の心のケアについても考えるとともに、支援方法のひとつである傾聴の初歩を学んだ。	6月25日・7月15日	2	23
読み聞かせボランティア養成講座～スキルアップ編～	前年度養成中の読み聞かせボランティアのスキルアップのため、絵本読み聞かせの復習と応用、紙芝居・パネルシアターの演じ方、プログラムの作成など、今後の活動に向け実践を交えて学んだ。	5月26日・6月9日・23日・30日・7月7日・8月24日	6	83

北山市民センター

〔沿革〕

社会福祉活動の場がほしいという地域住民の願いが叶い、北山福祉会館が設置されたのが昭和49年7月である。(所管は仙台社会福祉協議会)。平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」に、平成2年には「北山市民センター」と名称を改め、地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしている。

施設の老朽化に伴う改築工事のため平成21年6月から約2年間閉館したのち、平成23年1月18日に新館としてオープンした。

地域内には、青葉神社や大崎八幡神社、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館があるため若者や外国人が多く福祉や国際理解への関心が高い。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	親子 de 国際交流サロン		
参加者	外国人、日本人親子	参加延人数	78人
開催日	全4回 12月15日(木)、1月12日(木)、2月9日(木)、3月8日(木)		
ねらい	同年代の子をもつ外国人親子と日本人親子との交流の場を提供して豊かな子育てを支援する。		
概要・成果	<p>【概要】冬至かぼちゃづくり・小正月の団子木づくりと大正琴演奏鑑賞・節分の豆まき・同時通訳つきのおはなし会(手遊び、紙芝居、パネルシアター)と、さくらご飯づくり。</p> <p>【成果】寒い時期の開催で、子供が風邪に見舞われるなどで全回出席者は少なかったものの、受講生同士の交流は自然に行なわれた。市民センターの存在を知らなかった若い親子も来館し、今後の利用が期待できた。また、絵本読み聞かせや紙芝居などについての英語の同時通訳は日本人にも外国人にも貴重な体験だったようだ。</p>		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
インリーダー研修会	子ども会を活性化するための、研修や実技を学習した。	2月4日	1	56
柏木さんぽ～柏木界隈のツポ～	地域の様々な素材や資源を紹介して、自分たちの住む地域への理解を深め、郷土意識の醸造を図った。	7月1日・8日・3月10日	3	90
ようこそ仙台へ～ございん仙台～	転入者が、より早く仙台に馴染めるような情報と交流の場を、提供した。	10月28日・11月11日・25日・12月9日・16日	5	79
北山シルバースクール	高齢者が、健康で生きがいのある社会生活を送れるように、学習の機会を提供し社会からの孤立感をなくすようにした。	6月24日～2月24日	8	274
北山納涼祭ーせみしぐれライブー	地域の新しい納涼行事を、子ども会等の協力を得て開催することで、地域活性化の一助とした。	7月24日	1	70

《青葉区》

第4回北山交流まつり	地域住民のセンターに、気軽に集う機会と、センターで活動している団体の発表の場を作り、交流を図った。	10月16日	1	550
懇談会 「館長と語ろう」	今回の東日本大震災における北山地区住民の、避難対応や問題点を出し合い、今後の災害に対する意思統一を図った。	11月5日・ 12月2日	2	89
ジュニアリーダーと遊ぼう	ジュニアリーダーの活動する場を設けて、各人のスキルアップを図り地域との交流を図った。	10月16日	1	65
北山ガイドボランティア養成スキルアップ講座	活動中の地域ボランティアについて、スキルアップと新規人材の養成を行った。	7月20日・27日・ 8月3日・ 10日・24日	5	45

福沢市民センター

〔沿革〕

昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設し「福沢公民館」として開館、平成 2 年 4 月に「仙台市福沢市民センター」と名称を改めた。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日にリニューアルオープンした。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を中心として昔の雰囲気を今にとどめており、下町情緒に溢れた古い歴史の地域になっている。反面、仙台市中心部からも近く、マンションも建ち並び新旧住民が混在した地域でもあり、ここ数年管内の総人口は増加に転じている。このような中で、地域の交流の場として多くの人々に利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	緑のカーテンの輪！2011		
参加者	地域住民	参加延人数	39人
開催日	全5回 6月26日(日)、7月9日(土)、7月30日(土)、8月20日(土)、2月25日(土)		
ねらい	背景として東日本大震災後、「節電対策」が国全体の大きな課題になっている。当センターでは、3年前から図書室窓面の「緑のカーテン」作りを通して、環境と地球温暖化についての学習に取り組んで来ているが、今夏の「節電対これまで以上に話題になっている身近なエコ活動としての「緑のカーテン」を、受講生と地域町内会と協力して多くの家庭に紹介し、普及させることで、地域全体での節電及び温暖化軽減に向けた取組のきっかけづくりと地域内の交流を促す。		
概要・成果	苗の植付け・手入れ・採種まで受講生が自主的に行ない、図書室の窓が「緑のカーテン」で覆われた。また、地域の2町内会や館利用者に朝顔等の種を配布し、各家庭での取り組みを促した結果、地域住民や館利用者が図書室の育成状況を見学するなどの気運の高まりも見られ、自宅で「緑のカーテン」が出来たという連絡も館にあった。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
ママの寺子屋	「ベビーピクス&親子ピクス」「おいしく食べよう(食育の話)」「子どもの歯のお話」「絵本の読み聞かせ」「親子で楽しくフラダンス」「ピンポンパン新春コンサート」の講話と実技	6月30日・7月28日・8月25日・9月29日・10月27日・11月24日・1月12日	7	146
仙台市子ども会インリーダー研修会	演習「行事プログラムの立て方と発表」、実技「子供会活動を楽しむゲーム・レクリエーション」、世話人研修「楽しく子供会活動を行うために」の講話とワークショップ。	2月18日	1	80
宇宙の神秘・・・生命はいるか！星の一生とは！	講話と映像による「宇宙の神秘」についての学習	10月22日	1	7

わたしたちのコミスク プレイベント 中高生 フェスタ「やるすべ福 沢」	平成24年度から始める「わたしたちのコミスク」を、広報するためのプレイベント。常盤木学園高校と東北高校の部活動の協力を得て「体験コーナー」と「ステージ発表」を実施	3月17日	1	246
★ペットと上手に暮ら すヒント	「災害時のペットのケアについて」「犬にシャンプーは必要か？ドックフードについて」「犬の嗅覚視覚について」などの講話と実技	10月19日・26 日・11月2日	3	14
福沢シニア大学	「出会いの話」「ハーブの育て方」「笑いヨガ」「地デジ」「絵画の楽しみ方」「気候が変わった！？」「国語＆アコーディオン」「懐かしの歌声喫茶」「健康によい料理の話」「MJOジャズコンサート」の講話と実技	6月16日～3 月8日	10	562
捨てる紙あれば拾う 神あり～段ボールで 作る絵馬	「絵馬について」の講話、段ボールによる絵馬の制作と、東照宮への絵馬の持参。	11月25日・26 日・27日	3	14
社会学級共催事業企 画会	3社会学級との、地域活性化に向けた企画会	9月9日・10 月7日・12月 13日・2月14 日	4	21
★社会学級共催事業 「心を元気に！～漫 画家きみどりさんと元 気を語ろう～」	東日本大震災を全国に伝えている漫画家の井上きみどりさんを講師に、「元気をもらおう！元気になるう！」講話と、「みんなで”元気”を語ろう！」懇話会を実施	1月17日	1	61
福沢市民センターま つり	福沢市民センターで活動するサークルや、地域団体、住民が参加して、「作品展示」「スージ発表」「出店」等実施	11月20日	1	889
★福沢懇談会	地域諸団体とともに、東日本大震災後の反省と、今後の地域防災のあり方について検討した。	7月27日	1	13
★東日本大震災後の 地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体の状況、市民センターの対応、及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各団体から直接聴取等の方法を用いて情報収集し、記録を資料として残す。	4月～3月	—	—
ジュニアリーダー「か め吉」とあそぼう！	「かめ吉手作りの学校かるたで遊んじゃおう」「コマ回しに挑戦しよう！」の実技	8月6日・ 1月21日	2	22
物語の世界を伝えま しょう！～読み聞か せボランティア養成 講座～	「読み聞かせの基本」「読みの大切さ」「読みの実習Ⅰ/Ⅱ」「選本のあれこれ&お話し会の組み立て」の講話と実技	12月2日・9 日・16日・1月 13日・20日	5	99
市民企画講座「宮町 盛り上げ隊」	地域の「宮町」を盛り上げるための企画会議	6月28日・7 月12日・26日	3	15
市民企画講座「宮町 春夏秋冬：今昔瓦 作り」	「宮町盛り上げ隊」で企画した、「宮町春夏秋冬：今昔瓦版」を作成し、町内会や宮町商店街、希望者に配布	8月23日・9 月13日・27 日・10月25 日・11月29 日・1月17日・ 2月7日	7	29

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館された。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は青年文化センター等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。年間利用者が 10 万人を越えていることを踏まえ市内全域を視野に入れ、現代社会における課題に取り組み、地域資源・人材を活用した事業展開を推進し多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供すると共に新たな地域コミュニティの基盤としての役割を担っていきたい。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	学社連携事業「昭和時代の仙台にタイムスリップ」		
参加者	小学生	参加延人数	116人
開催日	全2回 1月25日(水)、2月2日(日)		
協力者・協力団体	旭丘小学校 地域の高齢者		
ねらい	平成生まれの小学生が、郷土、仙台の昭和時代の風景を映像で見ながら、自分達の郷土がどのようにして今日あるのか、先人の苦労、努力、知恵などを学んでもらう機会とする。又、地域の高齢者からゲストティーチャーとしてお話を聞き、世代間交流を図る事により地域の活性化につなげる。		
概要・成果	講師制作のDVD映像を見ながら、さらに、地域の高齢者から昔の体験や生活の工夫などを聞いたりしたことにより、より身近に昭和の時代を捉えることができた。少人数の班編成にしたことで世代間交流もより一層図れた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
食育講座「大好きな人にお弁当を届けよう」	子供たちが大好きな人にお弁当を作り、招待して一緒に食べた。美味しいと言われた時の気持ちを経験し、相手を思いやる気持ちを育て、家族の健康を考えた栄養のバランス等について関心を深めた。	2月11日	1	23
インリーダー研修会	子ども会の充実と活性化のため、子ども会についての知識や活動に必要な技能を研修・発表し、ジュニアリーダーと共にゲーム等を実践で学んだ。	2月4日	1	96
台原中学校PTA共催事業「夢の実現に向けて」	中学校の授業の一環として、東北楽天イーグルスの選手を招き、夢に向かって努力することの大切さや、スポーツを通して培われた人間関係などを、学んだ。	1月17日	1	646
台原森林公園活用講座	地域の貴重な資源である台原森林公園を活用し、押し花、ノルディックウォーキング、リース作りを通して、自然を体感し、地域再発見と交流を図った。	10月7日・14日・12月14日・21日	4	66
旭ヶ丘老壮大学	高齢者が幅広い知識を自主的に学習し、豊かな充実した人生を送るために、年間を通して学習の場を提供した。	11月11日・12月9日・1月13日・2月10日・3月2日	5	521

《青葉区》

旭ヶ丘センターまつり	地域住民の文化活動の啓発と、地域文化の発展向上のため、作品展示・ステージ発表・産直販売・子ども広場等を開催し、利用団体との地域交流を図った。	11月26日・27日	2	1,875
旭ヶ丘地域懇談会	地域課題やニーズ、地域資源、地域情報を収集し、震災復興や事業に反映することで地域活性化を図った。	11月19日	1	15
市民センターがやってくる	センターまで出向けない人のために、地域内にある集会所、憩いの家などを利用して、ヨガ・落語・コーラス等の出前講座を開催した。	7月27日・8月10日・9月7日・10月12日・11月9日・12月7日	6	172
社会学級共催企画会議	旭丘小学校社会学級と共催し、事業を企画し地域コミュニティの活性化に繋げた。	11月16日・30日・12月7日・21日・3月7日	5	22
台原中学校PTA共催企画会議	青少年が健全に育つ環境づくりに向けて、事業展開するため話し合いを持った。	6月23日・9月1日・10月6日・1月13日・1月17日・2月9日	6	87
旭ヶ丘おとうさん塾	地域のお父さんを対象に、好感度をあげるための身だしなみの講話・実技、また今回被災した酒造工場のお話を聞き、支援につなげた。父親世代の交流が図られた。	12月4日・2月25日	2	66
旭ヶ丘児童館共催事業「ママのえがおタイム」	子育て中のお母さんのリフレッシュのために、親子コンサート・託児付ヨガ講座を開催し、また児童館を会場とすることで子育ての情報交換や、子育て経験者との交流を図った。	10月26日・1月26日	2	53
社会学級共催事業『つないでいこう！森林太鼓』	かつて旭ヶ丘地域で行われていた「森林太鼓」の継承に繋がるように、映像や旭丘小6年生による太鼓発表・体験等イベントを開催し、世代を超えた交流を図った。	2月18日	1	125
★市民企画 災害に強いまちづくり 企画会議	東日本大震災及び地域懇話会の要望を踏まえ、各町内会が団結して、地域の防災について考え、実施するために企画会議を開いた。	12月2日・9日・16日・1月13日・27日・2月21日	6	36
ほたるの里サポーター 一育成講座	台原森林公園にある、「ほたるの里」を次世代に繋げていくため、「ほたるの里」の環境整備を行った。	11月29日	1	7
市民企画会議「お父さん企画」	お父さん世代が自分達の目線で事業を企画し話し合いを持つことで交流を深め、地域活性化を図った。	11月5日・19日・12月2日・16日・1月13日・3月11日	6	24

三本松市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には雑木林が残されているなど環境に恵まれている。堤町は、現在は窯の火は消えたが、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和62年4月1日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(40台)、舞台付で約50畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート1面、バレーボールコート2面、卓球台12台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	3on3 バスケットボール大会 in 三本松		
参加者	中学生以上、1チーム3～5名で構成	参加延人数	113人
開催日	全2回 抽選会 2月25日(土) 大会 3月4日(日)		
ねらい	三本松市民センターの体育館は、バスケットボールをオールコートでプレイすることができ、平日の夜間や、土日の個人使用日には、遠方から足を運ぶ利用者も多い。ストリートバスケットボールを通じて利用者間の交流を図り、更なる技術向上の一助とする。		
概要・成果	体育館利用者を対象に予め組み合わせ抽選会を行い、3on3 バスケットボール大会を実施した。 今年度は審判員を外部に依頼したことで参加者がプレイに集中できた。各チームがスコアラー担当の役割も十分果たし、全体進行は非常にスムーズだった。募集に対し参加チームが少なくなったものの、1チーム当たりの試合数が増えたことで、結果的にはプラスの要因となり、若い世代の交流が図られた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育て支援講座～ママが元気で家族も元気に～	手遊び・わらべうた、ストレッチ・軽体操を通して保護者同士の交流を図り、子育て情報交換を行う。	2月16日・23日・3月1日	3	34
インリーダー研修会	子ども会活動に必要な知識・技術を学ぶ。レクリエーションゲームの進め方・行事プログラムの立て方など。	2月4日	1	96
三本松寺子屋	施設探検(ユアテックスタジアム・仙台北郵便局) 物の作り(クラフト・陶芸・サバめし)	7月28日・29日・12月17日・1月7日・14日	5	99
夢の実現に向けて	台原中学校 PTA 共催事業企画会議で開催する事業。東北楽天ゴールデンイーグルスの一軍選手から夢の実現に向けた話を聞く。	1月17日	1	646

《青葉区》

くらし悠遊塾	地域の教育施設や社会学級と連携し、「化粧療法」「科学館探検」「一日中学生」「堤人形絵付け」を体験する。	8月31日・9月7日・10月18日・11月18日	4	58
北仙台セミナー	北仙台地域の歴史・伝統を再認識する機会を提供する。地震・津波等の災害の歴史、文化財の災害被害について学ぶ。	1月14日・21日・28日	3	37
シニアパソコン講座	パソコンの基本操作、様々な機能の習得、チラシ作成。中学生をサポートし世代間交流を図る。	8月11日・12日	2	46
三本松老壮大学	講話(歴史・健康・防犯)と実技(軽体操)、運営委員主催の親睦会	11月9日・12月14日・1月11日・2月8日・3月14日	5	192
★再会記念コンサート	高校生のシャンソン・フォークバンドの懐かしい名曲演奏	11月13日	1	80
台原中学校 PTA 共催事業企画会議	台原中学校・PTA・旭ヶ丘市民センターとの共催で、青少年健全育成事業を企画する。	6月23日・9月1日・10月6日・1月13日・17日・2月9日	6	87
★地域懇話会	地域団体・住民が一堂に会し、震災後の対応や今後の課題を話し合う。	9月30日	1	16
★東日本大震災の地域の活動記録	当市民センター管轄地域の学校・町内会等から震災後の対応・復興状況を紙面で収集し、資料を作成する。	7月27日～9月16日	1	23
三本松まなびあっこ	地域人材を講師とし、「絵手紙」「軽体操・ストレッチ」「雛人形作り」を行う。	12月2日・1月27日・2月10日・17日	4	43
図書まつり	地域から寄せられたりサイクル本の配布、身近な話題を詠む「ザ・川柳」、折り紙で遊べるフリースペース「あそびカフェ」	11月9日・10日・11日・12日・13日	5	172

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形や、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こういった地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	「マレーシアを楽しもう！カリグラフィー&スカネカ」		
参加者	小学生・地域住民	参加延人数	42名
開催日	全1回 3月24日(土)		
ねらい	片平地域には外国人留学生が多く住んでいる。地域で孤立しがちな留学生が、自国の文化を紹介するイベントの企画を通して、留学生と地域住民とのコミュニケーションを図り、相互理解と国際交流の場を提供する。また、震災をふまえ、留学生と地域とのつながりを促し、今後の地域防災活動への参加のきっかけづくりとする。		
概要・成果	片平地域に多く住む外国人留学生と地域住民との国際交流の第一歩として、地域に住むマレーシア留学生が企画した講座を開催した。マレーシアの文化、生活習慣などを、児童向けに紹介するイベントを通して、幼児から高齢者まで幅広い世代の地域住民が参加し、相互交流の活性化と国際理解の場に繋がった。また、今後、予定されている地域防災イベントにも、地域の留学生の立場で積極的に参加していただく道筋ができた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育て支援事業「ハッピーママの気晴らしカフェ」	児童館祭りへの参加・ベビーマッサージ・乳幼児向け食育・救急救命講座・コンサートなど	6月27日・7月2日・2月8日・15日・22日	5	217
本とあそぼう！「おはなし隊」がやってくる！	「本と遊ぼう！全国訪問「おはなし隊」・読書活動推進サークルぴっころ」による絵本の読み聞かせ、絵本・児童書の展示・大型紙芝居の実演	9月28日	1	48
キッズサイエンス工房	宮城県工業高等学校6科の高校生の指導による実験・工作・コンピュータープログラミングなど、東北大学サイエンスエンジェルによる実験、「天体観測」	7月30日・10月29日・12月3日・1月14日・2月17日	5	152
社会参加へはじめての一步	進学や就職で新生活を始める高校生を対象に、「ビジネスマナー」「暮らしのトラブル回避術」「新社会人の身だしなみ」等	7月18日・19日・12月8日・9日	4	214

インリーダー研修会	児童:「行事プログラムの作成」、「みんなで楽しめるゲーム」を体験 世話人:「講話 子供会育成について」情報交換等	1月28日	1	48
片平メンズ専科～匠の技を習う・地域デビュー入門講座	定年退職後の男性向けに、食に関連した内容を提供。調理実習(「すしを握る」「そばを打つ」「てんぷらを揚げる」等)	11月19日・26日・12月17日・1月21日・28日・2月25日	6	85
シニア講座・麟経堂	健康講座、地域内施設見学(瑞鳳殿)、生活教養講座、新春コンサート、介護予防講座、地域への出前講座など	6月14日・10月25日・27日・11月17日・12月15日・1月26日・2月23日	7	128
新たな“学び”ー自分誌作りから見えてくるもの	自分誌を書く作業を通して、参加者同士のコミュニケーションを図り、傾聴のスキルを学んだ。(講話・語り合い・冊子作成)	10月16日～3月9日	15	141
★かたひら四季暦	地域内施設見学(瑞鳳殿)・復興コンサート・講話「伊達家のひなまつり」など	11月17日・1月21日・3月3日	3	182
●かたひら健康ウォーキング	「かたひらウォーキングマップ」を活用し、広瀬川河畔の自然散策と震災後の地域の状況を検証	7月9日	1	21
「五橋中学校4者共催事業」企画会議	地域内で活動する団体も含めた4者による、思春期世代の子どもを持つ保護者のニーズに沿った講座を企画する企画会開催	11月24日	1	3
かたひら waiwai 広場	ブラスバンド演奏、遊びの広場、仮装コンテスト、人形劇、おもちゃ病院、絵画サークル展示、壁画プロジェクト展示、産直販売など	10月15日	1	660
片平市民センター懇話会	地域内の各団体に参加していただき、参加者の意見交換と情報の共有を図り、地域課題の抽出を行った。「かたひら四季暦」の講座見学(2回目)	9月4日・3月3日	2	14
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災を受け、市民センターの対応や地域の被害・復興状況を記録し、今後の地域づくりに貢献する。	4月～3月	2	—
「国際交流事業」企画会議	地域で孤立しがちな外国人向けに、国際交流が育まれる環境作りを目指した講座を企画。	1月6日・13日・27日・2月24日・3月9日	5	21
★「安全安心まちづくり講座～米ヶ袋防災研修会」	米ヶ袋町内会との共催により防災研修会を開催。(災害時の避難所開設の確認、町内会各部活動報告、自主防災組織の見直し)	2月19日	1	80

水の森市民センター

〔沿革〕

当センターは、広く市民の憩いの場として親しまれている自然豊かな水の森公園の水の森入口に立地している。管内は昭和30年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。当センターは、児童館・温水プール・防災コミュニティセンターを併設する複合施設として平成2年9月にオープンした。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2階の広いメインホールは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★水の森防災学校		
参加者	北仙台地区住民・一般	参加延人数	66人
開催日	全2回 9月10日(土)、11月12日(土)		
協力者・協力団体	北仙台地区連合町内会、北仙台地域防災ネットワーク会議		
ねらい	東日本大震災の経験を踏まえ、「自分達の町は自分達で守ろう」をスローガンに、北仙台地域の各団体や住民を対象として、防災に関する研修会や情報交換会を積極的に実施し、災害に強い地域づくりを目指す。更に地域住民の防災に対する協力体制の向上を図っていく。		
概要・成果	1回目は「東日本大震災の教訓に関する情報交換会」と題して、震災後の地域活動状況の調査結果報告・指定避難所(北仙台小・北仙台中)の運営状況報告・震災後の各町内会の活動や支援状況等の意見交換を行った。2回目は「避難所運営ゲームHUG」を通して避難所運営を疑似体験し、次々と示される課題への対応と判断を養う訓練を実施した。町内会単位で多数の参加があった。防災に関する意見交換をすることで、自分の地域の防災力を見直すことができた。震災体験を踏まえて、あらためて安全・安心な地域づくりと地域の協力体制の重要性を考える機会となった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
笑顔のママって大好き	①講話「子育てを楽しむQ&A」(託児付) ②調理実習「簡単おいしいヘルシークッキー」(託児付) ③水の森児童館と連携「親子でリトミック」 ④実習「ママのためのアロマセラピー～ハンドクリーム作り」(託児付)	9月2日・9日・16日・30日	4	86
日本の伝統文化に触れよう ―親子でチャレンジ	①講話「七夕飾りの意味について」、実習「親子で協力して七夕飾りを作る」 ②講話「茶道のおもてなしの心について」、実技「お茶をいただく、点てる、量の歩き方など」 ③地域まつりのお茶席に出てみる	7月10日・10月15日・23日	3	30
水の森キッズクラブ	①実習「緑のカーテン用種まき・野菜の植え付け」 ②実習「ゴーヤ・あさがおの植え付け・設置等」 ③調理実習「夏野菜で」 ④実習「木の実を使ってクラフト作り」 ⑤調理実習「冬野菜で」、腐葉土作り体験	6月4日・7月2日・23日・11月19日・12月3日	5	97

インリーダー研修会	子ども会児童向け講話「インリーダーとは」、実演「〇〇会を企画しよう・ポスターを作ろう・出来上がったものを発表しよう」 子ども会世話人向け講話「子ども会活動について」、情報交換 全体でレクリエーションゲーム等	1月28日	1	65
水の森山学校～水の森公園を楽しむ	①講話「水の森公園の四季折々と史跡について」②館外学習「水の森公園の自然観察会」③実習「自然素材のフォトフレーム作り」	11月9日・16日・1月25日	3	37
荒巻社会学級・水の森市民センター共催事業ホットタイムコンサート	音楽療法士の話と癒やしのロビーコンサート「ホットタイムコンサート」	11月10日	1	47
水の森老壮学園	①開講式・講話「口から始まるおいしい食事」②実技「健康体操」③演芸発表について班会議④地域まつり演芸発表会⑤講話「遺跡から探る災害の歴史」⑥コンサート⑦映画鑑賞⑧講話「シニアからの伝言」・閉講式⑨説明会	6月16日・7月21日・8月18日・10月22日・11月17日・1月19日・2月16日・3月1日・22日	9	693
社会学級との企画検討会	①②③④企画検討会⑤企画検討会で決定したコンサートを実施⑥反省会	6月7日・14日・7月26日・10月6日・11月10日	5	42
水の森市民センター地域まつり	作品展示(各サークル・荒巻小・北仙台小・桜ヶ丘小・個人)、北仙台小吹奏楽、児童館ミズチルおどり隊、舞台発表、老壮演芸発表、住まいのメンテナンス実演、チャリティバザー、軽食喫茶、お茶席、物産即売会等	10月22日・23日	2	2,780
水の森懇話会	①市民センター利用団体代表と意見交換②管内の町内会・各種団体等の代表と「元気な地域づくりと地域施設の役割」について意見交換	11月11日・26日	2	37
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を把握、各団体から情報収集して記録	通年	1	—
ジュニアリーダーと遊ぼう!	①JLみずの森リーダー'sの企画運営で、ワンダーシャボン玉作りとゲーム②水の森児童館まつりでじゃんけんゲームコーナーを担当	7月28日・10月22日	2	235
中学生・高校生企画「みんなのひろば」	①②③企画会議④地域まつりでふれあいコーナーとして「みんなのひろば」を開催⑤反省会	7月17日・9月18日・10月16日・22日	4	70
市民企画委員会	①②企画会議③④⑤⑥講座実施「伝えよう!わらすっこ遊び」⑦反省会	6月7日・14日・11月22日・29日・12月6日1月20日・31日	7	17
伝えよう!わらすっこ遊び	①実技「めざせ!独楽名人」②実技「きめろ!けん玉」③話し合い「話し合いの進め方」④実践「荒巻小学校昔あそび集会」⑤反省会	11月22日・29日・12月6日・1月20日・31日	5	38

貝ヶ森市民センター

〔沿革〕

“貝“をモチーフにしたデザインが館内随所に配された当市民センターは、平成5年4月に児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあつて、その瀟洒な建物は隣接する貝ヶ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

また、風光明媚な貝ヶ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などにも恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	貝ヶ森・国見自然観察会		
参加者	成人、親子	参加延人数	64人
開催日	全4回 7月9日(土)、8月13日(土)、9月10日(土)、10月8日(土)		
協力者・協力団体	せんだい市民の森を創る会、青陵の森愛好会、東北福祉大学「まごのてくらぶ」		
ねらい	貝ヶ森・国見地区に残っている自然を観察し体験することで、現在の地域環境の状況を知る機会とする。また、地域で自然保全活動をしている人々との交流を図り、自然環境への関心を高める。		
概要・成果	貝ヶ森中央公園と梅田川流域、仁田谷地、権現森、青陵の森の4つの地域の自然観察を行った。自然を実際に体験したことで、身近な自然環境への関心を高める事ができた。また、自然保全活動をしている人達の話聞くことで環境保全に対する理解も深まった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
「心を育む」乳幼児の絵本	子育て中の親が、読み聞かせの重要性に気づき、子育てに読書を取り入れることを目的に、読み聞かせ、わらべ歌などの親子遊び、図書ボランティアによる図書室の利用案内を行った。	6月24日・7月8日	2	32
たのしい科学の実験教室	キャベツから抽出した色水に重曹、レモン果汁等を入れ色の変化を観察した。また、ゲームを通し表面張力等水の特性を学び、岩塩を割ったり、雲母をはがして偏光性を観察したり様々な石の特性などを体験した。	8月3日・10日・17日	3	70
木工広場	地域の子供、保護者、地域住民による世代間交流を目的に、木工工作を行った。また、実施に際して、ジュニアリーダーや学生ボランティアに、子どもの工作をサポートしてもらうことで、青少年のリーダー育成の一助とした。	10月22日	2	79

インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を目的に、次年度世話人と小学5年生を対象に、ジュニアリーダーも参加協力して、講話と実技(レクゲームなどの講習)を行った。	2月25日	1	70
星空映画祭	地域の活性化と世代間交流を目的に、町内会長や町内の福祉関係諸団体で構成する実行委員会が映画会を企画実施した。	7月16日	1	205
介護情報交換講座	古武術を使って、体に負担の少ない介護術を学び日常に活用。国見地域包括支援センターの方から介護サービスについての話を聞き情報交換を行った。	9月6日・13日	2	24
貝ヶ森シニア学園	地域の高齢者の健康と生きがいづくりを目的に、健康問題や教養などをテーマに講話と実技で学んだ。また、企画委員による講座の企画・運営への参画を促した。	6月22日～3月7日	9	517
貝ヶ森サロンコンサート	気軽に市民センターを訪れてもらうためのコンサートを開催した。1回目・2回目は地域住民、センター利用団体の出演、3回目は市民文化事業団共催の「街かどコンサート」を実施した。	8月5日・10月30日・3月9日	3	207
豆まき会	地域住民の世代間交流を目的に、住民の協力のもと、アトラクションやけん玉、お手玉などの昔遊び、豆まきなどを行い、節分という伝統行事を体験した。	1月28日	1	118
社会学級企画検討会	貝森・国見・八幡社会学級生が一堂に会して、地域の特性・問題点を探り、地域活性化を目指す事業を企画検討するための会議を行った。	9月14日	1	3
★絆コンサート ～join hands～	学校と市民センターとの連携を深め、震災後の地域を元気にすることを目的に、仙台青陵中等教育学校吹奏楽部による企画・演奏のコンサートを開催した。	8月20日	1	108
貝ヶ森地区文化祭	地域の連帯と親睦・交流を目的に、貝ヶ森地区の住民、及び当市民センター利用者による作品展示・演芸発表、お茶席、テント村等の催しを実施した。	11月5日・6日	2	1,850
地域懇話会	地域課題の把握や、今後の事業運営に役立てることを目的に、地域諸団体、学校関係、地域施設関係、利用者をとの情報交換や懇談を行った。また、震災時の地域の状況についての情報交換も行った。	7月23日・9月17日・12月17日・3月3日	4	49
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応や復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録し、今後の地域づくりのための資料とする。	通年	1	—
「貝ヶ森シンボル花壇」整備	道路脇に出来た緑地帯を、貝ヶ森のシンボリックな花壇にしようと、花壇のデザインや世話の仕方などを学びながら、花壇を作った。	7月21日・28日・8月18日・9月15日・10月20日・11月17日・	6	82

中山市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。中山地区でも国見ヶ丘地区に近い閑静な住宅地に位置し、月急山公園に隣接して自然環境に恵まれている。

中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。旧中山街道の長い坂道には、商店が建ち並び、月に一度「街道市」を開催するなど、活気がある。また、近くに福祉施設「せんだんの杜」「せんだんの里」等福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	みんな集まれ！わんぱく広場		
参加者	小学生・小学生親子	参加延人数	237人
開催日	全5回 7月26日(火)、11月12日(水)、12月16日(金)、1月7日(土)、2月1日(水)		
協力者・協力団体	川平小学校、川平マイスクール児童館、中山児童館、明成高等学校、仙台市天文台 中山社会福祉協議会、中山西寿会、中山赤十字奉仕団		
ねらい	夏休みなどの長期休暇や、土日に小学生や親子が気軽に参加できる、体験型の事業を展開し、地域の方々も交え、世代間交流を深める。また、地域の人材や資源を活用することで、地域の活性化に繋げるとともに、ジュニアリーダーの協力も得て、彼らの育成の場とする。		
概要・成果	地域団体や学校と連携することで、内容、募集方法、講座の運営などに協力が得られた。子ども対象の講座は地域団体も趣向を凝らして開催している中で、センターならではの工夫と内容検討を行い実施した。特に天体観望会は身近で星が観測できることから家族連れに好評だった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
★子育て講演会	震災により、未だ不安を抱えながら育児をしている、保護者の為の、講演会を実施した。1回目は子どもの心の変化や対応について、2回目は食育についてのテーマだった。	8月27日・11月30日	2	41
インリーダー研修会	子ども会の活性化を図るために中山・川平・貝ヶ森・国見地区の5年生と世話人を対象に、子ども会の運営方法や行事の持ち方などについて研修した。	2月25日	1	70
昔遊びを楽しもう	小学生が地域のボランティアのメンバーと一緒に、10の「昔あそび」を体験した。各コーナーボランティアが遊びを工夫し、デモンストレーションを行うことで、異世代間交流が活発に図られた。	2月3日	1	115

ジュニアリーダーの 緑日コーナー	中山市民センター・児童館まつりで、ジュニアリーダーが 主体となって緑日コーナーを実施した。	10月29日	1	135
★動物を介したところ の支援	犬と触れ合うことで、やさしさ呼び起こし、生きる喜び や生命を大切にすることを学んだ。	6月29日・8 月24日・10月 19日	3	103
地球の未来を考える	中山市民センターの中庭に、ゴーヤー・ヘチマ等の植え 付けをし、緑のカーテンの効果や植物の働きなどを学ん だ。	6月18日	1	9
★中山銀鈴倶楽部	震災後の復興・絆をテーマに、震災に係わるDVD鑑賞・ 意見交換、省エネ、演芸、コンサート等の講座を行った。 また高齢者同士の交流と生涯学習の機会の充実を図つ た。	9月2日・10 月7日・11月 2日・12月2 日・1月6日・ 2月3日・3月 2日	7	200
★おかのまち中山 DEハーモニー	センター利用サークルと、地域の音楽団体のコンサート を実施した。23年度は震災後の復興イベントの位置付 けで、センターまつりとの2段構えで地域を盛り上げた。	11月26日	1	350
★中山市民センター まつり	地域の復興・絆をテーマに実施した。センター利用団体 に加え、宮城県警音楽隊・カラーガード隊のパフォーマ ンスや自衛隊の展示写真もあり充実した内容になった。 幼児から高齢者までの幅広い年代の観客が集まり、異 世代間交流も図られていた。	10月29日	1	1,800
★中山市民センター 懇話会	各団体が意見交換する場を設けて、地域の課題や学習 ニーズを把握する。特に今年は、震災後の対応をテーマ にして課題や意見を出し合い、一層の地域連携の充実 を図る契機となった。	12月6日	1	21
★東日本震災後の地 域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び 復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町 内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情 報収集、記録することにより、今後の地域づくりの資料と する。	6月16日・9 月2日・12月 6日	3	100
花と緑の案内人養成 講座	中山市民センターをフィールドにして、地域住民対象に、 ガーデニングや自然の花や緑に親しみ、地域の美化、 環境保護に貢献する人材を増やす講座となった。	11月13日・ 3月4日	2	28

折立市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、仙台市中心部から西方約 5 kmの地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開け、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。平成 7 年 5 月 30 日に市内 50 番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

施設の特徴としては、可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた 49 畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	折立 風のメロディーコンサート		
参加者	一般	参加延人数	170人
開催日	全1回 12月10日(土)		
協力者・協力団体	風のメロディーコンサート実行委員会 グレース折立、トワイライトギタークラブ、折立コール・スマイル、ライラック ハーモニカ愛好会カタクリ		
ねらい	市民センターを拠点に活動している音楽愛好家たちの発表の場をつくり、住民が気軽に音楽を楽しみ交流できる機会を提供する。また第3回目となる今年、地域のコンサートとして定着を図り、地域の活性化を目指す。		
概要・成果	企画、会場設営、広報等全て実行委員を中心に運営される、地域に密着したコンサートになった。企画では夏に行う予定だったが、震災の影響で12月に行った。折立は震災の被害が大きく開催が危ぶまれたが、多くの方に来場いただき、『絆』をテーマに飾付けされた会場で、サークルやゲストの演奏を楽しんでいただいた。また、住民同士の交流を深めることが出来た。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
親子たいけん隊	子どもの心身の健やかな成長を培い、また、親子の交流を図るため、様々な学びを体験した。(親子理科実験室、親子でおやつ作り)	11月12日・1月14日	2	42
ジュニアリーダーと遊ぶコーナー	児童館行事の遊びのコーナーでジュニアリーダーとレクリエーションゲームを行い、集団で遊ぶことの楽しさを体験した。	8月24日	1	59
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会リーダーとなる児童および世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションゲームの研修を行った。	2月4日	1	31

折立老壮大学	高齢者が様々な情報や学習を通し、仲間と学びあうことで生きがいのある生活を送ることができるよう、月に一度学びの場を提供した。	7月21日～ 2月16日	8	326
懇話会意見交換会	地域住民と共に、地域の課題や資源の情報を交換し合い、より良い地域づくりの方向性を探った。また、要望や意見を市民センター事業に反映させ、パートナーシップづくりに役立てた。	7月23日・9 月10日・2月 18日	3	47
折立ふれあいまつり	地域で活動している団体やグループ、市民センター利用のサークルなどが中心となり、日頃の練習の成果や作品の発表を行った。	10月22日	1	1,262
災害に強いまちを目指して	普通救急救命、AEDの講習を行った。	1月12日	1	14
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域状況、及び復興状況に関して情報収集と記録を行い、地域づくりを進める資料とした。	7月23日・11 月26日・1月 18日・3月24 日	4	98
折立マップでまち発見	22年度の市民企画講座で作成した、折立地域の自然や史跡等をまとめたマップをもとに地域を歩き、検証した。また、市民企画員が歴史的な背景や故事について説明し、魅力を伝えた。	10月14日・28 日・11月11 日・25日・12 月2日	5	105
地域発信「ボランティア情報紙わ・和・輪」作成講座	折立地域におけるボランティア活動の情報を収集し、地域のボランティア情報紙を作成した。発行部数 3500部（地域内へ全戸配布）	9月9日・ 10月27日	2	6

広瀬市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音を初めとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域である。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の庁舎に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	再発見！ひろせの底力 ～カッパダ川の利活用の歴史を保存する新提言～		
参加者	平成 22 年度企画委員	参加延人数	126人
開催日	全17回 4月26日(火)、5月12日(木)、6月3日(金)、7月1日(金)、7月13日(水)、7月21日(木)、 8月23日(火)、9月7日(木)、10月27日(木)、11月29日(火)、12月14日(水)、1月12日(木)、 2月29日(水)、3月1日(木)、3月15日(木)、3月22日(木)、3月27日(火)		
協力者・協力団体	仙台市下水道計画課 宮城大学事業構想学部		
ねらい	地域の人々の暮らしに重要な役割を果たしてきた川が、開発により暗渠化されるのに対し、「川の利活用の歴史」を人々の記憶に残してもらうための仕掛けを考え、開発関係者に対して提案する。この事を通してまちづくりに関わりながら学びを深め、スキルアップを図り人づくりの場とする。		
概要・成果	昨年度から進めてきた事業であるが、今年度は「カッパダ川ひろば」を提案するために、ひろばのイメージ図を宮城大学の協力を得ながら作成し、下水道課の許可内容と、すり合わせ素案の作成をし、開発関係者へ提案、そして協議しながら「ひろば」の完成に至った。この作業を進める上で企画委員の地域資源を掘り起こし、地域に発信していく意識の向上や自信につながった。また提案したものが実現し、地域に残せた功績は大きく、地域の財産となった。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
みんなで子育て「子愛ネット」	親子遊び、愛子児童館訪問、先輩ママとのおしゃべり会、子育て支援についての講話。	11月18日・25日・12月2日・16日	4	50
わくわく子ども体験講座	地域にあるサイカチ川で、地域ボランティアと一緒に自然遊び体験と伐採木片を利用したクラフト作り。	8月19日・10月1日	2	70
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童は、子ども会活動について行事プログラムの作成やレクリエーション・ゲームの進め方などを学んだ。世話人は、役割について学び、グループごとに話し合った。その後、児童と世話人と一緒にゲームを体験した。	2月25日	1	80
【年央】ひろせ山がっこ	小学校に泊まろう、宮城地区まつり出店、地域の山登り。	7月30日・10月23日・2月18日	3	195

【年央】 地域が伝える「平和学習」	戦争体験者である地域の高齢者が、戦時下の仙台の学校や家庭での生活、空襲の様子、戦災復興に至る体験を小学生に話し、平和の大切さを伝えた。	11月22日・29日	2	123
ひろせを学ぶ地元学「愛子考」	愛子の歴史と史跡について・五郎八姫についての講話、現地学習、交流会。	7月20日・8月24日・9月13日・28日・10月12日	5	126
ノルディックウォーキングで広瀬の魅力発見	ノルディックウォーキングを体験しながら、地域にある諏訪神社や同慶寺、青木明神、子愛観音堂訪問。途中、住職や地域の方にお話を伺った。	9月7日・14日・21日	3	63
学びの百科「ひろせ生活倶楽部」	リメイクキャンドルづくり、仙台下水道についての講話、ハーブの話とハーブ石鹸作り、バスタオルで作る防災頭巾作り、田植えおどりに関する講話。	6月23日・8月25日・10月13日・12月1日・2月2日	5	155
【年央】パソコンで広がる世界！～シニアのためのやさしいパソコン講座	シニア世代が、パソコンで、年賀はがきを作成し、デジカメの、画像加工方法なども学んだ。	11月22日・29日・12月9日	3	23
老壮大学「若返り教室」	地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活をおくるため、多方面からの学習機会を提供した。 いきいき体操・歌唱・地域のクッパダ川についての講話・体に良い野菜の摂取方法・映画鑑賞・新年会・小学生との昔遊び交流会・オレオレ詐欺	5月26日・7月28日・9月22日・11月17日・12月15日・1月19日・2月8日・3月8日	8	391
「愛子の田植踊」を踊ろう ～次世代へつなぐ広瀬の伝統～	地域の貴重な伝統芸能を継承させていくために、社会学級と連携して、伝承の機会の提供と、伝承のしくみの土台づくりをした。また世代間交流を図り、地域の歴史・文化の習得をした。宮城地区まつり、ひろせ学習フェア出演。	6月25日～3月10日	18	455
おはなしコンサート in ひろせ	2階ミニステージで、絵本の読み聞かせとバイオリンやチェロなどを組み合わせた演奏会と、CD から流れる音楽にのせて読み上げる朗読会。	12月23日・1月28日	2	152
★【年央】きずなカフェ～地域でつながるために～	震災を体験したことで気付いた課題を、解決するための学びと茶話会。また、茶話会を通して地域の絆づくりへとつなげる。非常食レシピ、IT 編、ガイガーカウンター(放射線量計測器)の使い方。	11月15日・1月26日・3月17日	3	102
【年央】男の料理教室	男性が簡単な調理方法と知識を学ぶ。炊き込みご飯や中華料理、焼き魚などを調理しグループごとに食事した。	1月24日・2月7日・22日	3	57
ひろせ山がっこ企画会	地域住民・学校・市民センターが協力し、子どもの健全育成と活力ある豊かな地域をつくるような講座を企画した。	5月17日・6月7日・28日・7月19日・10月14日・11月15日・1月17日	7	85
★ひろせ地域連携企画会	東日本大震災で体験した事や役立った知恵を吸い上げ、整理して学校や地域に発信する事業を社会学級と協働で企画し実施した。	6月2日～3月17日	15	117
ひろせサマーナイトコンサート 2011	ご家族お子様連れみんなで楽しめるコンサート。町内会の出店や野菜即売など。生活倶楽部受講生有志によるキャンドル製作コーナーなど。	7月30日	1	360
第23回広瀬市民センターまつり	市民センター利用サークルの24団体が参加。展示コーナー(俳句、書道、ステンドグラス、キルトなど)、喫茶コーナー、体験コーナー(絵手紙、プリザーブドフラワー)、ミニステージ(韓国語、読み聞かせなど)。	10月22日・23日	2	1,772
第24回生涯学習発表会「ひろせ学習フェア」	前日は、リハーサル。当日は、宮城地区 37 のサークル・団体が、一年の活動成果を大舞台上で発表した。また、市民センター主催講座「ひろせの歌声」「愛子の田植踊り」も出演した。	2月18日・19日	2	1,705

ひびけ大合唱「ひろせの歌声」	学習フェアのフィナーレを飾り、盛り上げた。歌った曲目は、「童謡メドレー」、「この街で」、「真赤な太陽」。アンコールは、「歓喜の歌」、「ふるさと」。	1月28日・2月4日・11日18日・19日	5	339
★【年央】開館20周年記念～復興への願いを込めて～歴史講演会「たくましく生きるみちのく」&アニバーサリーコンサート	開館20周年を記念して、市民や地域の方々への感謝と、東日本大震災からの復興への願いをこめた、第1部「平川新氏 歴史講演」第2部広瀬高校吹奏楽部による、「アニバーサリーコンサート」及びパネル展示。	10月26日・11月4日	2	1,900
ひろせ懇談会	市民センター・文化センターの運営や事業に反映させるために、地域住民から地域課題や要望などを聴取。	6月29日・1月25日	2	16
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体から情報収集し、今後の地域づくりの資料とするため、記録した。	6月29日～1月25日	12	26
ジュニアリーダー「くまっこまつり	地域の子ども達に対しJL活動や集団遊びの楽しさを紹介した。JLは自ら企画運営することにより、レベルアップを図った。ジュニアリーダー活動内容揭示、おばけ屋敷、工作コーナー、もぐらたたき、ジュニアリーダー人気投票 など。	7月24日	1	169
市民企画会「ひろせ 男の底力」	男性が生活に密着した事柄を学び、身につけるための実践的な男性の社会参加を促す講座を企画した。	9月1日～3月23日	10	38

宮城西市民センター

〔沿革〕

昭和 52 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	おらほ自慢		
参加者	地域住民	参加延人数	125人
開催日	全6回 6月29日(水)、7月27日(水)、11月9日(水)、1月25日(木)、2月29日(水)、3月14日(水)、		
協力者・協力団体	下倉町内会		
ねらい	豊かな地域素材を使い様々なアイデア料理と昔から伝わる郷土料理を工夫し、地域の特産物として広く紹介する。また、紹介することで地域交流、地域活性化に繋げる。		
概要・成果	夏野菜を使ったメニューや、秋に採れる柚子の保存方法を始め、季節の料理を学習した。また伝統的な漬物の素である寒麴を仕込んだ。毎回笑いの絶えない講座となり、また回を重ねるごとに学ぶことも多い事業となった。参加者も西地区の広いエリアで移動だけでも大変な中、休む人もなくそれぞれに工夫されたレシピを提供し情報交換を行った。また学んだことを地域のサロン活動で教えたり、再現して披露したりと、実習が地域に活かされた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
親子ふれあい教室	赤沢山～捻木道探検・豆沢川探検・親子で豆腐作り体験・奥新川探検紅葉狩	6月18日・7月16日・9月17日・11月5日	4	113
インリーダー研修会	子ども会リーダーの児童及び世話人を対象に、子ども会活動活性化のための研修会	2月18日	1	37
自然体験教室	里山戸神山へ・豆沢川歩き・鎌倉山へ	5月27日・7月15日・10月28日	3	40
女性教養講座	エコクラフト・おらほの自慢料理を学ぶ・暮らしを彩る手芸	9月6日・13日・27日	3	46
出前講座	夏のもてなし料理・音楽療法で健康に・新聞紙でエコバック・保存食柚子のオリゴ糖漬け・正月料理・エコクラフト体験・寒麴仕込み伝承・健康体操で冬を乗り切ろう！	7月8日～2月24日	11	201
老壮学級	交通安全・本当は凄いラジオ体操・歌声コンサート・朗読の楽しみ・交流会・指先を使って若返り・作並街道の歴史よもやま話・落語を楽しむ	6月16日～1月19日	8	364

★地域で考える災害時の対応	防災訓練(安否確認・救護・炊き出し・仮設トイレ組み立て)・市民センター・一次避難所との関わり・消防署指導	6月26日	1	106
宮城西市民まつり	演芸発表・作品展示・農産物即売・バザー出店・ジュニアリーダー遊び・伝承遊び・フリーマーケット	11月23日	1	2,002
宮城西地域懇談会	15町内会、各種団体の情報交換の場とし、様々な会場で懇談会を設け、地域ニーズを把握して市民センター運営に役立てる。	7月13日～12月4日	7	153
★地域交流研修会	地域づくりの中心的・指導的立場にある関係者を対象に、日常的な防災・減災活動についての講話と意見交換会: すぐに始められる減災活動	3月4日	1	95
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体から情報収集し、今後の地域づくりの資料とするため、記録した。	通年	1	—

※改築工事のため、平成22年8月1日から平成24年7月2日まで休館

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部に位置する田園地帯や緑多い丘陵地帯など閑静な自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

古い史跡が点在する歴史ある地域として知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。このような地域の状況を背景にその特性を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★大沢地区地域防災安心ネット		
参加者	地域住民	参加延人数	127人
開催日	全3回 9月24日(土)、11月26日(土)、1月21日(土)		
協力者・協力団体	大沢小学区連合町内会 川前地区連合町内会 大沢・川前地区社会福祉協議会 大沢小学校 川前小学校 大沢中学校 大沢小・川前小PTA 大沢中PTA 大沢・川前学区民体育振興会 防犯協会 交通安全協会 婦人防火クラブ 消防分団		
ねらい	大沢地区の町内会や地域の社会福祉協議会等が、災害発生時に正確な情報を共有し、地域住民の避難等速やかな対応や被害を最小限に防ぐ方法を共に考え、地域の防災体制の整備実現を目指す。また、「3・11」を経て、住民による地域の防災環境理解と安全確保を考えた行動の実現を目指す。		
概要・成果	東日本大震災で、大沢地区の住民はどのように避難生活や避難所運営を行ったのかを、ケース毎に事例発表し検証した。また、地震予知の専門家が分析した「3・11」大地震について講話を聴き、切り口を変えて検証を行った。最終回では、防災学習研究のNPO法人から、東日本大震災後の各地の事例に基づき、災害への日頃の備えと地域の自助と共助の重要性について話を聴き、今後の住民の意識づくりに一石を投じることができた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
大沢子育て広場 「ほっとママカフェ」	子育て中の母親のストレス緩和や、子育て環境の充実を目指し、親子の健康・安心安全な暮らし等について学び情報交換する。	11月1日・15日・12月6日	3	31
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人が、子ども会活動の運営方法について学ぶ。	2月19日	1	35
地域資源活用講座 「大沢こども体験教室」～蒲沢山の自然探検！	小学生の夏休み体験として地域資源である蒲沢山の自然に触れ、山に生息する動植物の生態や環境について学習し理解と関心を深める。	7月26日・8月3日	2	27
大沢の歩く歴史ハンター	大沢地域の魅力を見直し興味関心を高めるため、あまり知られていない地域の歴史について学び史跡を巡る。	11月11日・18日	2	37

地域デビュー講座 市民センター畑で野菜作りにチャレンジ	市民センターの畑を活用して団塊世代の人に活動の場を提供し、有機栽培の野菜作りを通して地域デビューと地域交流を促進する。	6月18日～11月12日	10	104
大沢暮らし百科	生活に密着した事柄や社会の動きに対応した諸問題について多面的に学習することにより、日常生活を豊かで充実したものとする。	9月2日・9日・2月3日・10日	4	85
ノルディックウォーキングで健康づくり	幅広い年代で取り組めるノルディックウォーキングを通して、健康づくりへの地域住民の意識を高める。また、大沢・川前地区の自然に恵まれた地域資源(湖畔・農道・公園・緑地等)を活用することにより、地域への関心を高めるとともに「歩くボランティア」への登録も促して地域の防犯活動にも貢献する。	2月24日・3月2日・9日	3	71
老壮大学「大沢朗々学園」	地域の高齢者が楽しみながら、意欲的に学習と交流を重ねる場を設け、生き甲斐作り・仲間作りを推進し、充実した生活を送る環境作りを目指す。	6月23日～2月16日	7	255
スポーツでつながる地域の輪！「大沢・川前グラウンドゴルフ交流会」	誰でも気軽に参加できるグラウンドゴルフを楽しみながら、普段交流の機会が少ない大沢と川前地区の住民の親睦と交流を図る。	9月11日	1	55
ロビーへようこそ	地域住民やサークル・団体に、日頃の学習成果発表の場として市民センターのロビーを解放し、地域の情報センターとしての役割を担う。また、住民の交流を促し、生涯学習活動への関心を高める。	3月3日	1	55
大沢市民まつり	大沢市民センター管内の地域住民が集まり、まつりの企画・運営を通して親睦と交流を図り、活力あるまちづくりに役立てる。また、地域の方々に日頃の学習成果発表の場を提供し生涯学習活動への理解を深める。	10月15日・16日	2	2,119
大沢地域懇談会	市民センターの運営に対する意見交換や地域情報交換の場として、地域で活動する諸団体や住民による懇談会を実施し、次年度の事業に活かすと共に、地域団体との友好関係を構築する。	11月18日・12月16日	2	21
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	通年	1	—
ジュニアリーダー「くまっこ」まつり	宮城地区の小学生が、ジュニアリーダーと遊ぶ体験を通し、集団遊びの楽しさや、ジュニアリーダーの活動を知る機会を提供すると共に、中学・高校生にジュニアリーダー「くまっこ」の活動を紹介する広報の機会を設けて、ボランティア活動へのきっかけをつくり、加入を促す。	7月24日	1	169
昔の暮らしや遊びを伝えよう	地域の方々が子供たちに昔の遊びや暮らしの様子について教え・伝えることで、個々の知識を活かしながらボランティア活動への積極的な姿勢を養うと共に、新たな地域人材の発掘とボランティア育成につなげる。	11月15日・22日・1月6日・7日	4	43
読み聞かせボランティア養成講座～スキルアップを目指して！～	読書活動に携わる地域人材や、家庭で読み聞かせをしている方のスキルアップを目指し、様々な角度から実践に活かせる学習を通して読み聞かせ活動の要請・支援を図る。	9月7日・14日・28日・10月16日	4	68
市民企画会議「子どもたちに伝えたい自然体験を企画しよう！」	地域の高齢者が、大沢の自然を活用して、若い子育て世代に伝えたい知恵と、経験を活かした楽しみ方を学ぶ講座を企画する。	1月12日・26日・2月9日・23日	4	17

落合市民センター

〔沿革〕

平成6年に開館した当市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線(陸前落合駅)、国道48号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院を始めとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設、更には大型商業施設も整備され、人口が増加している地域でもある。

その様な地域環境の中で、当市民センターは設立以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されてきた。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★記録に残す「私が見た東日本大震災」		
参加者	成人	参加延人数	63人
開催日	全22回 9月29日(木)、10月20日(木)、10月27日(木)、11月9日(水)、11月10日(木)午前・午後、11月25日(金)、12月1日(木)、12月8日(木)午前・午後、12月15日(木)、12月22日(木)、1月11日(水)、1月19日(木)、1月26日(木)、2月2日(木)、2月8日(水)、2月17日(金)、3月1日(木)、3月2日(金)、3月14日(水)、3月16日(金)		
協力者・協力団体	落合栗生地区連合町内会、落合栗生地区各町内会、落合栗生老人クラブ歳楽会、栗生小学校、宮城広瀬高等学校、落合児童館、落合保育所、コスモスひろせ保育園、東日本旅客鉄道(株)愛子駅、萬歳食品工業(株)、中小企業大学校仙台校、あさひ滝の瀬苑		
ねらい	東日本大震災の記憶を風化させないために、落合、栗生地域の一人ひとりが、その時どのような行動をとったか、また地域でどのような活動が行なわれたかを、市民が自ら取材、編集し記録に残す。		
概要・成果	地域の施設や町内会から震災時のことを寄稿いただき、毎月センターだよりといっしょに配布し幅広く地域の方に読んでいただいた。また原稿をもとに、市民の編集委員がインタビューに伺いまとめ、編集し、冊子「その時」を作り上げた。できあがった冊子は近隣の学校や施設、店舗等に置き、東日本大震災発生時の人々の行動を知ってもらい、地域をより深く理解することにつながった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童は行事プログラムの作成やレクリエーションゲームの進め方を体験した。世話人は、世話人の役割について学んだり、話し合い交流した。また、ジュニアリーダーの指導で児童とともに、レクリエーションゲームも体験した。	2月25日	1	80
★これでいいのか防災対策	震災後女性の支援活動に取り組んでいるイコールネット仙台の宗片恵美子さんから「女性と防災」のテーマでお話を聞いた後、地域防災力を高めるためにと題したワークショップを体験した。	1月28日	1	30

初心者の地域学—ちよつと昔を見たり聞いたり	同窓会の会長より「宮城農学寮」のお話、前郵便局長から「わたしのふる里」のお話を聞いた。「お月見」をテーマに宮城県に伝わる行事食を作った。茶話会「方言と昔話」を聞いた後、参加者で語り合った。	9月7日・21日・10月5日・19日	4	52
落合実年学級	「仙山線の歴史と旅」「なつかしの昭和へ」「作家の生涯と作品について 原 阿佐緒」「バランスのとれた食生活」の講話とDVD鑑賞と、講話「続昭和の情景」のほか、学級委員の企画で、歌ったり、カレーライスや芋煮を作って食べるなどして交流を深めた。	7月21日・8月18日・9月15日・10月20日・11月18日・12月15日・1月19日・2月16日・3月8日	9	198
★地域懇話会	東日本大震災時における地域の支援活動について、連合町内会のグループ、高齢者や要援護者支援活動にあたったグループ、幼児や児童を預かる施設のグループ、に日程を分け情報交換や意見の交換を行った。	8月4日・10月7日・11月26日	3	25
宮城県宮城広瀬高等学校連携事業	「土曜卓球くらぶ」は卓球部員の指導で小学生と保護者が卓球の基礎を楽しく学んだ。「高校の文化祭に遊びに行こう」では、生徒会の高校生の案内で地域の大人と子供が文化祭を見学した。	7月30日・9月10日	2	29
栗生・西館・五郎八姫一五郎八姫ってとんな人	五郎八姫の生い立ちと、姫をとりまく人々、西館に転居してから栗生を去るまでの出来事など、その生涯について、地元の澤口隆雄さんから話をうかがった。	7月2日	1	19
★聴いてあげて自分の気持ち 震災から200日	被災者でありながら、支援活動をした方を対象に第1部の茶話会で「3・11 私の支援(被災)体験」を語り合い、第2部のコンサート「心やすらぐひととき」ではエル・クルーの音楽で癒された。	10月23日	1	15
★東日本大震災後の地域の活動記録	「地域懇話会」と「記録に残す私が見た東日本大震災」の事業を展開することで、震災後の記録を残した。	通年	1	—
初心者のための地域学企画会(前期)	前期は、震災後継続するかということに始まり、講座の内容変更や講師についての打合せ、リハーサル、役割分担等を話し合った。	6月15日・7月13日・9月14日・10月19日	4	16
初心者のための地域学企画会(後期)	後期は顔合わせ、地域を自分たちで知るため、中小企業大大学校の見学、次年度開催予定の講師との打合せをした。	11月16日・30日・12月7日・21日・2月28日・3月7日	6	22
ジュニアリーダー「くまっこ」まつり	広瀬市民センターの2階が、まつりの広場に大変身。ジュニアリーダーが企画運営したおぼけ屋敷や工作コーナー、もぐらたたき、バルーンアートコーナーなどをスタンプラリーでまわり、沢山の親子が楽しんだ。	7月24日	1	169
サークル体験講座	27のサークルが実際に活動している時間帯に見学・体験することができた。	9月27日・28日・29日・30日・10月1日・2日	6	59

吉成市民センター

〔沿革〕

仙台市北西部の吉成と南吉成小学校区の間位置に、市内 51 番目の市民センターとして児童館及びコミュニティ防災センターを併設し平成 8 年 4 月にオープンした。吉成地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。当センターは、吉成学区と南吉成学区の 2 連合町内会を管轄としており、吉成学区は 7 町内会約 7,300 人、南吉成学区は 7 町内会約 10,700 人、総世帯数約 7,100 世帯(平成 24 年 3 月 31 現在)となっている。現在高齢化率(20.90%)も高くなってきていることもあり、当市民センターの利用件数及び利用者数は増加の傾向にある。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	自然の素材でリースを作ろう ～青陵の森		
参加者	成人	参加延人数	36人
開催日	全2回 11月25日(金)、12月2日(金)		
協力者・協力団体	仙台市立仙台青陵中等教育学校、青陵の森愛好会		
ねらい	「青陵の森」は吉成地域にある青陵中等教育学校の敷地内にある。そのため地域住民も知らない人が多いが、学校と連携し講座を開催することで地域との関わりあいを深め、また、地域資源として自然を大切に想い守る心を育む。リース素材を探し、作成することで自然と触れ合うことができる。		
概要・成果	「青陵の森」を近隣住民に紹介することができた。日頃から気になっていた森に入ることができて良かったという声が聞かれた。リースを作るために蔓を刈るのではなく、木を守るために蔓を刈りその蔓でリースを作るという指導で、受講生が自然保護を考える機会となった。学校の会議室を借りたリース作りも学校と関わりを深める良い機会となった。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
吉成地域子育てネットワーク事業	子育てに関係する活動団体が参加し、地域の子育て環境作りについての意見交換と広報誌の作成と発行を行った。	6月9日・12月20日	2	44
インリーダー研修会	子ども会のリーダーと世話人の研修会を行った。	2月25日	1	19
吉成チャイルドスクール・食育	体験学習をとおして食に関する意識を高め、食の安全や大切さを知ってもらうために調理実習を行った。	10月7日・11月11日・12月9日	3	50
吉成チャイルドスクール・サイエンス	ホバークラフトに乗る体験と模型工作を通して空気の力について学習した。	8月19日	1	21
吉成チャイルドスクール・工作教室	親子で協力して作業し、触れ合いの時間をもつことができた。	7月29日・8月4日・5日	3	38

市民企画会「ぼくらが地域でできること」	子どもの目線で地域にかかわる方策を考えながら企画会をして、講座を開催した。	7月14日・8月23日・9月15日・11月17日・12月8日・2月9日	6	31
老壮大学・きらめきスクール	健康体操・音楽・環境など様々な講座を開催し、受講生同士の交流もできた。	9月1日・10月4日・11月1日・12月1日・1月12日・2月8日	6	187
地域交流ニュースポーツ体験会	市民センターと吉成・南吉成体振が連携し、子どもから高齢者まで参加できるニュースポーツ体験を通して地域間及び世代間交流を図った。	11月19日	1	67
伊達な郷土料理スクール	新興住宅地の吉成で、地元料理にふれたことのない方や若い世代に地元の味を伝え、参加者同士の交流をもった。	11月25日・12月2日	2	28
みんなのコンサート	地域の小・中・高・大学の吹奏楽部が合同で演奏会を開催し、演奏者同士や観客との交流を深めた。	1月13日	1	265
秋の天体観測会	子どもを含めた地域住民対象の天体観測会を開催したが、天候に恵まれず室内での講話になった。	9月14日	1	28
吉成出前サロン	中山吉成、南吉成町内会の集会所に赴き、市民センター利用者であるサークルを講師として、出前講座を開催した。	5月27日・1月19日	2	94
市民センターまつり	ステージ発表・作品発表のサークル団体と地域授産施設等の販売者、各種地域団体らによる実行委員会形式でまつりを開催、地域住民との触れ合いの場をもった。	10月22日	1	1,117
地域団体交流会(地域新年交流会)	地域で活動する団体や利用団体が一堂に集まり、情報交換をしながら交流することができた。	1月30日	1	49
地域懇談会	地域の課題を探り、解決を図るための市民センターの関わりを探ることができた。	11月18日・19日	2	10
地域で仲間づくり「ゲームパーティ」	市民企画会議「ぼくらが地域でできること」を経て、地域の子どもたちが学区を越え、ゲームをしながら仲間づくりをした。	12月3日	1	32

木町通市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、木町通小学校の全面改築に伴い、平成16年4月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の庭園として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅はほとんど見られなくなった。人口では若い単身世帯や乳幼児の子育て世代の20代を筆頭に30代、40代、50代、60代と続き、この地域の特性と言える。

都心の中の複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら講座を通して学びの場を提供することを目指している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	木町っ子に学ぼう伝統文化 ～茶道でおもてなし～		
参加者	どなたでも	参加延人数	37人
開催日	全2回 1月13日(金)、1月14日(土)		
協力者・協力団体	木町通学区連合町内会、木町地区社会福祉協議会、木町地区民生委員児童委員協議会、木町通小学校、木町通小茶道クラブ		
ねらい	木町通小学校の児童(4～6年生)17名が日本の伝統文化である茶道を学んでおり、学年の違う子どもたちが協力しあいながら、学んだ成果を地域の方、保護者に発表(茶道でおもてなし)することで異世代交流が図れ、日本の伝統文化を見直す機会とする。		
概要・成果	講師から、おもてなしの作法(お茶の点て方・運び方)や、お軸・茶花・茶菓等について学び、木町通小学校のクラブ活動に対し、地域の方々の興味・関心が高まった。また、あらゆる年代の人たちが伝統文化を通じて交流したことにより、木町通地域のコミュニティの幅を広げることができた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
きまち親子ふれあい広場	エネルギーへの理解と、親子のコミュニケーションを深めるため、調理実習を通してエコクッキングを学んだ。	1月21日・2月4日	2	38
子育てママの「ハッピーママ会」パート1	子育て経験者と子育て中の保護者が、震災後の子どもの様子や子育てについて話し合うなど、交流を実施。	7月26日・7月29日	2	12
子育てママの「ハッピーママ会」パート2	子育て経験者と子育て中の保護者が、ゆとりある子育てについての話し合いと親子ピクスを実施。	11月8日・11月15日	2	35
がんばってるママへご褒美！ほっこりママ茶の会	子育て中の保護者の仲間作りを目的に、講話・ヨガ・工作を実施。	1月25日・2月1・15・22日	4	41
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての学習会を実施。	1月28日	1	48

《青葉区》

木町通小学校 PTA 花火まつり体験！工 作コーナー	子どもから大人までの参加で、大いたどりの茎を使った「オリジナルの笛づくり」や、椿の実を使った「笛づくり」を実施。	9月16日	1	156
★出前講座 悠楽タイム	震災後の不安などの解消を図るため、二日町や八幡地域に出向き、「ストレッチ体操」や「ラフターヨガ」を実施。	7月7日・21日 2月16日	3	49
社会学級連携事業 認知症について学ぶ	認知症の正しい知識と対処法を理解し、地域で支え合える活動の意義について学んだ。	9月27日	1	17
木町通老壮大学	地域の高齢者を対象に、「おなかを切らずにできること・安心して暮らすため・動物園の動物たち・仙台弁の魅力・バランスのとれた食生活」の講話と健康体操の実施。	9月14日・10月12日・11月9日・12月14日 1月18日・2月8日	6	263
★木町通クリスマスミニコンサート ～ともに前へ～	震災後の地域の絆を深める、クリスマスコンサートを開催。地域の高校生による賛美歌・ハンドベルの音色を楽しんだ。	11月26日	1	50
社会学級連携事業会議	地域活性化に寄与・貢献できる企画について会議を実施。	7月12日・9月7日・9月27日	3	16
木町通市民センター・ 児童館まつり	地域の活性化と震災後の復興に向けた地域住民の交流を図るため各種地域団体、センター利用団体、児童館と連携しステージ発表、作品展示、出店、抽選会、児童館まつりを実施した。	10月22日	1	714
木町通地域懇談会	震災関係の話題を中心に地域の現況・課題について意見交換・情報交換を実施。	7月12日・11月2日	2	31
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域活動の記録化に向けた、地域状況の把握を実施。	4月1日～9月30日	20	80
市民企画会議	子育て支援をテーマに講座の企画・運営について会議を実施。	8月26日・9月8日・10月13日・2月22日	4	12

中央市民センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体として設置され、その後、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定されて「仙台市公民館」が発足した。各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には中央公民館と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には中央市民センター・公民館となったが、翌年には中央市民センターと改称した。

当市民センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。そういった立地条件から、最近増加している核家族とともに、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	介護予防講座 東口ますます元気教室 I II		
参加者	高齢者	参加延人数	279人
開催日	全13回 5月25日(水)、6月10日(金)、6月29日(水)、7月14日(木)、8月10日(水)、9月2日(金)、9月30日(金)、10月13日(木)、11月30日(水)、12月21日(水)、1月18日(水)、2月8日(水)、3月7日(水)		
ねらい	健康で自立した地域づくりのため、榴岡地区包括支援センターと共催で、地域の人材等の協力をもらいながら、介護予防に必要な学習をする。また、学習の機会を通じて、交流を深めることで、より一層地域への定着を図る。		
概要・成果	学習の内容は、介護予防のための軽体操や健康に関する講話などだが、2年目となった今年度は、近所の人同士誘い合って参加するなど、講座の中で楽しそうに話をする姿が多く見られ、交流が深まっている様子がうかがわれた。地域の活動団体や人材の協力、民生委員からも継続的な声掛けの協力をもらい、高齢者の孤立解消や介護予防の機会として地域に定着してきている。さらに参加者の多くからは、もっと積極的に取り組みたいとの声があり、運動サポーターを中心に自主活動も始まっている。		

〔平成 23 年度 (地区館) 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
和みカフェ ～子育てを楽しもう	親子で手遊び、歌遊びや親子ピクスをし、託児をつけて子育ての相談や、読み聞かせを学んだりもした。	6月30日・7月12日・9月8日・10月13日・11月10日	5	16
東口ゆうえんち	市民スタッフの企画運営で、地域の小学生がフリスビードッチや白玉団子づくり、お化け屋敷など、学校や学年を超えて楽しく遊んだ。	9月23日・11月26日・2月25日	3	74
人生がきらめく『整え力』	震災後の混乱した日常を元にもどし、明日に向かうために、整理術やヨガ、コミュニケーション術を体験しながら、心と体を整えるヒントを学び、参加者同士交流した。	12月1日・15日・1月19日・2月2日・16日・3月1日	6	215
駅東を語り継ぐ	仙台駅東口周辺の様子を、資料や住人の話から振り返り、昭和から平成への移り変わりや地域に対する思いなどを共有した。ロビーで写真や古地図等を展示した。	1月21日	1	36

≪宮城野区≫

地域連携介護予防講座 まざらいんカフェ	地域で活動している NPO 法人ゆうあんどあいとの連携で、双方の施設を利用して、手作業や軽体操などをしながら、地域の高齢者が交流した。	7月20日・8月31日・9月21日・10月19日	4	41
★地域の絆再生プロジェクトスタートフォーラム	震災後のいろいろな人たちの行動や活動の報告から、絆と協働を生かす地域のあり方を考えた。	9月24日	1	99
★地域懇談会～明日の災害に備える～	防災をテーマに情報交換をし、次への備えの第一歩として顔を合わせる機会とした。	12月16日・2月9日	2	25
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域の対応や、復興状況について情報収集し、まとめた。	通年	—	—
つつじがおかワイワイまつり	「榴岡かいわい学びのコミュニティ推進委員会」として、紙相撲、昔遊びや餅つきなど、地域の小学生には学年を超えた遊びの機会を、高齢者や中学生にはボランティアの機会を提供した。	8月27日・1月28日	2	750
ふれあいコンサート	地域の方が気軽に音楽に親しみ集う場として、音楽団体の発表の場として、アンサンブルや声楽、朗読などのコンサートをした。	6月25日・7月30日・9月17日・11月19日・1月14日・3月10日	6	539
ビジネス講座企画会	企画スタッフとして話し合い、「人生がきらめく整え力」の講座を企画運営した。	9月～3月	15	77
東口ゆうえんち企画会	企画スタッフとして話し合い、「東口ゆうえんち」の講座を企画運営した。	8月6日・9月23日・10月29日・11月13日・26日・1月28日・2月18日・25日・3月4日	9	114

高砂市民センター

〔沿革〕

昭和 43 年、仙台市高砂小学校校舎を改築し、高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には近年大型複合施設、大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んでいる地域である。平成 23 年 3 月に発生した東日本大地震により、沿岸部が津波で大きな被害を受けたが、11 月に策定された仙台市震災復興計画のもとで、現在急ピッチで復旧復興が進んでいる。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★たかさご寺子屋 仮設住宅編		
参加者	仮設住宅入居者	参加延人数	744人
開催日	全21回 平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年 3 月 11 日		
協力者・協力団体	仙台市宮城野消防署 高砂分署、資生堂販売株式会社、社会福祉法人 仙台いのちの電話、JA 仙台、東北電子専門学校、静岡市オフロードバイク隊		
ねらい	地域の仮設住宅では各々コミュニティづくりに取り組んでいるが、各自が自分の意見を発言できるような環境になるまでには、かなりの時間が必要に思われる。センター避難者の「生きる力」を積み上げる一助として行った「たかさご寺子屋」を仮設住宅で行い、被災者の前を向いて生きる力を引き出す。		
概要・成果	「一日一日前進してもらいたい」ただその気持ちで開催した講座だったが、被災者の希望をくみ取りながら、仮設住宅での生活にかかせないもの、その生活にすこしでも潤いを与えられるものを組み合わせ進めることができた。センターに対する注目・関心を集め、信頼を得ることもできた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
地域子育てサロン出前講座「親と子のホットタイム」	地域の「子育てサロン」の開催日に合わせて、親子ふれあいの講座を出前開催し、市民センターから離れている地域の親子がふれあいながら学べる場を設ける。	9 月 8 日・10 月 7 日・11 月 11 日	3	80
★たかさご寺子屋	避難生活も 50 日を過ぎ、明日の生活の構築を考えると緊張感と焦燥感は絶えずつきまとい、避難者のストレスも大きい。「すこし学ぶ」ことを積み上げることによって、生きていくことを再考してみる。	5 月 19 日～7 月 29 日	10	84
地域小学校連携講座「夏休み学びの講座」	地域小学校・地域・保護者と連携し、センター利用サークル等による色々な分野の講座の開催により、夏休みの児童に「開かれた学校」として学びの場を提供する。	8 月 2 日・5 日・9 日・19 日・23 日・26 日・30 日	7	203

宮城野区インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する、児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション・ゲーム等の学習をし、子ども会活動の充実を図ることを目的とする。	2月18日	1	32
七北田川沿いでノルディックウォーキング	ノルディックウォーキングを体験・実践することにより健康維持と増進への意識を高める。	11月12日・19日・26日	3	17
★高砂学びのサロン	地域全体が被災を受けた状態の中、新たなコミュニティを形成するため、学びを通じたサロンを開催し、被災者の支援とケア・地域の交流を図っていく。また、働く人のために土曜日にも開催する。	10月12日・11月10日・12月8日・1月12日・2月17日・3月10日	6	90
高砂老壮大学	地域の高齢者が、生き生きと生活するために生きがい、健康、教養を中心とした学習の場を提供すると共に、受講生同士の交流と親睦を図る。	9月7日・10月6日・11月9日・12月7日・1月11日・2月15日	6	908
★伝統の仙台七夕作り 復興への絆 仙台七夕に祈りをこめて	復興もまだ見通しがたっていない現在、仙台伝統の七夕を創ることにより、被災者の気持ちを慰め、復興への希望と絆をつくっていく。また、共催により区内の震災の被災状況の共有することができる。	6月21日・28日・7月14日・21日	4	162
★地域の“絆”再生プロジェクトスタートフォーラム	フォーラムを通して地域や避難所、仮設住宅等の生活圏での「地域の絆模様」どうだったのか確認・検証を行い、コミュニティ先進のまちづくりに一歩踏み出すための手掛かりを得る。	9月10日	1	92
高砂市民センター「土曜ロビーコンサート」	地域住民が主役のコンサートやゲストによるコンサートの開催により、地域住民が気軽に集うことのできる交流の場を提供する。	12月10日・24日・2月4日・18日	4	236
★みんな笑顔でつながろう	高砂地区でも地域の活力を引き出し、地域住民が少しでも元気になる、笑顔を取り戻せるように多くの人たちが集まり交流を深めていくことを目的とし、高砂地区社会福祉協議会と共催し復興に繋げていくまつりを開催する。	12月17日・3月24日	2	2,100
あなたの町と市民センター懇話会	地域住民を対象とした懇話会を開催し、情報収集や地域課題の掘り起こしを行うとともに、課題解決に向けて協働できることを模索する。	7月9日・10月26日・2月2日	3	73
★東日本大震災後の地域活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、利用者・町内会等各種団体から情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	通年	1	42
読み聞かせボランティアフォローアップ講座	近隣小学校の要望に応え、読み聞かせボランティアの育成を図り、児童の読書活動推進と学習成果地域還元につなげる。	1月19日・26日・2月9日・16日	4	58
市民企画会「高砂の地元学ーおらほの歴史さがしー」	地元学に関する企画会を開催することにより、自分たちの地域の歴史的な課題を見つけ、解決法を探ることによりさらに学びを深める。	11月11日・18日・25日・12月2日	4	16

岩切市民センター

〔沿革〕

当市民センターは昭和24年仙台市に設立された7つの公民館の一つで、平成2年「仙台市市民センター条例」により市民センターと名称が変更された。昭和56年12月に現在の建物が建設され、平成18年6～12月に大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターの他に、保健センター、老人憩いの家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成22年3月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	●いわきり de 子育て～もっと知って岩切パート3		
参加者	岩切地区在住の未就学児とその親	参加延人数	235人
開催日	全2回 7月13日(水)、11月9日(水)		
協力者・協力団体	宮城野区家庭健康課、宮城野区まちづくり推進課、仙台中央市民センター、岩切児童館、岩切保育所、東光第2幼稚園、地域の子育てサークル12団体		
ねらい	JR岩切駅周辺の再開発に伴い、子育て世代の転入が増加している。新たに岩切に転入してきた子育て中の方へ、旧来の良好なコミュニティが存在している岩切の地域の特徴を紹介すると共に、地域での仲間作りの一助とし、子育てしやすい環境を作ることを目的とする。		
概要・成果	家にこもりがちな親子、震災後は不安を抱える保護者も多く、子育ての悩み等を保健師に相談するなど、地域団体の連携効果は大であった。参加者にも好評で次年度開催への期待も多かった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
岩切子育てルーム	地域にある子育てサークルに、親子ふれあい遊びや、ベビーマッサージ講座を出前開催し、サークルの活性化と子育て支援を図った。	1月17日・2月9日・13日	3	142
インリーダー研修会	地域の子ども会活動の活性化を図る為、これからリーダーとして活動する児童、世話人を対象に必要な知識を学習する機会を提供した。	2月4日	1	38
新春 囲碁・将棋大会	子ども達の学校5日制の有効活用及び、地域の囲碁将棋名人達を指導者に、世代間交流を行った。	1月21日	1	10
伝承あそび	祖父母との接点が少ない保育所の子ども達を対象に、昔遊びを通し世代間交流を図った。	12月15日	1	80
ノルディックウォーキングで自然散策！	県民の森を会場に、ノルディックウォーキングでの健康作りと、岩切地域の豊かな自然の魅力再発見を目的とした講座を開催した。	9月15・23日	2	47

南北朝と岩切城合戦	「岩切城の戦い」から、都と東北の繋がりを学び、更に地域の魅力を再発見した。	1月28日	1	100
岩切老壮大学院	震災の影響が大きく、今年度の学習は実施せず。22年度の修了式が未実施であった為、そののみ実施となった。	3月7日	1	86
●すずむし リンリン講座	仙台の虫、「すずむし」の普及活動に併せ自然環境に興味関心の啓発とまちづくり考える提案を図った。配布・交換会、小学校への出前授業等も実施した。	7月30日・ 9月2日	2	264
地域の絆再生プロジェクト スタートフォーラム	震災発生から今日まで地域の様々な場面で見られた絆模様を確認し、これからのまちづくりへの提案を図った	9月24日	1	99
家庭教育地域交流会	岩切地域の6団体が情報交換を行い地域の諸問題の共通認識を持ち、解決のための講座企画と実施を図った。	9月22日・10月27日・11月26日・1月27日	4	50
●岩切子育て講座 企画会議	21年度から続く子育て支援事業として、地域の子育て関係各団体と講座の内容・実施等について話し合う企画会議を開催した。	5月27日・6月16日・8月10日・31日・9月14日・10月19日・1月20日	7	87
岩切小学校地元学地域連携事業	岩切小学校 1年生を対象に、地元に残る民話のお話し会や、併せて昔あそびの伝承を開催した。	12月6日	1	178
★もっと元気に！ 韓国舞踊団「柳会」 岩切公演！	震災により物的精神的に被害を受けた住民の為に、韓国舞踊団の公演を実施し勇気、希望、活力を取り戻す為の一助とした。	11月26日	1	120
★楽しくたおう！ Xmasコンサート！	震災で傷ついた地域の皆さんの元気を取り戻せる様、世代を超えた、ふれあいコンサートを実施した。	12月17日	1	51
地域懇談会	今後の事業運営に活かす為、地域作りや地域課題について情報交換を行い、今後取り組むべき課題を見出した。	10月1日・ 2月23日	2	13

鶴ヶ谷市民センター

〔沿革〕

当センターが所在する鶴ヶ谷地区は、東北最大級のモデル団地として、昭和 43 年入居を開始した新興住宅団地である。当館は、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として昭和 47 年 5 月 22 日に開館した。

その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を受け各種の講座が開設されることとなるが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年、市民センター・公民館として発足してからのことである。

平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点として機能している。なお、温水プールは、平成 11 年 4 月から外郭団体へと管理が委託されている。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により使用不能となり、平成 24 年 3 月より会議室 2 室を備えた仮事務所で生涯学習事業を行っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★出前講座「君もプチレスキュー」		
参加者	中学 3 年生	参加延人数	484人
開催日	全6回 7月19日(火)、10月3日(月)、10月25日(火)、11月2日(木)、11月14日(月)、 11月15日(火)		
協力者・協力団体	鶴ヶ谷中学校、西山中学校、西山小学校、西山中学校区町内会、宮城野消防署、救急サポートセンター、ドコモショップ泉店、東北福祉大学ボランティアセンター、鶴ヶ谷地区民生委員児童委員、地域ボランティア		
ねらい	鶴ヶ谷地区は高齢化が進んでいるため、高齢者・弱者に配慮したまちづくりが課題である。東日本大震災では、避難所となった中学校で本講座を受講していた卒業生等がボランティア活動を行い、地域の人々に高い評価を得た。若い層の力を必要としている地域事情を考慮し、中学 3 年生を対象に避難所運営に必要な知識・技能を体得させ、いざという時、地域の一員としてボランティア活動ができるように意識付ける。		
概要・成果	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話「避難所生活における中学生のかかわりかた」 <p>【避難所生活に必要な実技体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設トイレ組立訓練・災害伝言ダイヤル体験・AEDを含む救急救命講習 ・災害弱者疑似体験・災害図上訓練 <p>学校・関係諸団体の協力により充実した講座内容となり、受講生から「いざという時は学んだことを生かしたい」との感想が多く聞かれ、中学生の防災意識高揚に大きな効果があった。西山中では、避難所開設経験を踏まえ、町内会長や西山小学校 6 年生にも参加を呼びかけたので、地域の防災活動に対する理解の輪が広がった。</p>		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化のための知識と技術を学んだ。 ・講話「子ども会における世話人の役割」 ・演習「ゲームのリーダーになろう」など	2月18日	1	64

つるがやキッズクラブ	グループ活動、学区を越えての仲間づくり、高校生やジュニアリーダーとの交流を通して子どもたちの健全育成を図った。 ・ジュニアリーダーと遊ぼう ・楽しい科学実験(仙台三高にて)	12月17日・3月3日	2	50
キャップハンディを体験しよう!	障害者に対する理科を深め、弱者支援の手段・接し方などを学んだ。 ・聴覚障害について・手話について ・視覚障害について・白状体験 ・年を重ねるとのこと・弱者体験	9月8日・10月5日・20日・27日・12月6日	5	268
鶴ヶ谷ことぶき大学	高齢者の生きがいづくり、社会参加の促進のため、月1回の定例講座を開催。 ・宮城野区長講話・医療講話・歴史講話・国際交流講話・民謡コンサート・現地講座など	7月15日・8月24日・9月3日・10月19日・11月16日・12月14日・1月18日・2月15日	8	399
★伝統の仙台七夕作り 復興への絆 仙台七夕に祈りを込めて	東日本大震災を踏まえ、仙台伝統七夕を作ることで復興への希望と絆をつくっていく。また、宮城野区内4市民センターが連携することにより復興への絆を深めた。 ・鶴ヶ谷地区での七夕飾り作り ・講話と茶話会(高砂市民センターにて)	6月16日:30日・7月7日・14日	4	110
ひょうたん沼を知ろう	秋と冬の2回、地域にある「ひょうたん沼」を観察し、自然保護・環境保全について考えた。	10月22日・1月28日	2	25
★女性のための防災学	大震災の反省を踏まえ、今後の防災に役立てるため、女性を対象に防災に関する知識を学ぶ講座を開催した。 ・講話「3.11から学んだこと」 ・ワークショップ「鶴ヶ谷地区の白地図を囲んで」	11月21日・22日	2	25
●宮城野区役所連携「鶴ヶ谷地区健康まちづくり事業」	区役所と連携し、幅広い年代の方々が健康で安心して暮らせる魅力あるまちづくりを進めるため、健康づくり情報紙の発行をした。 また、編集会議を通して鶴ヶ谷地区の健康まちづくりについて話し合った。	8月9日・9月22日・10月13日・11月7日・29日・12月19日・2月28日	7	90
★地域の“絆”再生プロジェクトスタートフォーラム	大震災から学ばべきもの、これまでの取り組みや備えに欠けていたものを明らかにし、絆と協働を最も生かせる地域の在り方を共に考えコミュニティ先進のまちづくりに一歩踏み出すための手がかりとした。 ・基調講話・事例発表と提言	9月24日	1	99
★鶴ヶ谷市民センターまつり「地域の絆コンサート」	大震災の影響で従来の形でのセンターまつりの開催が困難となったため、センターまつり実行委員会と地域諸団体の協働によるジャズコンサートを開催し、世代間交流の場を提供するとともに地域活性化を図り、絆を深めた。	10月1日	1	292
鶴ヶ谷市民センター地域懇談会	センターの事業・運営に対する提案や地域情報・課題について意見交換会を実施した。	8月8日・3月24日	2	54
★東日本大震災の地域の活動記録	大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を把握するため、聞き取り調査などによる情報収集を行った。記録にまとめ、今後の地域づくりの資料とする。	6月24日・29日・8月9日・9月27日・28日	5	77

榴ヶ岡市民センター

〔沿革〕

日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和48年6月に開館し、平成元年4月に公民館が併設され翌年4月に榴ヶ岡市民センターに改称された。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園の東側に位置し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館・国の合同庁舎・クリネックススタジアム宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されてきたが、平成24年7月31日に本館を閉館。同年8月28日には榴岡公園軽体育館の名称を榴ヶ岡市民センターへ変更した。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★榴ヶ岡ひだまり文化祭		
参加者	市民センター利用サークル及び地域住民	参加延人数	837人
開催日	全3回 3月1日(木)、3月2日(金)、3月3日(土)		
協力者・協力団体	五輪町内会、センター利用サークル		
ねらい	震災の影響で長く閉館していたセンターが開館するにあたり、「心ひとつに一步前へ」をテーマに、地域の方々の集いの場の復活と震災後の心のケアと地域の絆を深めるため、センター利用団体による文化祭を開催。		
概要・成果	サークル利用団体によるステージと展示発表やゲストの歌とトークショーが行われた。地域で活動する団体に活動の場を提供し、また共に集うことで交流と癒しの場を設けることができた。さらに地域に活動するサークルや多彩な人材がいることを、参加者同士がお互いに理解できた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
榴ヶ岡おはなしの部屋	地域に住む若い世代の親子を主な対象に、読み聞かせや手遊びなどを通して、親子のスキンシップや参加者同士の友達作りを図る。また、これにより、絵本に関する情報提供と絵本を通して充実した子育てを目指す。気軽に参加できるように当日直接参加とする。	8月5日・10月7日・3月2日	3	57
地域が伝える「平和学習」	戦争体験者である地域の高齢者が、特に仙台市内における戦時下の学校や家庭での生活、空襲時の様子、また、戦後復興に至るまでの体験を話し、子どもたちに平和の大切さを伝える。	11月9日・12月8日	2	186
インリーダー研修会	地域の子ども会の活性化を促進するために、子ども会リーダーとして活動する児童および世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション・ゲーム等を学習する機会を提供する。	2月4日	1	73
●未来に遺そうずむしの里	貴重な財産を後世に引き継ぐために、ずむしの事業に取り組んでいる。広く市民との交流を深め「ずむし里づくり」を推進する。小学校への出前講座を通して、子どもたちに小さな命の大切さを学ばせる	8月4日・9月6日	2	166

榴ヶ岡老壮大学	長寿高齢化が進み、社会の仕組みや生活習慣も技術の発達等により変化している。社会状況の変化に対応する現代的課題・人生を豊かにしていく教育講座・健康に過ごす為に学習し、又相互の交流も図っていく。	通年	9	650
みやぎのはぎ楽舎 ～地域と学ぶ～	みやぎのはぎ楽舎企画検討委員会で企画した事業の開催。学びを通し、地域のコミュニティーづくりを推進し、市民センターと相互に企画検討した地域課題やニーズに即した講座を開催する。近隣の町内会にも情報を提供する。	9月7日・11月25日・12月8日	3	54
みやぎのはぎ楽舎検討委員会	学びを通して、地域のコミュニティーづくりを推進し、市民センターと相互に講座を企画検討する。地域の課題やニーズに即した講座の開催を運営すると共に、公開講座を企画し近隣の町内会にも情報を提供する	5月19日・6月16日・7月22日・9月6日	4	19
「萩こぼれて」企画検討委員会	榴ヶ岡市民センターと管内4社会学級が共催し、地域の課題やニーズを探り、地域コミュニティ活性化を図るために、地域への情報発信および地域活性化を図る事業を検討し、必要な学びと交流の場を提供するための事業の企画・運営につなげる。	6月3日・17日・7月22日・12月6日・20日・1月18日	6	54
榴ヶ岡市民センター・軽体育館懇談会	榴ヶ岡市民センター及び榴ヶ岡公園軽体育館両館に範囲を広げ、利用者、町内会役員、地域住民など各層の方々と地域課題の共有・解決にむけて意見交換を行い、地域ニーズに合う事業展開と地域づくりに反映させる。	9月17日・2月17日	2	17
スターパーク☆榴ヶ岡 星座観察会	子ども達が、家族や地域住民と、天文に関する共通の体験活動を行うことにより、相互のコミュニケーションを深めるとともに、自然科学分野への学ぶ意欲を醸成する。また、会場を小学校校庭とすることで、夜間でも子ども達も保護者も安心して参加できるようにする。	10月20日	1	15
原町小学校区地元学	榴ヶ岡市民センター・仙台市立原町小学校が軸となり地元学推進委員会を形成し地域の協力を得ながら、宮城野区で培われた地元学を生かし、地域住民と小学生の交流を深め、地域の歴史・文化・暮らし・人材・産業・交通などの地域資産について学んでいく。	7月14日・21日・29日	3	197
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	通年	2	—
「萩こぼれて」企画検討委員会講座 わたしの心 開けゴマ	東日本大震災を経て、榴ヶ岡市民センター管内の4社会学級と榴ヶ岡市民センターで構成する企画委員会で、地域が元気になるために話し合いを重ねた。今年は“心が明るくなり笑顔になれるもの、また健康につながるもの”として参加型・体感型のイベントを提供し、地域住民の交流を図り、心とからだの復旧の一助とする。	10月23日	1	74
★地域の“絆”プロジェクトスタートフォーラム	大震災発生以降、今日に至るまで、“地域の絆”が注目されている。生活圏での“地域の絆模様”がどうだったのか確認・検証を行う、最も生かせる地域のあり方を共に考え、まちづくりに一歩踏み出すための手掛かりを得る。	9月24日	1	60

東部市民センター

〔沿革〕

昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に全面改装され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。

当市民センターは、宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。付近には、東仙台・苦竹・原町などそれぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。近年、新田や新田東地区の人口増加により館利用管轄地域の範囲が広がってきている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	中学生地域貢献講座企画会議		
参加者	仙台市東仙台中学校 生徒	参加延人数	161人
開催日	全6回 6月22日(水)、7月20日(水)、8月1日(月)、8月3日(水)、8月5日(金) (同日、複数開催あり)		
協力者・協力団体	仙台市立東仙台中学校 防犯ボランティア「スーパーアルカス」/宮城県仙台東警察署		
ねらい	東日本大震災や災害後のさまざまな体験を踏まえ、東仙台中学校の生徒会や防犯ボランティア「スーパーアルカス」有志を核として中学生が地域課題(防災・防犯)のためにどのような事が出来るかを考え、講座の企画運営をする。		
概要・成果	本年度は、地域の高齢者向けに中学生自身が防犯講座を企画・演出・公演を行った。中学生が資料をもとに地域の現状と課題を検討し、脚本作成する等地域への視点を持つ目を養い、社会性の獲得に繋がった。また、市民センターが関与することで多様なネットワークの構築となっている。これにより、地域の高齢者をはじめ住民が中学生の防犯活動を通じたボランティア活動を知るきっかけとなり、異世代交流と中学生の地域貢献の意識向上が図れた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
種から作ろう「大根極み料理」	畑の土づくりや種まき、間引き、草むしりをし、大根を育てる。育てた大根を無駄なく生かす調理の実施。	9月10日・10月8日・11月12日・12月10日	4	68
インリーダー研修会	世話人向け講話「子どもの現状と子ども会」。児童向け講話・実技「子ども会とインリーダー、行事プログラムの作成」、レクリエーションゲーム。	2月4日	1	26
東部こどものひろば	ボードゲーム、太鼓・三味線・皿回し・布芝居、地域の高齢者との昔あそび、人形劇	7月30日・12月22日・1月20日・2月9日	4	358
広げよう！緑のカーテン	緑のカーテンについての講話、ネット作成、苗及び種植え。芽止め・追肥・草取り。収穫した野菜の調理。	6月16日・7月21日・30日・8月18日	4	25

シニアエンジョイスト レッチ	高齢者に対しての、無理なく楽しくできるストレッチ体操の実技と、生涯現役で過ごすための毎日の生活についての講話。	7月6日・8月3日・9月7日・10月5日・11月2日・12月7日・1月11日	7	130
東部いきいきスクール	震災を経ての講話、いきいき市民健康プラン、調理実習、気象台・歴史民俗資料館見学、地底の森ミュージアム見学、クリスマス交流会、邦楽コンサート、文学講座土井晩翠の生涯、ジャズコンサート	6月15日・7月20日・9月21日・10月19日・11月16日・12月21日・1月18日・2月15日・3月7日	9	258
★高齢者のための「おひとりさまの防災・減災術」	高齢者に即した防災の講話と、東日本大震災を体験した話し合い、「私はこうして凌いだ」から学ぶ震災時に役立つものは何かを実演・試食を含め共に考える。	5月20日・3月7日	2	22
東仙台中学生企画防犯講座「気をつけて！ふりこめ詐欺」	中学生の企画・台本による、地域高齢者が振り込め詐欺などに巻き込まれないよう防犯寸劇の実施。	8月5日	1	45
ふるさと梅田川から祈りを	命の大切さや震災前後の梅田川についての講話、CDの視聴による梅田川の生態系の変化、川から拾った石に絵を描きまつりに展示。	9月17日	1	17
★伝統の七夕づくり～復興の絆 仙台七夕に祈りを込めて	仙台伝統七夕の由来を学び、ミニ七夕と和紙を染め、オリジナル吹き流しを作成。講話「東日本大震災の教訓避難所運営について」。各館で作った七夕飾りの交換と、展示。	6月18日・21日・22日・7月7日・14日・8月5日	6	125
★地域の“絆”再生プロジェクトスタートフォーラム	基調講話「この震災からコミュニティ先進のまちを生み出す手立て」と事例発表と提言、参加者のテーブル懇談・提言	9月24日	1	96
★平成ミュージアム商店街	幼稚園・保育園・小学校・宮城野高校生の絵画を市民センターだけでなく、近隣商店に展示する。	12月15日	1	94
東部ふれあいまつり	当市民センター利用サークルの作品展示と舞台発表と小中学生の作品展示、バザー、模擬店、抽選会	10月2日	1	1,100
★心を癒すコンサートIN 東部	震災後の心を癒し、音楽を通して地域の復興を目指すコンサート。クリスマスコンサート・蓄音機による音楽鑑賞・ギターコンサート・街角コンサート(チェロ・ピアノ)	12月24日・1月21日・2月25日・3月10日	4	141
★東部市民センター地域懇談会	東日本大震災の体験をもとに地域の課題や今後についての話し合い。新田地域の情報交換と地域課題についての話し合い。	6月24日・25日・2月11日・18日	4	43
★東日本大震災後の地域の活動記録	懇談会・窓口などでの大震災後の対応復興状況を正確に把握するため情報収集及び記録する。	通年	—	—
市民企画「ふるさと梅田川」	地域の資源である梅田川を守り受け継ぐための具体的な講座を企画会議と準備、講座の実施、反省会	6月24日・7月5日・29日・8月10日・26日・9月9日・17日	8 (*)	49

(*)同日複数開催あり

幸町市民センター

〔沿革〕

平成5年4月20日、地域住民の長年の念願が叶い、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。

当施設がある幸町中学校区は、近年大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大楯地区と、与兵衛沼、柊江の森などの緑豊かな自然に恵まれた柊江地区からなる。仙台市ガス局をはじめ、県・市障害福祉センターなど公共施設やきぼう園、いずみ授産施設などの福祉施設とともに、国、県、市の公団住宅があり、民間も含め、集合住宅が多い地域でもある。ここ数年で地域の環境は大きく変化し、住民として、子育て中の世代や若年層の増加がみられる。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	地域で広げようふれあいの輪 笑顔をみがこう☆ふれあい講座		
参加者	地域住民	参加延人数	150人
開催日	全4回 2月23日(木)、3月1日(木)、3月8日(木)、3月18日(日)		
協力者・協力団体	宮城県障害者センター		
ねらい	東日本大震災の体験をし、混乱の中、地域のコミュニティの大切さを再認識した。さまざまな立場の方たちが支え合いながら暮らす中で、障がい者の方が感じていることや地域の中で求められる支援のあり方を、地域の方と障がい者の方との交流を通して探り、豊かな地域のコミュニティづくりを目指す。		
概要・成果	東日本大震災を体験したことから、地域の絆を深めることを目標に「地域の方」と「障がい者の方」との「交流」をテーマにお互いに支え合うための講座として実施。講座の会場を地域内の障害者福祉施設で行ったことにより、幸町地域の施設であるということを実感できた。また、ハンディのある方とのふれあいによって、地域でたすけあう仕組みづくりの大切さに気付いた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
わいわい農園隊「野菜を育てて食べよう」	世代間交流を図りながら、きゅうり、なす、大根、かぶ等作りを実施。	6月15日・7月13日・8月18日・9月14日・10月19日・11月5日	6	115
さいわいどんぐりクラブ	体験学習として、地域探検、くん製づくり、クリスマスケーキ作り、昔あそび、ヒップホップ、カントリーダンスを実施。	5月28日・6月25日・7月23日・12月17日・1月21日・2月22日	6	118

仙台市子供会インリ ーダー研修会	子ども会活動に役立つ知識やレクレーション・ゲームを 学習する。	2月25日	1	58
幸町生涯大学	ひとり漫談、医療講座、軽体操、新年会、音楽等の講座 を実施。	6月16日・7 月14日・8月 11日・9月9 日・10月21日 2月16日	6	226
幸町市民センター地 域懇談会	地域町内会・利用サークル・諸団体による懇談会。各団 体の情報交換と地域課題についての話し合い。特に防 災や安全に対する話し合いを実施。	7月8日・11 月18日・2月 8日	3	32
学校へ行こう隊	幸町小学校で手話。幸町南小学校で戦争体験、しめ縄 でくり、昔遊び。柊江小学校で戦争体験などお話や指導 を実施	9月29日・10 月14日・11月 11日・12月9 日・2月15日	5	28
陽だまりサロン	地域住民の居場所作りのためのサロン。受講生の企画 による絵手紙・川柳・布ぞうり作り・調理など講座の実施 と茶話会開催。	7月15日・8 月19日・9月 9日・11月18 日・12月22日	5	54
★元気出して！コン サートin 幸町	震災後の心の癒しを目的として、親子対象のクラシック コンサートの実施、及び地域住民を対象に、新日本フィ ルのメンバーによる室内楽コンサートの実施。	9月6日・ 12月10日	2	163
★伝統の仙台七夕作 り 復興への絆 仙 台七夕に願いを込め て	復興の願いをこめて、七夕飾りを作り、各市民センター で作った七夕のパーツで、復興の願いをこめて七夕飾り を組み立てた。「東日本大震災による津波の被害状況 について」の講話も実施	6月23日・7 月1日・7月7 日・7月14日	4	87
幸町市民センター・児 童館ふれあいまつり	ステージ発表、展示、模擬店、環境コーナー、産直野菜 販売、児童館コーナーなどを実施。	12月11日	1	2,000
★市民企画「地域で 生かす減災の知恵」	市民企画委員による地域減災講座として、放射能につ いての正しい理解と、気象台の出前による異常気象の 講座を実施。またセンターまつりで、オリジナルハザード マップを展示。	12月11日・18 日・2月4日	3	20
★東日本大震災後の 地域の活動記録	幸町市民センター地域懇談会において、各町内会及び 各種団体から聞き取った記録をもとに、震災時における 地域の取り組みを記録。	通年	—	—
★地域の絆再生プロ ジェクトスタートフォー ラム	基調講演として「この震災からコミュニティ先進の町を 生み出す手立て」事例発表、提言、話し合いを実施。	9月24日	1	60
★絆プロジェクト第2 弾 宮城野区幸町 地区地域づくり総合 講座	基調講演として「住民の力を総結集する新しい地域内連 携・協働」東松島市、亘理町の方から事例学習のあとグ ループごとに話し合いを実施。	1月22日	1	22
★市民企画委員会	地域における防災をテーマとして、講座を企画するた めの企画委員会を実施。	9月8日～ 2月9日	9	65
ジュニアと遊ぼう	1回目は、小学生と一緒にくん製づくりを実施。2回 目は、小学生対象に、くん製作りを指導。	7月23日・ 29日	2	24
サポーター養成講座 すずむし飼育編	すずむしの里づくり事業を理解し、すずむしの生態と飼 育法を学習し、すずむし配布会、交換会に参加実施。	7月20日・27 日・9月29日・ 10月13日・11 月1日・8日	6	31

田子市民センター

〔沿革〕

平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館した。仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線(最寄駅: 福田町駅)や国道 45 号線等の交通利便性から人口が急増し、近郊都市化が進行している田子地域にある。施設規模としては児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホールや会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室があげられる。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設に恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材も豊かで、地域づくりに関する住民意識が高く、防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。

田子市民センターは、これらの立地要件を活かし、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★みんなで学ぶ地域防災		
参加者	田子中学校生徒・田子中学校区10町内会	参加延人数	721人
開催日	全2回 11月2日(水)、2月25日(土)		
協力者・協力団体	田子中学校、田子中学校PTA、田子中学校区10町内会、高砂地区第一民生委員児童委員協議会、福田町包括支援センター		
ねらい	田子中学校区10町内会と田子中学校が合同で防災訓練を行うことで、生徒と地域住民が出会い、発災時における協力体制とそれぞれの役割を認識する。参加者の地域住民としての意識を育み、地域活性化につなげる。 また、避難所運営ゲーム(HUG)を行い、災害時に地域の避難所運営のリーダーとなる人材を育成する。		
概要・成果	田子中学校と学区内の10町内会および市民センターが地域防災訓練実行委員会を組織し企画・運営。各町内会の一時避難所に地域住民と中学校生徒が集合し、町内会ごとに、中学生に期待する役割をふまえた独自の訓練(安否確認・車いす搬送・担架・リヤカー搬送など)を行った。有事の際に行動を共にする相手や各自の役割について、確認することができた。 また、各町内会長や防災担当者を対象に、避難所運営ゲーム(HUG)を行い、刻々と変化する避難所運営の問題と対処法について検討し、震災により浮き彫りになった避難所対応の不備を見直すことができた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
田子っこ親子クッキング	親子で餃子作り	11月26日	1	18
インリーダー研修会	* 児童向け・講話「インリーダーの役割と心構え」・実技「行事プログラムをつくろう」 * 世話人向け・講義「子ども会活動と世話人の役割」 * 合同実技「レクリエーションゲームの進め方」	2月5日	1	44
学びの杜	七北田川を遡上する鮭の採捕体験、採卵見学。受精卵を学校へ持ち帰り、孵化観察・稚魚飼育の後、放流。	11月1日・17日・2月1日・3月2日	4	374

介護予防教室	<ul style="list-style-type: none"> * 介護予防のための筋力・脳のトレーニング * 口腔のトレーニングと歯のケア * 健康寿命を延ばす献立づくり、調理実習 	10月1日・8日・15日	3	33
田子老壮大学	<ul style="list-style-type: none"> * 開講式・記念講話 * 川柳に挑戦 * 修了式・懇親会 * 介護予防のための軽体操 * ラフターヨガで初笑い 	10月12日・11月9日・12月14日・1月11日・2月8日	5	205
★仙台伝統七夕を作ろう！	折り紙の基礎・基本を学びながら、仙台伝統七夕の七夕飾りを作成、地域の方から提供を受けた笹竹に飾り付けセンターロビーに展示した。	7月6日	1	3
★地域の“絆”再生プロジェクト スタートフォーラム	<ul style="list-style-type: none"> * 基調講話「この震災から＜コミュニティ先進＞のまちを生ま出す手立て」 * 事例発表と提言 	9月24日	1	99
夏の講座	<p>地域の人材や学校と協力しながら、児童に交流と体験学習の場を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 朗読と紙芝居 * ダブルダッチ * 動物とのふれあい * 太極拳 * 日本画入門 * お点前体験 他 * すずめ踊り * 籐工芸入門 	7月22日～8月4日	10	268
たごっ子まつり	田子小・田子中ジョイントコンサート、ステージ発表・展示・模擬店等による地域交流	2月18日	1	2,000
田子市民センター懇談会	地域の課題とその対応方向を懇談会メンバーと市民センターにより定期的に話し合った。	6月7日・11月26日・2月25日	3	64
★東日本大震災後の地域の活動記録	懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集・記録し、今後の地域づくりの資料とした。	通年	-	-
図書ボランティアフォローアップ講座	<ul style="list-style-type: none"> * 図書室蔵書整備のポイント * 選書体験 	7月13日・10月26日	2	8
★植栽管理ボランティア養成・フォローアップ講座	<p>講話と実技</p> <ul style="list-style-type: none"> * 緑のカーテン植え付け・管理 * 植栽剪定のポイント * 花壇の手入れや植物の管理 など 	6月17日・7月15日・9月2日・16日・10月21日	5	42
市民企画会議「たごを愛する住民塾」	「高齢者支援」をテーマに地域高齢者対象のアンケート調査を企画した。	2月25日・3月14日	2	18
市民企画冠川地元学企画会	震災の影響により活動内容を変更。田子地区の年表づくり、ならびに自主サークルとしての運営について話しあった。	6月30日・7月1日・15日・29日・8月5日・19日・3月29日	7	42

福室市民センター

〔沿革〕

この地域は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。当センターは中野中学校区を管轄地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティー防災センターを併設。年々利用者も増加し地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	福室げんき村 げんきup講座		
参加者	福室市民センター集約避難所の避難者	参加延人数	850人
開催日	全32回（同日、複数開催あり） [4月] 14日(木)、18日(月)、21日(木)、24日(日)、27日(水)、28日(木) [5月] 2日(月)、4日(水)、14日(火)、19日(木)、25日(水)、31日(火) [6月] 2日(木)、3日(金)、4日(土)、7日(火)、9日(木)、11日(土)、14日(火)、17日(金)、19日(日)、20日(月)、21日(火)、28日(火)		
ねらい	震災後の生活再建に向けて気力や体力を振り絞りながら日々を過ごしている避難者に対し、市民センターのネットワークやノウハウを活かし、避難者の心身の健康維持や、避難所内のコミュニティづくりを図る。		
概要・成果	当市民センターを拠点としているサークルや、外部ボランティアの調整を図りながら、18団体・個人の協力を得て31コマを実施した。極力、避難者自身が参加できる内容を心がけ、避難者同士、あるいは避難者と職員の交流が進み、避難所の円滑な運営に多少なりとも貢献できたと思われる。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
市民企画講座「子育てママのほっこりタイム」	地域で暮らす乳幼児を持つ母親が企画員となった本講座。当事者のニーズを反映した①「親子でリトミック」と②「クッキング(託児付)」2講座。	12月16日・2月10日	2	16
キッズわいわいクラブ	地域の子どもたちにさまざまな体験の機会を提供し、異年齢同士の交流や仲間づくりを図る。	8月23日・11月16日・1月28日	3	133
インリーダー研修会	子供会活動に活かせる企画の組み立て方、世話人の心得、ゲーム体験などを行なった。	3月3日	1	51
学社連携事業	小学校と連携し、在籍児童が地域の人と交流しながら学びを深める講座(歴史ウォーク、昔あそび体験)、および、保護者が学ぶ講座(CAP体験)を行なった。	9月12日・1月24日・26日	3	228
KAREIカレッジ	利用の少ない世代の 40～50 代の女性を対象に、更年期障害などの自分自身の変化などこれからの年の重ね方を考える 2 回講座。	9月29日・10月13日	2	18

★歴史に見る仙台平野の災害	遺跡や記録に残る仙台平野の災害の歴史を学び、古人がどのように災害を乗り越えてきたのかを振り返る。	12月17日	1	44
福室老壮大学	「フルーツとピアノの調べ」「ゆらっくす体操」「講話「輝いて生きるために」「笑いヨガ」「うつくしい日本の童謡・唱歌」	9月14日・10月26日・11月30日・12月14日・1月25日・2月29日	6	434
地域の社会学級との連携事業	「みんなの輪コンサート」	1月27日	1	48
地域懇談会	センターまつり開催の検討や、地域の被災状況の確認、ならびに、地域のようす等、情報交換を進めた。	6月2日・7月15日	2	26
★ふくむろ和みサロン	「楽しく体を動かす体操」「癒しの音色トーンチャイム」「春色コンサート」	12月3日・3月4日・11日	3	157
第7回福室市民センターまつり	市民センター利用者による学習成果の発表と、地域住民の交流、並びに、地域の活性化を目的にまつりを行なった。	11月5日	1	2,500
ピザづくり	学びのコミュニティづくり推進協議会の行事として、小学生親子を対象に、ピザ作り体験を実施	9月10日	1	100
もちつき大会	学びのコミュニティづくり推進協議会の行事として、小学生親子を対象に、もちつき体験を実施	1月21日	1	100
★ふくむろ防災塾Ⅱ	東日本大震災の体験、反省を明確化した上で、地域に必要な防災体制の在り方を検討する。	12月8日・2月14日・3月24日	3	72
★市民企画講座「震災での学びを語り継ぐ」	震災での学びや教訓を聞き書きし、小冊子にまとめ、今後の防災に役立てる。	7月21日～3月16日	18	89
★地域の絆再生プロジェクト スタートフォーラム	地域の絆再生をめざし、東日本大震災後の地域の絆について事例報告を交えたフォーラムを開催	9月24日	1	100
地域の絆再生プロジェクト ステップアップフォーラム	フォーラムを開催し、コミュニティづくりの先進地域の事例紹介を通し、地域の絆再生のための事例について学んだ。	3月3日	1	100
市民企画会	震災以降の地域変化を考慮した講座の企画・運営を通し、地域への理解や愛着を深める。	7月21日・8月4日・25日	3	37
市民企画会「子育てママの企画会」	若いママ目線の講座による同世代の人的ネットワーク拡大を図るとともに、講座の企画・運営を通じた学びを支援する。	10月7日・25日・11月25日・12月2日・14日・1月13日・20日・27日・2月3日・24日	10	43

若林区中央市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、昭和53年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館した。その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変えたが、平成5年9月28日、若林区文化センターの新設に伴い移転し、現在の「若林区中央市民センター」となった。旧建物は、児童館・社会福祉協議会等との複合施設となり、「若林区中央市民センター別棟」として運営されている。

若林区文化センターは、市民センター・図書館・市政情報センターが併設されている複合施設であり、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●地域で暮らす～“隣は何をする人ぞ”でいいですか～		
参加者	成人	参加延人数	48人
開催日	全3回 1月12日(木)、1月19日(木)、1月26日(木)		
ねらい	孤独死や自殺が社会問題になって久しい。今回の震災でますます深刻化している。若林区の現状を把握し、その背景にあるものを探り、問題解決にあたる力を養うことで、地域コミュニティを活性化させて心豊かなまちづくりをめざす。		
概要・成果	1回目:報道記者の取材を通じた無縁社会の現実のお話 2回目:傾聴の活動を通じた体験のお話 3回目:若林区の現状と福祉ネットワーク設立のお話 地域への課題提起となる講座であった。参加者それぞれに地域への強い思いがあり、活発な意見が出された。また継続的に取り組んでほしいという前向きな意見もあり、次年度は別の角度から地域を考える講座を企画する予定である。		

〔平成23年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
家庭教育講座 小学生編もともっと子どもを知ろう!	ワークショップを通して子どもの持っている権利やコミュニケーションを考え、それぞれの子育てを振り返る。	2月10日・16日	2	13
親子で楽しむおはなし音楽会	冬をテーマに、絵本の読み聞かせとトーンチャイム演奏。	12月1日	1	75
仙台市インリーダー研修会	児童は、インリーダーとしての心構えの講話や、子ども会活動のプログラムの立て方やゲームの実技を学習。世話人は、世話人としての役割を学習した。	2月25日	1	85
子どもクッキング	小学生対象の料理講座。テーマは「おにぎり弁当をつくらう」「クリスマスのごちそうを作らう」。	10月2日・12月4日	2	30
サイエンスたまたま箱	エネルギーをテーマに太陽光発電と風力発電の仕組みを学び、ソーラーカーの製作や風力実験を行った。	11月27日・12月10日	2	12
こども夏まつり	「元気に楽しくあそぼう」をテーマに、ジュニアリーダーにもぐらたき、折り紙ボランティアに紙相撲や手裏剣の折り方を、読み聞かせボランティアには紙芝居や絵本の読み聞かせをしてもらった。	7月27日	1	442

●子育てママのスマイル生活(託児付)	心にゆとりを持った子育ての大切さについてのお話、カフェタイム。リラックスタイムとしてハンドマッサージとエクササイズを体験した。	11月18日・25日・12月2日	3	34
仙台七夕に願いを	仙台七夕七つ飾りのお話や実習。出来た七夕は文化センターのエントランスホールに飾り、来館者には短冊に願い事を書いてもらい多くの方に参加してもらった。	7月8日・15日・22日・29日	4	40
知りたい！子ども達のホントの気持ち	子どもの気持ち親の気持ちが伝わるコミュニケーションについてワークショップを通して学んだ。	12月9日	1	41
ノルディックウォーキングを楽しむ	ノルディックウォーキングの基礎知識や練習フォームを学び、市民センター周辺の散策をした。	9月3日・10日・17日	3	50
●南小泉老壮大学教養コース	文学・健康・歴史などの講話や消費者トラブルなどについての寸劇を入れた話、映画鑑賞会、邦楽の演奏会など	9月21日・10月12日・11月9日・12月7日・1月18日・2月8日・3月7日	7	532
●南小泉老壮大学健康コース	主に健康に関するお話や実技の他、映画鑑賞会、邦楽の演奏会など	9月28日・10月26日・11月16日・12月14日・1月25日・2月23日・3月14日	7	410
元気印のシニアになろう	シニア世代向けの運動を中心とした出前講座。	9月7日・30日	2	21
市民企画講座 民話のおくりもの～ 大人のための人形劇～	市民企画会「若中スタッフ会議」の企画による講座で、主に大人を対象にした人形劇の上演	3月17日	1	29
社会学級連携事業企画	南小泉小学校社会学級と地域課題を共有し、事業を企画立案し実施した。	9月14日・10月19日・11月8日・12月9日・15日	5	24
若林区中央市民センター学習発表フェスタ	地域サークルの方々のステージ発表やサークル作品展、資料コーナー体験コーナー、お茶席、おはなし会と絵本の展示	2月18日・19日	2	1,477
若林区中央市民センター事業懇談会「田んぼっ区懇話会」	市民センター主催講座の実施状況報告、震災に関連した情報交換、地域の話題や課題についての情報提供。	8月6日・11月19日・2月25日	3	13
★東日本大震災後の地域の活動記録	地域懇談会、利用者、町内会、各種団体などに震災時の状況を聞いたり、関連した意見や情報収集を行い記録した。	通年	1	40
読み聞かせボランティアフォローアップ研修	読み聞かせ会を開催するときのプログラムの立て方、紙芝居の演じ方、手遊びを学習。各々実践してみて、先生から指導を受けた。	7月8日・10月18日	2	25
市民企画会 若中スタッフ会議	地域住民(およびセンター職員)による講座の企画・運営	10月5日・11月17日・12月13日・1月20日・2月14日・3月17日	6	18

七郷市民センター

〔沿革〕

地元住民の要望により七郷公民館として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターの複合施設として開館。平成元年には、七郷公民館・市民センターと呼称し、若林区の拠点館となる。平成 2 年七郷市民センターと改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月大規模改修工事を終え、リニューアルオープンした。

近年、荒井土地区画整理事業により新しい街並みが形成され、加えて地下鉄東西線整備事業も荒井起点ルート決定で、市民センターの果たす役割は大きくなっている。新旧住民が交流しながら発展する街づくり、文化づくりに市民センターは機会と場を提供している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	第 28 回七郷市民まつり		
参加者	地域住民	参加延人数	12,000人
開催日	全 1 回 11 月 27 日(日)		
協力者・協力団体	連携:七郷地区連合町内会、七郷学区民体育振興会、社会学級、婦人防火クラブ、JA 他		
ねらい	市民センターを利用している団体やサークルに学習成果の発表の場を提供し、生涯学習活動への意欲を高める。地域内外住民との交流の場とし、地域の活性を促す。特に、震災後、休止していたサークル活動活性化へのきっかけとする。		
概要・成果	東日本大震災の影響で例年2日間開催のまつりを1日のみ開催したが、天候にも恵まれ、前年度並みの参加者で大いに賑わった。例年は足を運ばない荒浜地区の方も多数参加し、地域が一体となった。(保健センターおよび児童館まつり同時開催)		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育て応援講座「育児は育自、みんな悩んで親になる」	自分たちで答えを導き出す手法により、子育ての不安や悩みを解消する場、及び情報交換の場を設けた。	10月6日・13日・20日	3	10
七郷子どもクラブ	「紙飛行機であそぼう」「クリスマスケーキをつくろう」「天体観望会」で学校以外での様々な活動の場を設け、新たな人間関係を築ききっかけを作った。	10月8日・12月3日・1月20日	3	63
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション・ゲーム等を学習する場を設けた。	2月25日	1	39
ボッチャクラブ	バリアフリースポーツ「ボッチャ」を楽しむことで障害者、震災の被災者、地域の方々等参加者間の交流及び障害者理解の場を設けた。	9月17日	1	23

七郷老壮大学	地域の高齢者が日々生き生きと元気に生きがいを持って生活できるために、地域の歴史、音楽、健康等についての学習の場を設けた。	10月12日・11月16日・12月14日・1月11日・2月15日・3月14日	6	427
★七夕飾りを作ろう	七夕飾り作りを通して、震災で避難されている方々と子どもたちとの交流の場を設けた。	6月4日・11日	2	24
★体をほぐし地縁と知縁を育もう「体操でリフレッシュ」	仮設住宅で過ごす被災者の方々が、孤立しないよう、体操を通してコミュニケーションを図った。	8月2日・9日・23日・30日	4	62
★七郷学びの応援隊企画講座「骨盤体操でスタイルアップ！」	健康講話と体操を行い、震災で傷を負った体や心をリラックスさせ、明日への活力を養える場を設けた。	1月25日	1	34
七郷学びの応援隊企画会	身近で関心が高い地域課題解決のための講座実施に向け、社会学級との連携により企画会議を持ち、「骨盤体操でスタイルアップ！」を企画し、実施した。	9月21日・10月13日・11月16日・1月19日・2月9日	5	24
★和になって	震災で被災された方々を支援するため、老壮大学おどりクラブ・カラオケクラブと地域の有志が、避難所、仮設住宅で踊りと歌の披露を行い、地域住民との触れ合いの場、前に進もうとする活力を得る場を提供した。	6月23日・29日・7月6日	3	50
★ふれあい交流会	震災で被災された方々の心を癒すために、地域のボランティアと避難者とが共に調理をして交流を図った。	7月2日	1	16
★ふれあい広場－花でリラックス	仮設住宅での生活においてコミュニケーションが希薄にならないよう、花植え、花かご・押し花作り等を通して参加者同士が交流する場、心を癒せる場を設けた。	8月26日・9月16日・10月21日・11月18日・12月16日	5	126
★七郷えがおプロジェクト	被災者の方々の一歩前に進もうとする心を支援するため、仮設住宅で「マジックショー」「コンサート」、館内で「コンサート」「スラックスを手作りしてみませんか」を開催。楽しい時間、笑顔になれる時間を提供した。	10月23日・11月17日・12月15日・1月12日・26日・2月16日・3月7日	7	229
「七郷かるた」を作ったかるた大会	平成19年度作成した「七郷かるた」に荒浜や七郷の史跡等を詠んだかるたを10枚追加。完成後かるた大会を開催し、七郷地域の歴史、風土等を学習する場を設けた。	10月22日・11月19日・12月17日・1月14日・28日・2月18日・3月10日	7	49
★あの時を忘れない－震災の記憶	東日本大震災での体験、思いを聞き取り、震災を風化させることなく後世へと語り継ぐための記録集を作る。まず荒浜5町内会より聞き取りを開始。次年度への継続事業。	2月7日・3月15日・28日	3	40
七郷地域懇和会	地域の課題や学習ニーズ等について、地域住民から意見を聞く場や情報を共有する場を設け、今後の事業展開へ反映させた。	10月5日・2月7日	2	39
★東日本大震災後の地域の活動記録	管内の小中学校、町内会等から直接聴取による情報収集を行い、震災後の活動状況を把握した。	8月19日～10月21日	9	25
傾聴ボランティア養成講座	相手の心を癒す傾聴の心を学び、被災者が孤立しないよう支援するためのボランティアを養成した。	10月18日・25日・11月8日・15日・22日	5	140
★地域ボランティア養成講座「交流サロンを開催しよう」	高齢者が仮設住宅や地域で孤立することがないようにサロン開催のためのボランティアを養成した。	1月24日・2月3日・10日・14日・24日・3月15日	6	64

荒町市民センター

〔沿革〕

昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更になり今日に至る。建物は施設の老朽化と機能拡充の必要性から現在地に改築され新館として平成 22 年 2 月 2 日にオープンした。

当市民センターは、仙台市のほぼ中心部、昔からの老舗街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

また、地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方はじめ市内全域から多くの市民に利用されている。日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★地域住民の状態調査を学ぶ		
参加者	地域住民	参加延人数	212人
開催日	全8回 6月10日(金)、6月17日(金)、6月24日(金)、7月8日(金)、7月16日(土)、7月17日(日)、7月18日(月)、8月12日(金)		
協力者・協力団体	東北大学教育学部		
ねらい	東日本大震災を機に、市民は生活の質が変化したり、未曾有の事態に様々な気づきを得たりしていると推察される。市民にとっての震災体験の意味や、今後どう生かそうとしているのかを対面方式で調査する。		
概要・成果	地域住民 20 名を調査対象者とし、一人につき 2 時間ずつ聞き取り調査を行い、その調査のまとめとして報告会を開催した。 通常のアンケート調査とは異なり、それぞれの方の思いや生活の質の変化など、深く実態を掘り下げることができ、地域の多種多様な課題の把握につながった。市民センターに求められているもの、防災に関する問題点など、今後の事業の発展に多いに生かすことで、成果を地域に還元できる。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
あらまち子ども囲碁クラブ	地域の囲碁ボランティア先生の指導の元、囲碁の基礎と対局を中心に学習する。また、礼儀とあいさつも活動上必要なので指導してもらう。	8月6日～3月17日	16	192
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーと世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションゲームの実践を学習する。	2月18日	1	71
広瀬川とサケ～サケの卵の育ち方と稚魚になるまで～	サケの一生を学んだ上で、卵から稚魚になるまで育てる。成長を観察・記録し、広瀬川に放流の体験もする。	12月10日・1月26日・3月10日・22日	4	87

あらまち子ども企画室	「市民センターフェスティバル」「児童館であそぼう！」に自主的に参加するために企画会を持つ。定期的に地域清掃活動を行う。	9月9日～3月17日	24	197
荒町いきいき講座	聴覚障害者を対象にした、災害時に有効な調理の学習(2回)。震災体験をどう活かすかのテーマで座談会を開催	9月1日・8日・15日	3	76
あらまち町民大学シルバーセミナー	月1回の定例講座(8月を除く)の開催。食育・健康などの座学講座や館外学習を自主企画で実施	10月19日・11月16日・12月21日・1月18日・2月15日・3月7日	6	414
●シニアのためのライフデザインと運動講座	人生を安心して暮らしていくために必要な各種制度(介護保険制度・成年後見制度・相続と遺言など)を学習し、併せて、自宅のできる運動を体得する。	10月13日・27日・11月10日・17日・12月1日・15日	6	102
★伝統の仙台七夕(復興特別企画)	地域の七夕まつりに参加するために、伝統に則って七夕飾りを制作する。	6月30日・7月7日・14日・21日・28日	5	110
★社会学級連携事業企画会	東日本大震災の経験を活かすために地域で出来ることを模索する講座の企画会をする。	9月14日・10月7日・11月10日・12月8日・2月15日	5	16
★元気になろう荒町! 荒町市民センター・児童館フェスティバル	地域住民と利用サークル参加のまつりを実施する。	10月2日	1	1,930
地域懇談会	地域の共通する課題を見つけ、課題解決に向けての懇談会の開催	11月18日・12月16日・2月17日	3	48
★東日本大震災後の地域の活動記録	町内会をはじめ、地域の各団体について聞き取り調査を行い、記録にまとめる。	6月28日・10月13日	2	4
★人と人が支え合う地域づくりをめざして	地域住民を対象に、自分たちができることについて考える講座の実施。	2月8日	1	26

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年地域住民の福祉増進を目的に、保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として地域に定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えてリニューアルオープンし、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、かつては河口には美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産が残されていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日の「東日本大震災」により、沿岸の東六郷地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。

現在、地域住民・町内会・各団体が連携を保ち、情報を共有しつつ互いに自助・共助の心構えを持ちながら、早期の自立や地域の復興・復旧に努めている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	●★復興イベント「元気！六郷復興の集い」～希望の光を～		
参加者	どなたでも	参加延人数	2, 200
開催日	全 1 回 11 月 5 日(土)		
協力者・協力団体	若林消防署六郷出張所、若林消防団六郷分団、婦人防火クラブ六郷支部、若林環境事業所、若林区家庭健康課、六郷保健センター、六郷地域包括支援センター、(財)結核予防会、六郷児童館、東六郷幼児学園、東六郷小学校、六郷小学校、六郷中学校、六郷中学校父母教師会、仙台東高等学校、六郷地区老人クラブ連合会、六郷地区民生委員児童委員協議会、六郷学区民体育振興会、仙台南地区交通指導隊六郷分隊、JA仙台六郷支店		
ねらい	東日本大震災の被害が甚大であった六郷。地域を挙げて復旧・復興を目指す中、各町内会・各学校・行政機関・地域団体や市民の参加・協力を得て、「復興」のテーマのもと地域住民の交流を深め、繋がりを大切にしながら地域コミュニティづくりに貢献する。		
概要・成果	復興イベント実行委員会を核としてサークル・地域出店・ボランティア・地域諸団体の協力を得て、「オープニングイベント」では梯子乗り隊の演舞や各学校の演奏、「展示・演芸コーナー」「児童館コーナー」「健康コーナー」など各催しが行われた。「フィナーレ」には約 400 名の地域住民が体育館に入り、六郷すずめっ子の演舞と司会で大変盛り上がった。また、東京都大田区六郷地区や山形県新庄市からの被災地支援も加わり他都市との絆を強めたことや、中学生による「復興の叫び」が地域に希望を与えるなど、例年に見られないほど大勢の協力者がイベントを支えてくれた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
中高生のための「六郷倶楽部」	中学生・高校生が市民センターに集える居場所作りとして、地域の東高等学校や六郷中学校生徒との交流や、講師を招き気軽に参加できる講座を開催した。	5 月 24 日・10 月 29 日・1 月 14 日・2 月 4 日・3 月 3 日	5	181
ジュニアリーダーと遊ぼう！	秋休みの居場所作りとして気軽な学習の場を提供し、地域の子供同士、異年齢交流を図り社会性を育てた。	10 月 12 日	1	46
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会リーダーとして活動する児童及び世話人を対象に、子ども会活動に必要な知識やレクリエーション等を学習する機会を提供した。	2 月 18 日	1	44

★健康講座 「ノルディック ウォーキング」	仙台市高齢者保健福祉計画におけるノルディックウォーキングを活用した健康づくりを進めると共に、市民に六郷地域を歩いて紹介し、津波の歴史を知り、震災体験を聞く機会とした。また、講座から立ち上がったサークルの支援も得ながら、新規会員へ繋がるよう協力し合った。	7月23日・30 日	2	22
中学生と学ぶ 「デジカメ教 室」	六郷中学校のパソコンを借用し、デジタルカメラで撮影した画像を葉書に取り込み作成し、IT機器の苦手意識の克服と活用の幅を広げ、社会活動の意欲につなげた。また、教師や中学生がアシストする中で、受講生との世代間交流を図った。	8月7日	1	9
エコでいこう！	簡単に出来る身近なエコを学び生活の中で実践することを目的として、地域の様々な年代の住民が交流を図りながら環境にやさしい技を学んだ。	11月18日・ 25日・12月 2日	3	49
★高齢者のた めの「六郷健 康講座」	六郷地域には東日本大震災の避難者が住居し、平日残された高齢者の身体の健康と心のケアを促す為、「六郷地区老人クラブ連合会」が中心となり健康講座を企画し、市民のニーズに答えて六郷市民センターも協力して地域に元気を取り戻す一助とした。	6月20日・8 月24日	2	151
六郷あすなる 大学	50歳以上の方及び高齢者に対応した一般教養や現代的課題などさまざまな分野の講師を招き、学ぶ機会を設けた。それらを通して生きがいある生活の確立を目指すと共に、受講生同士互いの親睦を深めた。	10月20日・ 11月17日・ 12月15日・1 月19日・2月 16日・3月7 日	6	461
六郷お月見会	「お月見」を通して若い世代に伝統文化を伝えとと共に、様々な年代・地域の人々との交流の場を提供することを目的とし、ワークショップを通して子どもたちに地域の大人が関わる事で顔見知りになり、人との繋がりの輪が広がった。	9月9日	1	68
●★六郷絆コ ミネット	管轄内に仮設住宅がある為、他方面の団体から様々な問い合わせが舞い込む。被災した方々に手を差し伸べたいという善意から派生した思いや形を、地域に移り住む被災者に繋いで、震災の痛手を癒し普段の生活が取り戻せるよう、市民センターとして地域の絆作りを支援した。	7月26日・8 月21日・10 月10日・22 日・29日	5	580
ハートフル六 郷協議会	人と人が繋がり、温かみのある豊かな地域づくりをめざすことを目的として、子どもからお年寄りまで様々な地域の人々が交流できる場を提供するために、六郷地区の民生委員・老人クラブ・児童館・地域包括支援センターなど地域諸団体が一緒に事業を企画した。	6月14日・7 月6日・9月 28日・11月 22日	4	39
★市民企画 「クリスマス コンサート」	東日本大震災で甚大な被害を受けた六郷地域が、復興へ向け少しでも明るく前進できる様、自由と創造的表現のジャズ`演奏を中心に、幼児の音楽発表・若者のバンドや音楽グループにも演奏してもらい、各年齢層や家族でも気軽に参加して楽しめる市民コンサートを実施した。	12月18日	1	250
★東日本大震 災後の活動記 録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するために、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていく上での資料とした。	7月～9月	1	21
市民センター・ 児童館事業運 営懇談会	地域の課題検討を通じて市民センター・児童館が地域の中で果たすべき使命・役割を明確なものとしながら、運営方針や事業内容についての理解を得るとともに、意見要望を広く聞き、これからの事業企画や運営に反映させて内容の充実と改善を図った。	12月6日	1	15
「読み聞かせ ボランティア」 養成講座	現存の読み聞かせボランティア登録人数が減少傾向にある為、新規募集が必要な現状である。市民センター事業として新規ボランティアの養成講座を開催し、読み聞かせボランティアの拡大を図ると共に、地域の子供達の為にボランティアの強化に繋げた。	2月7日・15 日・22日	3	31

《若林区》

<p>市民企画会 「六郷おもしろ 倶楽部」</p>	<p>日頃、市民センターをあまり利用していない成人男性達から地域代表としてスタッフを選出し、そのメンバーで必要とする内容の事業を考え展開し、次第に地域の活性化に向けての働きかけもできるよう育成した。</p>	<p>9月3日・10 月1日・11月 5日・12月3 日・1月7日・ 1月28日・2 月22日</p>	<p>7</p>	<p>57</p>
-----------------------------------	---	---	----------	-----------

沖野市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした。平成4年センター前広場には、芝生と多種の木が植えられ「光と風」を設計コンセプトとした豊かな広場を持つ市民センターとして、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯活動に対する関心は高く、また自主サークル活動も盛んであり、その利用者数は年々増加の傾向にある。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	沖野でザリガニつり		
参加者	小学生と保護者	参加延人数	89人
開催日	全1回 7月31日(日)		
協力者・協力団体	若林区中央市民センター共催		
ねらい	ジュニアリーダーに活動の場を提供すると同時に「ザリガニのいる用水路」を地域資源としてその存在を広く知らせる。		
概要・成果	天候にも恵まれ、若林区以外の参加もあり、盛況だった。夏休みという事もあり参加された家族も父親と子ども、祖父と孫など様々で屋外の企画が求められている事が確認できた。田園地帯が多く、緑豊かな環境を持つ沖野地区の地域資源を再認識してもらいきっかけづくりとなった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育てママの応援隊	子育て中の母親を対象に子育てに必要な情報や知識を学び不安や悩みの解消し交流を図る。	10月12日・11月11・18・25日	4	132
おはなしいっぱい	お話や読み聞かせを開催し、豊かな感性を養い、夢を育む機会とする。	7月28日・2月28日	2	26
めざせ、バイリンガル沖野っ子	高校生を講師に、小学生に英語を学ぶ楽しみを实践できる場を提供し、バイリンガル沖野っ子を目指す。	1月14日・1月28日	2	23
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図る為、児童及び世話人が子ども会運営の知識や進め方を学ぶ。	2月18日	1	64
「仙台七夕七つ飾り」を作ろう	伝統的な仙台七夕飾りの作り方を通して、地域の高齢者と小学生が交流する。	6月7・14日 7月7・14・26日	5	319
語り部による「宮沢賢治の童話鑑賞」	語り部による宮沢賢治の童話を鑑賞することにより、賢治に就いて興味を持ち調べようとする態度を育み、読書に関心を持たせる。	5月11日・12月8日・12月21日	3	249

「学んで、教えて地域 の輪」	地域の特技を持つ人材を発掘し、その知識や特技を地域に生かし、交流も行う。	1月31日・2 月7日・14日	3	43
★深めよう地域の絆 ～沖野音頭～	東日本震災後の地域の絆を深める為、踊りでより多くの人達がまつりに参加出来るよう練習会の開催と保存継承をする。	10月20・27日 11月3日	3	115
★食で絆を深めよう ～にぎわい料理～	食と食の場を通して震災後の生活に元気をとり戻し、絆を深める共に地産地消に努める。	12月1日・ 2月2日	2	32
沖野耕友大学	高齢者に学習と社会参加の場を提供し相互の親睦と交流を図る。	6月30日～ 3月9日	10	469
★ふれあいコンサ ート in おきの 2011	学校、地域の音楽サークルが一同に会し、成果を発表することで、音楽文化の向上を促進し地域の交流を深める。	12月3日	1	340
★3. 11復興を願う 芸能ショー	大震災発生から1年を経過することから、被災された方々への鎮魂の思いを込め、地域在住の芸能者を地域の方で発掘し、地域力の確認とする。	3月18日	1	440
地域交流事業～ポッ チャに挑戦～	障害の有無に関係なく楽しめるポッチャを通して心のバリアフリー社会をめざす。	6月25日・ 7月16日・ 2月14日	3	56
沖野地区市民まつり	地域コミュニティの拠点として学習成果発表の場を提供する。	11月2日・3 日	2	7,480
★東日本大震災後の 地域の活動記録 In 沖 野	地域の東日本大震災の対応や復興状況を正確に把握する為、地域の会議において、又各種団体から情報収集、記録し地域づくりを進める資料とする。	8月23日	1	5
懇話会	地域情報の収集とセンター授業に対する理解を深める為意見交換の場とする。	7月29日・2 月29日	2	27
★市民企画会議	「復興音楽祭」をテーマに地域活性化のための、企画運営を行い市民協働推進に繋げる。	8月30日・9 月16日・10月 7日・14日・12 月2日・8日	6	88
読み聞かせボラン ティアフォローアップ交 流会	活動しているボランティアを中心に基本的なスキルの確認や、抱えている問題解決の為の情報交換の場を提供する。	8月18日・11 月11日・12月 9日・1月20 日・2月17日・ 3月2日・15 日	7	62
サークル体験会	センターの学びの場としての機能を充実する為利用サークルの体験会を実施し、同時にサークルの活性化も図る。	7月5日～9 月30日	10	29

若林市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、平成3年4月に若林児童館、コミュニティ防災センターの併設施設として開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。管内は政宗ゆかりの史跡や商人街の歴史を伝える町名を残し、広瀬川の自然に恵まれている。また、平成6年度から地域町内会等と一体となった「若林ふれあいまつり」を開催している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「アラサーの週末～トリビアでリフレッシュ」		
参加者	20～30代位の方	参加延人数	市民企画会議：40人 市民企画講座：71人
開催日	企画会議（市民企画会議「働きマンのトキメキ学級会」） 全6回 6月25日(土)、7月9日(土)、7月23日(土)、8月13日(土)、8月27日(土)、2月4日(金) 市民企画講座「アラサーの週末～トリビアでリフレッシュ」 全5回 11月26日(土)、12月3日(土)、12月17日(土)、1月14日(土)、1月28日(土)		
ねらい	市民センターの利用の少ない20～30代の人達は、職場以外で同年代同士交流する機会が少なく、また職場のストレスや震災による不安を抱えている人もいると思われる。そこで同年代の方が企画員になり、心身ともにリフレッシュし、楽しみながらコミュニケーションづくりが出来るような講座を企画、運営するとともに、若い方の市民センター来館促進を図る。		
概要・成果	企画員や地域の方など、身近な人が講師になり、バラエティ豊かな企画が生まれ、和気あいあいとした雰囲気の中で、受講者同士の交流が進んだ。 1回目：ホールで体を動かすキンボール 2回目：カセットコンロで出来る災害時の料理 3回目：料理好き男子によるクッキング 4回目：仙台フィル奏者による音楽解説 5回目：カフェ店主による、美味しいコーヒーの入れ方など 前年度の20～30代向け講座から結成され、市民企画会議のリーダー的役割を担ったサークル「若林トキメキ隊」への加入にも繋がった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
曲がる子ども・曲がらない子どもの分岐点	東北少年院院長による子育て講演会 更生保護女性会によるバザー	7月9日	1	107
★今こそ震災について学ぼう	若林小学校 5年生対象に、ブックトーク、震災関係の講義(地震について、放射能について等)	9月28日・11月18日・25日・12月1日	4	248
インリーダー研修会	児童研修は講話「リーダーについて」と実技「マジック」、世話人研修は講話「子ども会活動について」を行った後に、合同でゲーム・レクリエーション研修を行った。	2月25日	1	60
ママの充電Time	ヨーガとクッキングで、日々の子育てでストレスが溜まりがちなママのリフレッシュを行った。	2月15日・21日	2	15
アロマちっくエコ家事	自然の素材を使って、気軽に実践できる環境にやさしい家事についての講話と実技。	10月13日	1	15

《若林区》

若林老壮大学	高齢化社会に対応した一般教養の学習・健康関連実技・民謡一般公開講座・交流自主企画等	6月3日～3月2日	10	767
★～心をつなぐ～震災復興祈念コンサート	音楽の絵本(ピアノと絵本の朗読のコラボ)、マンドリン、バイオリン、ピアノコンサート	8月27日・12月17日・1月21日・3月10日	4	242
サロン・ド・和かばやし	誰でも気軽に参加できるサロン。1回目は震災時の過ごし方、2回目は子育てサロン	12月14日・2月29日	2	105
★災害に備える講座	空き缶を使った簡単コンロの作成や防災グッズや最近の非常食の説明・試食、防火水槽の仕組みや濃煙体験を学んだ。	2月24日・3月9日・17日	3	45
仙台再発見	古城小学校 5年生が七夕について学び、地域の方とミニ七夕を作った。また、作品を駅に飾るなどの交流も行った。	5月26日・6月18日・21日・24日	4	248
若林ふれあいまつり	作品展示・ステージ発表・バザー・出店・地域安全催事・あそびひろば・小動物ふれあいコーナー・うでずもうコーナー等で地域交流を進めた	9月11日	1	1,400
★震災避難所を語ろう・残そう	震災時の各避難所の運営委員長に当時の対応をインタビューし、映像化した。	10月8日～3月7日	11	17
若林地域懇話会	地域団体の代表者、及び学校長・PTA会長と地域課題や連携方法を話し合った。	10月5日・11月18日	2	14
★ほっとふるサロン企画会議	震災復興、子育てのサロンを市民が企画する。	10月5日～3月14日	10	38
ジュニアリーダー「にゃくりん」とあそぼう!	小学生を対象にゲームやバルーンアートを行った。	9月11日	1	48

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成11年6月長町商店街の中核をなすJR長町駅前に太白区文化センター、太白図書館、太白区中央児童館及び太白区情報センターからなる複合施設として開館した。JR長町駅前と国道旧4号線沿道という立地条件に恵まれ、バスや地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れているため、近隣の広い地域の市民が学習活動に利用している。

当市民センターの周辺地域は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のあるところであるが、近年においては地下鉄沿線の開発が著しく、大規模小売店の進出やマンション建設が進み、またJR東北本線の高架化やJR長町駅の移設に伴う新駅の開通などに伴い、長町地区の交通の利便性が更に増し今後大きく変貌を遂げようとしている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	家庭教育フォーラム 新・中学生NOW－今、中学生に何が必要なのか		
参加者	中学生・成人	参加延人数	中学生24名 成人11名 計35名
開催日	全1回 11月17日(木)		
協力者・協力団体	仙台市子供相談支援センター・仙台市楽学プロジェクト・生涯学習課・区家庭健康課		
ねらい	子育てに関する悩みや課題に対応できる情報を提供することで、安心して子育てができる環境づくりをめざし、中学生を交えてのワークショップを開催することで、お互いを知るきっかけを作る。幅広い子育て世代を対象とするため、託児付き・手話通訳付きの講座とする。		
概要・成果	職場体験学習で受け入れた中学生とその親世代さらに祖父母世代が、同じテーブルで悩みを出し合い、ひとつのテーマについてグループ討議形式で解決策を探りながら理解を深め合ったことは、子どもが成長していく過程において生ずる子ども・親双方の悩みや迷いを解決に導くためのきっかけ作りとなった。		

〔平成23年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
まちのお菓子屋さんをオープンしよう！「長町deおやつクッキング」	自分たちの住んでいるまちを歩き地域特有の食材、食文化それに関わる人材を調べる。またそれらを使っておやつ作りを体験し、長町地域のまち資源と地域性、地域と食環境の関わりを考える。	9月3日・10日・17日・10月8日	4	36
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、リーダーとして活躍する児童と世話人を対象に、知識やレクリエーションゲームなどを学ぶ機会を提供。	2月25日	1	71
太白区中央老壮大学校公開講座・復興支援コンサート「弦楽四重奏のひとつとき」	東京在住の「綵(さい)弦楽四重奏団」を迎え、一年ぶりに復旧再開した「楽楽楽ホール」での、復興支援コンサート。	3月9日	1	509
太白区中央老壮大学校いきいき健康コース	いきいきと健康に暮らせるためのヒントとなる講座を開催する。さらに、受講生同士が交流し自主的な活動となるよう促進する。	7月～3月	9	456

太白区中央老壮大学 校 せいかつ教養コース	いきいきと生活しながら学習する機会を提供するとともに、地域や人との関わりの中で心豊かに生きていくことを育む。	7月～3月	9	491
太白区中央老壮大学 校 ふるさと文化コース	高齢者が地域や人との関わりの中で、心豊かに生きていくことを育む。ふるさと文化というコースの特色を生かし、地域の歴史・文化・慣習などを学ぶ。	7月～3月	9	476
ながまち夜のプロム ナード 2011	これまで市民センターに足を運んだことのない層や勤め帰りの方にも気軽に来てもらえるように、夜間のコンサートを開催。	7月29日・ 3月9日	2	210
★社会学級連携事業 東日本大震災関連講 座	東日本大震災を受け、地域に根ざした震災関連講座を企画・実施し、未曾有の災害を振り返り後世に伝えていくために何ができるかを考える機会とする。	6月～2月	9	93
ひと・まち賑わい七夕 作り	今年度は特に、地域住民参画の折り鶴や願い事を描いた行灯・短冊など震災復興の祈りをこめた七夕飾りを制作、長町七夕まつりに参加。サポーターは昨年養成講座から立ち上がった「仙台七夕応援隊」の地域ボランティア団体が活躍。	6月25日・7 月2日・9日・ 16日・23日・ 30日・8月6 日・8日	8	119
ながまち交流フェスタ 2011	地域文化の向上と参加者同士の交流を一層深めながら生涯学習への推進を図っていくために、当市民センターを拠点として日頃活動している各種サークル・団体および地域住民や町内会による学習成果の発表の場として開催する。	10月29日・30 日	2	4,214
魅力アップ懇話会	市民の学習ニーズや地域課題を踏まえた特徴ある事業を実施するに管轄地域の町内会、地元商店街、生涯学習ボランティア、施設利用者から助言を受けて事業の手法、運営等の参考とする。	7月2日・ 11月12日・ 3月17日	3	37
★東日本大震災後の 活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況の把握、情報収集と記録。	通年	—	—
七夕作り活動ボラン ティア・スキルアップ 講座	昨年、養成講座から立ち上がったボランティアグループ「仙台七夕作り応援隊」が、地域ボランティアとして活躍するための、実技を中心としたスキルアップ講座。	8月20日・27 日・9月10日	3	42

生出市民センター

〔沿革〕

昭和24年、生出村公民館として発足、生出小学校の一隅で公民館活動を行なってきた。昭和31年仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。

地域住民の強い要望から昭和42年5月、地域社会教育の拠点として現在地に生出公民館が建設され、事業が活発になった。その後昭和55年5月に、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望されるようになり、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設としてオープンに至った。その10月には第1回生出コミュニティまつりが開催された。平成2年に生出市民センターに改称され、市民相互の交流と地域活動の振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	蛸と平家琵琶の夕べ		
参加者	どなたでも	参加延人数	1,000人
開催日	全1回 7月2日(土)		
協力者・協力団体	ふるさと坪沼実行委員会		
ねらい	坪沼地域活性化のため、また東日本大震災の復興祈願として、地域住民と市民との交流の場を提供する。 地域に古くから伝わる伝統文化や農産物を広くPRするとともに、地域の良さを改めて認識し、活力とする機会とする。		
概要・成果	当初は開催が危惧されたが、震災の復興祈願を含めて実施し、多数の来場者に坪沼の良さを周知できた。 また、地域の実行委員が準備から当日の運営まで主体的に活動し、地域住民同士の絆を深め、地域づくりに貢献した。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
●おいで子育て応援団	地域の子育て中の方が、気軽集える育児サロンを開催し、地域全体で子育てを支援していった。	10月6日・ 12月8日・ 2月9日	3	61
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を図るため、リーダーとして知識や活動に必要な技能について学習した。	1月28日	1	40
★「災害対応訓練」講座	生出幼児学園・小学校・中学校と連携し、近隣の住民の参加も得ながら、具体的訓練を実施した。	6月23日	1	210
いきいき坪沼っ子アントレ	生出コミュニティまつりの「坪沼野菜村」出店に向けた、米・野菜づくりや販売の学習より地域への理解を深めた。	3月11日・10月22・23日・ 12月9日	4	117
出前講座	地域に出向き、教養と資質を主体的に学べるよう、支援し、学んだ成果を地域に還元できた。	6月8日～2月4日	11	190

《太白区》

生出朗壮大学	地域の中高年層が現代社会に対応できるよう、コンサート・介護講話などさまざまな分野での知識を学習した。	9月16日・10月14日・11月18日・12月16日・1月20日・2月17日	6	108
ふる里坪沼の螢 自然観察会	自然が豊かで自生の昆虫が生息。児童や地域住民が自然を維持するため広く観察会を実施した。	5月2日・6月3日・7月2日	3	1,639
すずめ踊りで生き生き健康	舞台踊りの練習に、お囃子組の練習が合わせて加わり、基本と創作練習を実施した。	9月4日・11日・18日・25日・10月2日	5	75
生出コミュニティまつり	震災復興を祈念し、舞台発表の特別出演や広場発表に楽しさを工夫し、実施された。	10月23日	1	2,200
地域活性化懇談会	「より生き生きとした新たなまちづくり」をテーマに検討し、共に郷土を愛する心を再確認した。	1月11日・25日・2月8日	3	47
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災語の地域全体の状況を把握し、今後の地域づくりのために、聞き取りとアンケートで情報を収集した。	通年	1	50
わんぱく広場	ジュニアリーダーを中心に、生出中ボランティアの支援を受け、一緒にコミュニティまつりにコーナーを設け、若年層の市民に楽しんでいただいた。	10月22日・23日	2	40
花植栽ボランティア・スキルアップ講座	地域の複合施設である当館の来館者に潤いを与えられるよう、花を植え環境を整備した。	5月12日・10月20日	2	20

中田市民センター

〔沿革〕

昭和44年10月に、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して仙台市で5番目の公民館として開館。昭和56年3月に本館を鉄筋コンクリート二階建てとして新築。平成2年4月に「中田市民センター」と改称。平成19年7月からの外壁塗装や体育館暖房装置設置等を内容とした大規模改修工事を経て、平成20年1月にリニューアルオープンし、現在に至る。

平成元年度から平成11年6月までの間は太白区内市民センター13館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進の重責を担っていたが、現在は地区館として事業を展開している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	出前講座～あなたの近くで学びましょう～		
参加者	地域住民	参加延人数	64人
開催日	全2回 3月2日(金)、3月10日(土)		
協力者・協力団体	連携:中田地区町内会連合会		
ねらい	高齢化が進む中で、市民センターからある程度の距離のある町内会に市民センターが出向き、参加しやすく、交流しやすい場を提供する事で、参加者同士の新たなコミュニケーションが生まれ、生き活きと生活するためのステップとする。また、市民センターをPRする事で来館の促進が図られ、自分探しのきっかけづくりにつなげる。		
概要・成果	市民センターが町内会のサロン活動に参加する形に、新鮮さも加わり、これまでの倍以上の参加者となった。内容は人形劇の他、指を使った体操、そしてご当地クイズ等を全員参加型に趣向を凝らした内容が功を奏し、笑顔とともに相当の盛り上がりとなった。その後の茶話会では終始和気あいあいの雰囲気となった。また、市民センターの役割や活動についても認知してもらい、町内会との絆も増したと考える。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
中田七夕 de ないと	地域資源の活用と七夕の再生をはかるための、実践学習と交流会。天体観望会、七夕飾り製作、郷土料理の調理実習	7月14日・26日・28日・29日・30日・8月2日・4日・5日	8	220
科学はおもしろい！	科学への興味を喚起するため、科学、地学、物理の3分野からテーマを設定した実験学習	8月3日・11月12日・26日	3	86
エコキャンプinなかだ	異年齢間の交流を図るとともに、野外で行う体験学習。廃材利用の工作、調理実習、交流会	10月30日	1	41
インリーダー研修会	子ども会活動についての講話と実技。行事プログラムの作成、工作、レクリエーションの進め方など	2月26日	1	62
中田老壮大学	高齢者が主体的に学習するための、健康・地域・暮らしなどをテーマとした講話、実技による学習	6月16日～3月8日	10	497

「活き・粋健康塾」～あなたに合った健康習慣をみつけませんか	介護予防と健康増進を目的とした講話と実技。健康体操、介護予防の講話と脳トレ、調理実習	2月8日・15日・22日	3	49
なかだ篝火コンサート	中田神社を会場とした屋外コンサート、今回で10回目。中田在住のヨーデルチロリアンによる演奏	7月19日	1	470
中田まつり	地域住民・団体、利用サークルなどによる発表・展示・模擬店の開催。レクリエーション大会、センターのPRコーナーなど	10月22日・23日	2	4,750
ロビーコンサート『中田音楽歓』	地域人材や利用サークルの発表の機会として開催。合唱、楽器(クラリネット、オカリナ、ギター)の演奏、最終回は隣接する小学校の教諭トリオによる演奏	8月6日・11月19日・1月21日	3	136
★中田市民センター事業運営懇談会	町内会対象の防災懇談会を2回開催。他にセンター事業についての懇談会、教育関係者対象の地域連携情報交換会を開催	9月10日・11月12日・22日・2月22日	4	45
★東日本大震災の地域の活動記録	地域懇談会、各団体における震災に関する情報収集、意見聴取の記録	7月26日	1	3
ジュニアリーダーと遊ぼう	当センターで活動するジュニアリーダーが企画・運営。小学生を対象に、レクリエーションゲームの提案と中田まつりにおける遊びのコーナーを開催	7月1日・10月23日・3月3日	3	232
『安心して暮らせるまちづくりセミナー』～認知症を知り、成年後見制度で財産を守る	認知症と成年後見制度について、理解とサポーター育成のための、講話と懇談による学習。	12月3日・10日・17日	3	46
図書ボランティア養成講座	読書環境の充実を目的とした、実践学習。本の修理、選本、読み聞かせなどの実技	11月2日・16日・30日	3	44

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年仙台市として 5 番目の福祉会館として開設した。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年政令指定都市移行に伴い地域の社会教育充実のために公民館が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。平成 3 年には児童館が併設された。以後子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	「西多賀の百問」作成委員会		
参加者	「西多賀の百問」作成委員会委員	参加延人数	70人
開催日	全20回 6月9日(木)～3月22日(木)		
ねらい	「西多賀検定委員会」は、平成20年度から22年度までの間に4回の検定問題を作成し、検定を実施。述べ400名の受検があった。問題を作る上で講師を招いて学習会を開催し、現地を踏査するなど、多くの資料を収集・作成してきた。その学んだ成果を地域の資源として冊子にし地域に還元することを目的とする。		
概要・成果	「西多賀検定」として出題した合計100問を問題編とし、解答、解説、収集した資料・参考文献を資料編として『西多賀の百問』という題で冊子にし、500部作成。受検者、出題に協力いただいた方々、町内会、管内小中学校や地域商店街の店舗等に広く活用していただくことを目的に配付した。検定問題だけでなく地域を中心とした独自の資料(年表・地図)を作成し、地域の成り立ちを再認識することができた。 平成24年度には、『西多賀の百問』を資料として地域を歩き、古墳や遺跡を訪ねる講座を開催する予定。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
すこやか子育て	親子遊びや親子で楽しむ絵本、簡単なおやつ作り、等を通してホッとする時間を持ち、子育てを考えた。	6月21日・28日・7月5日・12日	4	32
★大震災で受けた心のいたみ～子どもとの関係を考える	大震災による経験や情報を得ることによる影響について考えた。また、講師にその影響に対する対応についてのアドバイスをうけた。	12月15日・20日	2	13
川辺の生き物～笹川の生き物調べ	親子でオイカワやドジョウなど、地域を流れる笹川の生き物調べをし、地域環境に関心を持った。	10月10日	1	20
おはなしひろば	おはなしボランティア「カンガルーのポケット」と連携し、本にふれあう機会を設け、考える力や集中力を養い、本の楽しさを伝えた。	5月18日～3月28日	11	99
インリーダー研修会	子ども会活動の充実をはかるため、行事プログラムの作成、レクリエーションの進め方などリーダーとして必要なスキルを身に付ける機会を提供した。	2月18日	1	58
親子でGO！囲碁！	センターを利用している囲碁同好会から指導者を迎え、初心者を対象に対局ができるまでの基礎編の学びを提供した。	2月4日・11日・18日・22日・25日・3月3日	6	36

座ってエアロ！一気 軽に・明るく・楽しく体 操	省スペースでも可能な“イスに座ったまま行うエアロビクス”やストレッチで身体を動かした。	11月8日	1	51
★つくって飾る仙台 七夕	震災への鎮魂の想いと復興を願う、子どもから大人までの利用者が作成した短冊で飾られた七夕を館内に飾った。	7月27日	1	56
西多賀寿大学	地域に居住する高齢者の生涯学習の機会と、相互交流の場を提供し、誰もが豊かな老後をおくる為に、生きがいを持ち心身ともに、健康に暮らし続けられるよう学習の機会を提供した。	6月15日～2 月15日	9	756
★楽しく学ぼう“地震 対策”	東日本大震災のビデオを見ながら、地震対策を学んだ。ワールドカフェ形式のワークショップで震災時の体験を語り合い、模造紙にまとめたものを記録として残し、館内に掲示した。	2月3日	1	15
環境講座「天沼・三神 峯のしぜん・ちいきを 学ぼう！」	天沼公園の自然や生き物を観察しながら散策した。三神峯公園ではゴミ拾いをし、環境整備をしながら、リスとモグラの生活痕跡を探してフィールドマップをつくった。公園の愛護協会の環境保全活動も紹介した。	10月1日・ 11月5日	2	40
増加する悪質商法に ストップ！	震災後「不必要なリフォーム工事」「地デジ化工事」に伴う悪質な割高料金請求、勧誘が増加している昨今、地域懇談会に於いて話題になった事もあり、悪質商法から身を守る為の知識を学んだ。	12月2日・8 日	2	18
金剛沢小学校社会学 級共催事業企画会	地域の情報を交換し、連携をとり合いながら、お互いの持つ企画力を引き出し、講座を企画した。	6月17日・7 月14日・8月 25日・3月7 日	4	13
★あの時の記憶～地 域の結束力	震災時の町内会の活動を記録し、今後の地域の防災対策の一助とするために記録誌を作成した。	11月1日・15 日・12月6日・ 20日・2月29 日	5	18
第14回西多賀ふれ あいまつり	地域住民の交流の場、サークル活動の学習発表の場として開催。地域の中高生の参加もあり、世代間交流もできた。	10月23日・24 日	2	3,400
街かどコンサートin 西多賀	“仙台国際音楽コンクール”の関連事業として、クラシック音楽への関心を高めていただくためのコンサートを実施した。内容はソプラノ2名の独唱、合唱、輪唱とピアノの演奏。多くの参加者が楽しんだ。	3月4日	1	81
西多賀市民センター と地域を結ぶ懇談会	1回目と2回目は、大震災を踏まえての各町内会の課題と今後の防災対策を話し合った。また、4回全てに於いて、市民センターへの要望や意見を聞き、今後の運営や次年度の生涯学習事業の企画の参考とした。	9月28日・29 日・11月22 日・29日	4	35
★東日本大震災の地 域の活動記録	西多賀小学校、西多賀中学校の指定避難所としての運営状況、それ以外に避難所として開設した町内会の運営状況、地域の活動状況を把握し、記録した。	6月20日・23 日・30日	3	8
ジュニアと遊ぼう	異年齢の子ども達がジュニアリーダー「にしたがっつまん」の指導により、ゲームや工作を楽しんで交流をした。	7月9日・10 月23日・1月 14日	3	295
おはなしボランティア スキルアップ	読み聞かせボランティアに学ぶ機会を提供し、子ども達が興味を示す本の選び方や絵本を作り、ボランティアのスキルアップを目指した。	1月26日・2 月2日・9日	3	20
花ボランティア養成 講座「天沼公園に花 壇をつくろう！」	地域の資源である天沼公園に花壇をつくり、整備をする技術を習得し、継続して活動をしていくボランティアの養成をした。	5月26日～10 月27日	10	81

八本松市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 59 年 9 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として着工し、昭和 60 年 5 月に開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、歴史資産として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★八本松地域防災サミット～住民による住民のための災害対策～		
参加者	地域住民	参加延人数	1,165人
開催日	全10回 5月17日(火)、6月2日(木)、6月23日(木)、7月28日(木)、8月25日(木)、9月27日(火)、10月10日(月)、10月15日(土)、11月26日(土)、12月10日(土)		
協力者・協力団体	八本松連合町内会、八本松社会福祉協議会、長町第一地区民児協、八本松小学校、八本松児童館		
ねらい	平成23年3月11日に発生した東日本大震災、2か月以上が過ぎ、地震・津波の際の避難経路や避難所立上等各町内会・小学校・市民センター・各種団体などが当時を振り返り行動を検証する。大規模災害時の発生直後に、地域の実情に応じた連合町内会主体の行動がとれるように八本松地域防災体制を構築する。		
概要・成果	10月15日の避難所立上げ訓練、防災訓練に向けて、地域各種団体が10回にわたる協議を行うことにより、認識の共有化が測られた。今後も継続して行わなければならない事業である。訓練後にアンケート調査を行い、住民の声を取り入れた住民手作りの訓練の土台ができた。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
八本松子育てカフェ	親と子が「共に育ち合い」安心して暮らしていけるための支援講座として、育児相談や情報交換、ママビクス等を通じて交流し、子育て中親子の孤立化を防ぐ。	7月20日・8月24日・9月21日・10月5日・11月9日・12月14日	7	167
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識や活動に必要な技術習得のための学習機会を提供。	2月18日	1	64
子供ドッジボール大会 IN 八本松	3つの小学校の児童がドッジボールを通じて、秋休み期間中に、学校、学年が異なる児童と交流を図る。運営はジュニアリーダー、「荒町ファイターズ」の子どもたちが行う。	10月12日	1	66

パソコンでちらしを作ろう	PC に対する苦手意識を解消し、地域情報を自ら発信できる人材を育成する。運営には中学生ボランティアを募集し、受講者と中学生の世代間交流も図る。	7月26日・27日・28日	3	50
八本松寿大学	高齢化社会に対応した学習の場を設定し、高齢者が日々元気で充実した生活を送ることができるよう支援するとともに、社会環境の変化など、状況に応じたカリキュラムの情報を提供する。	5月26日～2月23日	10	686
社会学級共催事業企画会議	震災後の混乱等もあり、企画会議は開催したが、共催事業は断念することとした。	10月7日	1	4
第16回うぶすなフェスティバル	子どもから大人まで世代を超えて楽しいふれあいのひと時を過ごし、参加、協力、つむぎあいながら、地域振興と生きがいのあるコミュニティを推進する。	7月24日・8月20日・10月15日・11月6日	4	4,100
八本松フォーシーズン・コンサート	多くの地域住民が生音楽や芸能に触れて親しみ、お互いに交流できる集いの場を提供し、地域活性化に貢献する。	5月1日・6月5日・7月3日・8月7日・9月11日・11月13日・3月7日	7	831
市民懇話会「郡山・八本松のあしたを考える」	郡山中学校区のネットワークづくりを行いながら、地域のニーズを探し出し、課題を見出す。	5月28日・2月26日	2	23
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	5月28日・8月26日	2	18
八本松歴史再発見～伝えよう郡山遺跡	東日本大震災のため、当初の企画とは異なり、東長町小学校の6年生に郡山遺跡を歩いてもらい、遺跡に待機している地域の歴史ボランティアの方から説明をしていただく。	6月2日	1	108
市民企画会議「まちの風景を探ってみよう」	地域課題や現代的課題など、企画委員とともに素案から講座を企画し、運営する。	12月8日	1	14
剪定ボランティアフォーアップ講座	剪定技術を地域に生かし、住民同士の交流を活性化させる目的で、剪定のスキルアップを図りながら、剪定ボランティア参加者の増加を推進する。	6月11日・7月12日・8月9日・9月17日	4	33
★市民企画会議を経て企画する事業	震災後の不安定な心を整えるため、心のケア、アフリカンドラムによるストレスの発散、そして健康を支えるバランス食作りを行った。	1月14日・1月21日・27日・2月12日	4	136

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、昭和62年4月6日、仙台市南西部に位置し昭和30年後半～40年代中頃にかけて整備・開発された豊かな自然と調和の取れた住宅地である八木山地区に、開館。

センター隣接地が平成27年開業予定である地下鉄東西線西起点(動物公園駅)となることから平成20年11月体育館が新たにセンター北側に増設された。市民の自主活動及び生涯学習の拠点施設として利用され親しまれている。また、八木山動物公園や八木山ベンチャーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、野草園、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域でもあり、地下鉄東西線の開通とともに大きく変貌することが予想される。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	自転車で学ぶ社会のルール		
参加者	八木山中学校1年生・3年生	参加延人数	約285人
開催日	全1回 7月1日(金)		
協力者・協力団体	連携:仙台市立八木山中学校		
ねらい	自転車の乗り方やルール、点検の仕方等を学ぶことにより、自分の自転車の乗り方を見直し、交通ルールや危険性を知ることによって責任の重大さを学ぶ。		
概要・成果	中学1年生と3年生を対象に、自転車の正しい乗り方や毎日できる「最速10秒点検」、事故を起こした場合の損害賠償を学んだ。高校生で自転車通学となる前に、社会のルールの1つとして学習する望ましい内容であり、受講後、生徒たちの自転車の乗り方への注意・関心が高まった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
親子のおはなし会「クリスマススペシャル2011」	絵本の読み聞かせ、牛乳パックで簡単工作、クリスマスソングを歌うなど、親子で楽しく過ごし、心の癒しとなる場を提供した。	12月17日	1	64
「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」	キャラバンカーの、絵本の自由閲覧後読み聞かせを行い、子ども達に本との出会いと楽しさを感じてもらう場を提供した。	9月23日	1	82
子どものための囲碁教室	幼稚園から中学生までの子ども達が、地域の囲碁同好会有志の方々に囲碁を学びながら異世代間交流をした。	7月9日～3月17日	31	467
八木山こどもひろば	ペットボトルロケットを作って飛ばしたり、動物園のは虫類を観察するなど、体験や学びを通して異なる学校同士の保護者も交えて異年齢交流をした。	7月30日・1月6日	2	67
仙台市インリーダー研修会	八木山小学校・八木山南小学校・向山小学校の5年生と世話人が、子ども会の意義や役割、レクリエーションやゲームの技術を学んだ。	2月11日	1	74

八木山自然探索講座	金剛沢市有林・治山の森を中心に散策し、樹木・植物・昆虫・鳥など自然について学んだ。	5月19日～3月15日	9	529
やぎやまシニア大学	ギリシア神話や原子力・認知症についての講話、館外学習、ピアノコンサート等、幅広く学びながら生きがいづくりや受講生同士の交流を図った。	7月14日・8月23日・9月15日・10月18日・11月16日・12月13日・2月6日	7	252
八木山気軽に懇話会	町内会や社会福祉協議会、民生児童委員、子育て支援クラブ、読み聞かせボランティアが参加し地域の課題やニーズを把握・共有した。	9月21日	1	5
こどもにやさしい yagiyama～秋の八木山フェスタ～	八木山動物園、ベニーランド、東北工業大学を会場として、ポスターコンクールの表彰やサークル・団体の発表、神戸のハンドツリー・復興アコーステックライブ等を開催。	11月3日	1	13,000
第23回八木山市民センターまつり	八木山地区小・中・高・大学による音楽会や地域の団体・サークルの作品展示・体験教室を通して住民相互の交流が図られた。	10月8日	1	1,000
在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	地域のボランティアによる、在仙の外国人に生活日本語の指導や文化を伝え、快適に生活できるよう支援した。	9月7日～3月16日	46	489
スパニッシュギターのタベ	地域住民が気軽に音楽を楽しめるよう、ギター演奏や講話によるコンサートを開催した。	11月13日	1	52
★新日本フィルハーモニー交響楽団ミニコンサート	被災地支援のためのクリスマスコンサートを東北工業大学で開催し、多くの地域住民の心を癒した。	12月11日	1	111
★東日本大震災後の地域の活動記録	避難所となった各施設や町内会、社会福祉協議会、民生児童委員等から情報を収集し、八木山地域の活動記録をまとめた。	通年	—	—

山田市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、コミュニティ防災センターを併設して昭和 62 年 4 月 17 日に開館した。

本地域は旧笹谷街道に沿った地域で戦後住宅街として開発、発展してきた。当市民センター周辺は縄文遺跡や鹿除土手などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境のなか、太白消防署や郵便局、鉤取球場、縄文の森広場など防災・防犯、スポーツ施設、学びの場となっている。また、国道 286 号線沿いには近年大型商業施設などの進出がみられる。こうしたなか、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	読み聞かせボランティアステップアップ講座		
参加者	成人	参加延人数	94人
開催日	全5回 10月7日(金)、10月14日(金)、10月21日(金)、2月3日(金)、2月10日(金)		
協力者・協力団体	連携:仙台市太白図書館		
ねらい	市民センターを拠点に活動している読み聞かせボランティアを主な対象に、多くの情報の中から自分たちの活動に合った絵本の選び方、読み聞かせなどのレベルアップ及び新たな技能の習得を図る。		
概要・成果	地域内の各読み聞かせグループの参加があり、情報交換、スキルの向上につながった。受講者の学習意欲が高く、3回の予定を2回追加して5回とし、手遊び等のスキルを学習した。一部、ボランティアグループへの入会もみられた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育てほっとカフェ	子育ての不安やストレスの解消の為に、様々な観点から学びを提供し、子育ての一助とすると共に、仲間作りに繋げた。	10月7日・14日・21日	3	21
インリーダー研修会	子ども会活動の意義、インリーダー、世話人の役割などを学び、子ども会活動に役立てた。	1月13日	1	71
山田わんぱくクラブ	小学生が、体験型学習や施設への訪問を通じて、生きる力や豊かな心を育てる機会を提供した。	8月4日・10日・2月4日・18日	4	73
身近で育てるプランター野菜	身近で手軽に野菜を栽培する方法を学び、安全な食について考える機会を提供した。	5月14日・28日・6月11日・18日・7月16日・30日・2月18日	7	100
からだバランスアップ講座	運動を楽しみながら、日ごろの疲れやストレスを解消し、心身のバランスを整える機会を提供した。	12月10日・17日・24日	3	40
山田豊齢大学	高齢者が、地域の中で孤立することなく暮らすための、生涯学習や交流の場を提供した。	9月2日・10月7日・11月11日・12月9日・1月13日・2月3日・3月2日	7	466

社会学級連携事業企画検討会	地域が抱える課題や問題について、社会学級が情報交換し、地域への学習課題を提起し、学習機会を提供するための検討会を開催した。	5月21日・6月11日・7月16日・12月10日	4	35
第15回山田ふれあいまつり	地域住民と市民センター利用者の学習成果を広く発信し、相互の交流を図った。	11月5日・6日	2	2,700
山田みんなのオンステージ	市民センターの利用サークルや、地域のサークルの発表の場を提供すると共に、地域住民が音楽を通じ交流を図る場を提供した。	7月15日・8月24日・9月29日・11月18日・3月7日	5	150
山田地域懇話会	地域住民と地域の課題、ニーズについて意見交換し、よりよい市民センター事業の実施、地域拠点としての市民センター機能充実を図った。	10月19日・2月22日	2	32
★山田から笑顔の絆を ～股旅演歌舞踊 観月会の活動紹介～	股旅演歌舞踊 観月会の芝居・舞踊の鑑賞と震災後のボランティア活動の紹介を通じ地域の絆の再構築を図る。最後に3社会学級生の交流会を持った。	12月20日	1	75
★地域防災力向上 「地域地震対処総合訓練」	地域の町内会及び中学校と連携し、今後予想される地震の際の対応について、総合防災訓練を実施し、地域全体の防災意識の高揚を図った。	11月5日・9日・12日・16日・19日・22日・26日	7	637
★東日本大震災の地域の活動記録	東日本大震災後の地域の対応、復興状況について随時地域の方から情報を収集し記録することで、今後の地域作りに役立てる。	通年	—	—
山田いきいき健康塾 —玄米ダンベルで地域の輪をつくろう	地域課題である高齢化社会に対応し、地域の点在するサロンやクラブでの運動サポーターの技術の向上の為に研修を開催し、研修の成果を還元する。	6月～3月	11	210
市民企画会 「山田食育プロジェクト」	仙台市食育推進計画の取り組みの中で、郷土食や行事食、食文化の伝承の機会が減少傾向にあるという課題解消に取り組む企画を検討した。	11月26日・12月3日・10日	3	10

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市西部で青葉区に隣接し、西道路を利用すれば市内中心部より約20分の距離に位置する。当センターは昭和63年4月にコミュニティ防災センターとともに設置され、平成元年4月から地域社会教育の拠点として公民館事業が開始され、平成2年から児童館が併設された。近隣には高層マンションや多くの福祉施設があり、周囲の自然環境と調和し地域コミュニティの場となっており、高齢者、子ども、福祉施設の方々、外国人居住者の利用も多く生涯学習の輪も広がっている。また、地域住民、各種団体に参画を頂き地域性を生かした事業、地域人材を活用した講座や地域課題に即した講座を開催している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	「よみがえれ！水道山」整備事業と水道山の自然		
参加者	成人	参加延人数	30人
開催日	全4回 9月8日(木)、10月13日(木)、11月10日(木)、12月8日(木)		
協力者・協力団体	茂庭台剪定クラブ		
ねらい	茂庭台地区のは、自然公園として水道山があり遊歩道などがあるが、長年整備されずに雑然としていた。平成21、22年度の整備作業で、倒木の除去や遊歩道の整備などを行い、以前とは見違えるほどになり、地域住民の関心も高まって来た。23年度も整備作業を継続して行い、水道山を甦らせるとともに、自然観測・工作会を開催し、地域の憩いの場に水道山の自然の魅力を伝えることを目的とする。		
概要・成果	水道山を地域の憩いの場にしようと整備が進み、作業で出る倒木や伐採した木なども利用し、ベンチやイスなども設置し自然公園として再生しつつある。また、整備が進んだ事により、希少植物の再生も図られた。 受講生同士の交流も進み、その後市民センターや児童館行事にもボランティアとして協力してくれるまでに活動が広がった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
梨野ふるさと村	親子での野菜作りを通して、地域の農作物に対する関心を高め、収穫物を利用した地域の伝統料理を学ぶ。	8月10日・8月27日・9月17日・10月8日・11月6日・12月4日	6	41
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を図るため、小学5年生を対象に、子ども会活動に必要な知識と技術を学ぶ。	1月28日	1	40
「中高生プチボランティア」体験講座	ボランティアについて学び地域施設での体験を通し、地域行事で活躍できるリーダーを育成する。	9月29日・10月2日	2	9
秋休みディキャンプ in 水道山	秋休み時期に、地域講師の体験学習を行い、生活に必要な体験や知恵を学ぶ。	10月8日	2	36

思いで残そうスケッチで！ 茂庭台	自然豊かな茂庭台をスケッチに留め、地域を再発見し、今の茂庭台を次世代へ残す。	9月8日・22日・10月13日・27日・11月10日・26日	6	62
茂庭台大学	高齢者が明るく生き生き過ごせるよう、さまざまな講座を開催し、受講生同士の交流を図る。	7月15日・9月16日・10月21日・11月18日・12月16日・1月20日・2月17日・3月2日	8	304
音楽のある街 茂庭台 「心をひとつにふれあいコンサート」	音楽を通して住民が交流できる場を提供する。金管 5重奏&フォークソングソロ演奏。	9月17日	1	100
「ふれあいサロン」どきどき・マジックショー	地域の独居高齢者の孤立を防ぎ、地域での仲間作りや世代間交流を支援することを目的とする。	8月3日	1	50
「ふれあいサロン」12月のホットタイム	地域の独居高齢者の孤立を防ぎ、地域での仲間作りや世代間交流を支援する。地域の子どもと一緒に童謡を歌い読み聞かせを楽しむ。	12月10日	1	40
★地域総合防災訓練	東日本大震災を教訓に連合町内会、小学校、中学校、管内の福祉施設、各団体と一体となった総合防災訓練を実施する。	11月20日	1	350
茂庭台地区市民文化祭	町内会をはじめ地域の各種団体を中心に、地域課題の収集と把握するための意見交換を行う。	10月1日・2日	2	3,454
事業推進委員会 (地域懇談会)	町内会をはじめ地域の各種団体を中心に、地域課題の収集と把握するための意見交換を行う。	7月8日・9月7日・10月19日・11月11日・12月13日・3月2日	6	150
★東日本大震災の記録活動	東日本大震災後の、地域と、市民センターの対応と、復興状況を記録し、今後の避難所運営や地域での防災、減災対応の資料とする。	通年	—	—
ジュニアリーダーって知ってる？	地域のジュニアリーダー活躍の場と、学んだ成果を披露する場を提供し、活動内容を小中学生に広く知ってもらう。	7月30日・31日・10月2日	3	170
音楽のある街 茂庭台 「ふれあいコンサート」企画会	コンサート企画を通して、地域住民が主体的に文化の発信を行い、地域交流の活性化を図る。	6月18日・7月16日・8月20日・9月17日	4	22
「茂庭台子育て支援ネットワーク」企画会議	子育て支援のネットワーク化を進め、地域における子育て力の向上を図り、未就園児親子の子育てを支援する。	7月29日・11月25日	2	15
「ふれあいサロン」企画会議	地域の独居高齢者の孤立を防ぎ、交流を図ることを目的に様々な事業を企画する。	6月2日・7月5日・8月3日・9月8日・10月5日・11月2日・12月10日	7	52

東中田市民センター

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年4月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。

仙台市太白区の東南端・名取川下流域に位置するこの地区は、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村地帯であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業地帯の発展も著しい。新旧住民が混在し、地域が急速に発展している地域環境にあって、今後、総合的かつ重層的な地域コミュニティの確立が望まれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	東中田わくわくタイム		
参加者	小・中学生、成人	参加延人数	194人
開催日	全10回 7月8日(木)～1月22日(日)		
協力者・協力団体	東中田児童館、四郎丸小学校、東四郎丸小学校、袋原小学校		
ねらい	学校の休業日を利用し、小中学生(一般も可)を対象として、学校で学ぶ機会が少ない日本古来の文化や市民センターの各種講座を、日頃市民センターで活動しているサークルの協力を得ながら、地域で学ぶ機会を提供し、体験を通して理解を深めてもらう。		
概要・成果	夏休み中の子どもの居場所づくりにもなり、親子での参加もあったことから、親子間や講師になったサークルメンバーとの交流など、幅広い年代での交流が図られた。 また、学校で学ぶ機会の少ない日本古来の文化や様々な講座を学ぶ事ができることから、募集してすぐに受付終了になる講座もあった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育て応援ひろば	託児付き講座で、親子体操、2人1組でのハンドマッサージ、茶話会を行い、交流と子育てについての情報交換と震災による不安軽減を図った。	11月1日・11日・18日	3	26
かっこおはなしタイム	主催講座から立ち上がった、読み聞かせサークルを活用し、小学生を対象として、各会毎にテーマを設けた読み聞かせ会を行った。	6月8日・7月13日・9月14日・11月9日・1月11日・2月8日	6	204
インリーダー研修会	子ども会の世話人と児童を対象として、子ども会活動の意義や役割について講師の話聞いた後、JLからリクレーションゲームの進め方を教えてもらった。	2月18日	1	26
母なる川一名取川を探る	小学生親子を対象として、名取川の源流に近い秋保・二口溪谷での館外学習で、流域の見学や動植物採集を行い、上流域の自然や環境について学習した。	8月6日	1	22

市民企画講座『ふるさと再発見』	市民企画員が進行役等の講座運営を努め、代々地域に住み地域を良く知る住民と、郷土史家が講師となり、地域の歴史や民俗を伝えた。	10月29日・11月5日	2	55
東中田老壮大学	高齢化社会に対応したテーマの講話、健康増進、音楽鑑賞等の講座を開催し、地域の高齢者が共に学び合い、交流と親睦を深めた。	7月13日～3月7日	9	497
★●東中田防災地域ネットワーク	大震災の反省をもとに、地域団体や学校と連携して避難所見学と想定訓練を行った。その後、各団体代表者が集って意見交換会を行って今後の地域防災について検討し、防災ネットワーク体制の強化を図った。	7月30日・9月1日・8日・2月14日	4	139
★東中田市民まつり	地域の4団体が共催し、センター利用サークルやボランティアも運営に加わってまつりを開催した。実行委員会では震災義援金の募金も行なった。	10月2日	1	4,250
★東日本大震災後の地域の活動記録	地域団体や学校より聴取した震災関連の情報を記録し、各種懇談や防災講座においても意見聴取や情報収集をおこなった。	通年	—	—
東中田地域コミュニティ懇話会	出席者同士で交流を図りながら、意見交換を行い地域課題やニーズ、市民センターへの要望等について話し合うと共に、市民センターへの理解を得た。	12月3日・2月3日	2	25
東中田落語特選会	震災後の復興支援により、落語芸術協会の協力を得て、真打落語家を招いての落語鑑賞会を開催した。	3月4日	1	93
『東中田～ふるさと再発見』市民企画会議	公募した企画委員が地域への理解と愛着を深めることを目的とした講座を企画し、運営した。	7月6日・13日・27日・11月16日	4	18

柳生市民センター

〔沿革〕

当市民センターは、平成9年4月に、市内52番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当地域は、市内最南端部に位置し住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

こうした地域の特性と施設の機能を活かしながら、住民の多様化に対応した生涯学習の地域拠点として各種事業を展開し、地域のコミュニティ・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★おいしく学ぼうin柳生		
参加者	成人	参加延人数	27人
開催日	全2回 1月19日(木)、1月27日(金)		
協力者・協力団体	柳生小学校社会学級		
ねらい	柳生地域の地場野菜を利用した調理を通して、農産物から地域の特性を学ぶ。また、災害時において役立つ調理の工夫や平常時から準備しておける保存食作りを学び、今後の震災や自然災害の対応に備える。		
概要・成果	地場野菜を活かした調理のほか、ライフラインが停止するなど非常時に役に立つ調理法の工夫や保存食品の作り方を学び、日常生活の向上と家庭の防災力の強化を図ることができた。また、地域団体である社会学級との連携が深まり、多様な学習機会を提供することにも役立った。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
★ダンボールランド in 柳生	ダンボール遊びを通して、親子のきずなを深め、震災で不安定な子どもの心のケアにも努めた。また、ジュニアリーダーや大学生のサポートで世代間交流の幅が広がった。	1月21日	1	31
柳生こどもクラブー楽しく作ろう！	①木工・ブックスタンド作り ②調理・エコクッキングと2つのものづくり講座を実施したことにより、自分で作るおもしろさを体験した。また、木工作品は市民センターまつりに展示した。	10月15日・12月7日	2	11
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識や活動に必要な技能について学習する機会を提供した。	2月4日	1	46
★風にのって颯爽と！ ノルディックウオーキングを楽しもう！	自分のペースで手軽に取り組めるノルディックウオーキングを活用し、震災後の体力づくりの場を提供して地域住民の健康増進を図った。	9月9日・16日・22日	3	38

柳生和紙講座—和紙と暮らす	柳生和紙の歴史や工程にふれ、地域資源の大切さや伝統継承支援の必要性を学んだ。和紙の特性を活かしたランプシェードを製作し、ふだんの生活に活用できるアイデアを学んだ。	11月11日・18日・25日	3	36
★柳生シニアスクール	現代社会における様々な課題に対応していくための学習の機会を提供するとともに学びをととして受講生相互の交流を図った。 また、震災により転居してきた方々の集いの場となった。	7月27日～2月22日	8	264
子ども会世話人ネットワーク	地区子ども会世話人による情報交換の場を提供し、世話人相互の交流を図り、課題解決策を探りながら地区子ども会のネットワークづくりを推進した。	12月3日	1	10
柳生小学校社会学級・西中田小学校社会学級共催事業企画会	お互いの学習活動や地域情報を共有し、地域の家庭教育や健全育成向上に役立つ会議を持つことができた。また、センター事業への理解を深め今後の連携体制づくりにもつなげることができた。	6月30日・9月21日・2月29日	3	16
★柳生市民センター・児童館まつり	柳生市民センター利用サークルや管内小中学校・地域団体の学習成果発表の場として開催した。まつりを通して地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会の提供をした。新たな試みとして、震災後地域に転居してきた方々が気軽に集えるようジャグリングショーを開催した。	10月1日・30日	2	4,000
★柳生サタデーコンサート	気軽に音楽に親しむことで、震災後の心のゆとりを取り戻す機会となった。地域を拠点としているサークル発表の場として活動の活性化にも役立った。 ①尚綱学院大学生涯学習センター「うたごえサークル」および「アコーディオンサークル」 ②プラスアンサンプル「ブリタニア」 ③太白ウインドアンサンプル	7月23日・12月10日・2月18日	3	155
地域懇話会	中田西部地区町内会や小中学校ほか地域の関係団体の代表との懇談を通し、市民センター事業の紹介とともに事業への支援と協力を求めた。また、要望や意見を市民センター事業へ反映していくための場となった。	7月9日・9月27日・2月24日	3	50
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域づくりに活かすため、地域や市民センターの対応および復興状況を地域の各種団体から情報収集し記録した。	7月9日・29日・9月4日・27日・10月25日・11月5日・2月24日	7	—
「柳生伝承くらぶ」ボランティア養成講座	地域の歴史や文化等について次世代を担う子ども達に伝えていくための「伝承者」となるボランティアの養成講座として実施した。 地域の高齢者の方から、昔の地域の様子などをお聴きした。	11月19日・12月7日・2月8日・28日	4	26
お話ボランティアスキルアップ講座	22年度の「お話ボランティア養成講座」を受講後、活動しているボランティアおよび地域で活動するボランティアを対象にスキルアップを図るための研修を実施した。新たに3人がボランティアに参加。	8月31日・9月2日・9日・16日	4	36

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、社会教育法の制定に伴い、昭和26年4月秋保村公民館が設置され、昭和42年4月町制施行に伴い秋保町公民館、昭和63年3月仙台市と秋保町の合併により秋保公民館、平成元年4月に秋保市民センターと改称され現在に至っている。

馬場市民センターは、昭和52年3月旧秋保町時代に開設され昭和63年3月仙台市と秋保町の合併により馬場公民館、平成元年4月に馬場市民センターと改称され現在に至っている。

湯元市民センターも昭和53年3月秋保町時代に開設され、昭和63年3月仙台市と秋保町の合併により湯元公民館、平成元年4月に湯元市民センターと改称され現在に至っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	秋保郷土かるた大会		
参加者	地域住民	参加延人数	66人
開催日	全1回 1月14日(土)		
協力者・協力団体	共催:秋保学びのコミュニティづくり推進事業「がんばれ秋保っ子推進委員会」、秋保郷土かるたの会		
ねらい	秋保の風土・伝統・文化についてわかり易くつづった「秋保郷土かるた」を用いて大会を行い、自分達の暮らしている地域についてさらに理解を深める。また、小学生から老人会会員まで、広く世代間交流の場とする事で、地域の一体化を促進する。		
概要・成果	「秋保郷土かるた」を用いたかるた大会。秋保地区小中学生、地域住民が3人1組でチームを編成し対戦した。昨年秋保学びのコミュニティ推進事業の一環として事業を開催。秋保地区の小中学校をはじめとする各団体が一堂に会し、意欲的に運営に取り組む事で、相互の情報交換の場ともなり地域活性化につながっている。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
あきう子育て広場	親子で遊び、ふれあう大切さを学んだ。子ども達の成長に必要な栄養と食事の取り方を学んだ。親子で体を動かして楽しく遊んだ。	7月7日・10月13日・11月10日	3	56
秋保ファミリー体験講座「あきう遊々クラブ」	家族で、秋保の夏・秋・冬の自然観察とツリーイングを体験した。	8月20日・10月2日・30日・1月29日	4	54
インリーダー研修会	児童と保護者を対象にインリーダーの役割と親の役割を学習した。	6月18日	1	26
学びのコミュニティづくり推進事業「がんばれ秋保っ子」	秋保地区の小・中学生が学校の枠を越えて、キックベースボール大会やニュースポーツを体験し、交流を深めた。	10月16日	1	75
秋保自然紀行「森づくりとトレッキング」	秋保の里山の役割と自然保護について学習し、植生観察をしながらトレッキングと枝打ち作業を体験した。	10月12日・11月16日・12月7日	3	68
秋保自然工房「山の恵みクラフト」	里山の役割について座学で学習し、里山の自然素材でクラフトを制作。学習の成果を、地域の社会福祉施設で施設利用者と共に制作した。	9月4日・10月10日・11月20日・12月4日・20日	5	57

秋保の地産地消を考える「新しい料理を発信しよう！」	秋保の地場産品について学習し、秋保温泉のホテル料理長指導で地場産品を使った料理実習を行い、受講生のアイデア料理のコンテストを開催した。(コンテスト料理のレシピ集を作製した)	8月24日・31日・9月7日・29日・10月5日	5	100
市民企画講座「生活百科・馬場塾」～体操でリフレッシュ～	市民企画会議を経て企画した講座。腰痛予防やむくみに効果的なヨガの動きを取り入れて、体を動かし健康づくりに役立てた。	9月6日・13日・27日・10月4日	4	83
あきう熟年のひろば	地域小学校を訪問し、世代間交流や、防災・健康・文学・手作りなどさまざまな分野を学習した。	6月22日～2月16日	8	179
地域懇談会	馬場・湯元地区の住民を対象に、各市民センターで懇談会を開催した。	7月23日・11月23日	2	22
秋保ふるさと文化祭	市民センターで活動しているサークルや、中学生、幼稚園、個人及び主催講座の作品展示	10月22日・23日	2	1,004
秋保ふるさと文化祭移動展示会	秋保ふるさと文化祭で展示した作品を、秋保・里センターで展示発表	11月25日・26日・27日・28日・29日・30日	6	686
秋保ふるさと舞台発表会	秋保地域で活動している団体・個人の技芸発表	3月3日・4日	2	300
秋保地域出前講座	馬場・湯元地区の町内会や高齢者サークルと連携し、認知症や物作り、防災などの講座を開催した。	7月23日・8月4日・11月23日・12月11日・2月21日	5	83
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	4月1日～3月15日	35	112
秋保歴史散策「秋保郷の史跡巡り」～湯元編～	湯元地区の歴史を学習し、史跡をたどり、マップを作成した。また、昨年、一昨年学習した馬場、長袋・境野を、一つにまとめた秋保全体のマップも完成した。	6月25日～2月25日	8	96
市民企画会(市民参加型事業)	馬場地区の住民を対象にヨガの講座を企画し、市民による企画力醸成の一步となった。	6月29日・7月26日・9月6日・10月4日	4	22

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設し開館した。

富沢地区は、名取川・JR東北線・国道 286 号線に囲まれた地域で、中央部を笹川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと昔ながらの農地が混在する地域である。単身・核家族世帯が多く、住民の転出入の頻度も高い。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館、生涯学習の拠点として活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	富沢小学校連携事業「地域を知って富沢博士になろう」		
参加者	仙台市立富沢小学校 3 学年児童	参加延人数	218人
開催日	全2回 11月29日(火)、1月13日(金)		
協力者・協力団体	郷土の歴史を愛する会、富沢小学校保護者ボランティア、地域住民		
ねらい	富沢に存在する史跡について学び、興味や関心のあることから課題を見つけ、さらに、地域の史跡をクイズラリー形式で確認する。また、地域で受け継がれてきた行事を、地域の人たちと交流を深めながら体験学習することにより、地域に関心を持ち理解を深める。		
概要・成果	館外学習(史跡巡り)や体験学習(小正月の団子さし作り)を通して地域に伝わる歴史や、受け継がれてきた年中行事への関心や理解を深めた。また、学習成果をセンターに展示したことや、学校・地域・サークル・市民センターが協働で事業を実施したことにより、市民センターを核とした「出会い・ふれあい・学びあい」の場を提供できた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
おはなしの部屋	就園前の幼児が物語の世界に親しむきっかけ作りと、他の親子との交流の場を提供し仲間作りを支援した。	9月14日・11月9日・12月14日・2月8日・3月14日	5	291
よちよち子育て倶楽部	0歳～2歳までの幼児を持つ親へ、地域の子育て情報の提供と育児アドバイスをし、育児環境の充実を図った。	11月25日・12月2日	2	40
きらきら子育て倶楽部	2歳以上の未就園児を持つ親へ、子育てに関する学習や情報交換・親と子の交流と仲間づくりの場を提供した。	2月9日・23日	2	55
地元野菜と秋刀魚に親しむ食育講座	中学生が地元野菜と旬の魚の調理体験を通して、地域に根ざした食文化への関心を深めるとともに、地域住民との交流を図った。	9月27日・29日・10月4日・5日・6日・13日・18日	7	524
とみざわ子どもの広場	様々なテーマを設け、子供たちの体験・交流学習の場を提供し、自立や社会性の向上を図った。	8月19日・9月16日・10月21日・12月16日・1月21日	5	143

インリーダー研修会	子供会活動のための児童と世話人向け研修会	2月19日	1	62
富沢界限歴史散歩	地域にある遺跡や知的財産について学び、地域周辺に目を向け、理解し愛着を深める機会を提供した。	10月23日・30日	2	49
あつまれ仙台ビギナー～ようこそ富沢へ～	転入者を対象に、地域情報の発信や交流を図り、地域コミュニティ参加の契機とし、育成の一助とした。	12月16日・1月20日	2	26
★市民企画講座「あれから一年”食”きのう・今日・明日」	東日本大震災から一年がたち、命をつなぎ生きる活力となった食について、生産者からのメッセージや保存食・常備食などを先人の知恵から学び、今後に生かした。	2月24日・3月2日	2	42
富沢シニアクラブ	高齢者の生涯学習の推進と親睦を図った。	9月15日・10月13日・11月17日・12月8日・1月19日・2月16日	6	234
社会学級共催事業企画会	小学校区の学習団体と協力・情報交換しながら、地域の家庭教育向上を目指した事業を、企画実施した。	6月23日・7月21日・28日・2月17日	4	16
★社会学級共催事業「地域とともに～一歩前へ！～」	地域住民が地域の復興や人の絆を考える契機となった。また、震災後の地域の子ども達や住民の心を癒し、活力を取り戻す一助となった。社会学級との共催により幅広い参加者層の関心を高めた。	11月22日・2月17日	2	160
富沢市民センターまつり	市民センター利用団体・町内会等の参加発表の場とし、地域住民のコミュニティづくりの場とした。	10月1日・2日	2	2,000
富沢市民センター懇談会	地域課題やニーズの収集、情報の共有化を図り、センター事業の運営に活用した。	11月2日・3月3日	2	15
★復興と平和への思いをひとつに伝承七夕をつくろう！	市民センター利用者に声掛けし、一緒に鶴や短冊を作成するなど、東日本大震災からの復興への想いを込めて七夕飾りをつくり、それぞれの一歩を踏み出す一助とした。	7月26日・27日	2	56
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域、市民センターの対応及び復興状況を把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体から情報収集・記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とした。	10月16日～3月31日	1	6
図書ボランティア養成講座	新規ボランティアの育成と、既存ボランティアのスキルアップ行い、図書室運営を充実させた。	8月3日・9月7日・10月5日・1月21日	4	19
市民企画会議「食を考える」	健康な生活に必要な不可欠な「食」をテーマにした事業を、企画・実施した。	10月12日～3月2日	8	32

泉区中央市民センター

〔 浴 革 〕

昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設され、昭和 43 年 7 月には、市名坂字東裏の現在地に移転し、今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。平成 16 年 1 月、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館としてオープンした。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と仙台市の副都心として急速に発展した泉中央地区を包含する地域であり、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図るため、拠点館として機能がますます重要になってきている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	語って！泣いて、笑って！泉中サロン		
参加者	地域住民	参加延人数	26人
開催日	全2回 12月1日(木)、12月9日(金)		
ねらい	悩みを抱えている人は語ることで気持ちが晴れることが多い。今回の東日本大震災においては、地域の誰もが被災し、つらい経験をした。その体験を語り合う場として気軽に参加できるサロンを開催し、住民同士の交流を深める。		
概要・成果	臨床心理士や臨床美術の専門家による講話と実技体験を開催し、受講者自身が自分の震災ストレスに気づきその軽減を図った。また互いの作品を鑑賞しあうことにより参加者同士の交流を促した。次年度の「泉中央交流カフェ」の開催に繋がり、その際泉区社会福祉協議会との連携が決まった。		

〔平成 23 年度 (地区館) 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
★パパ&ママふあんふあんフェスタ	原発による放射能汚染の影響に不安を感じている親子を対象に、一番身近な「食」を通じて子どもたちをいかに守り育てるかを学んだ。講話終了後、試食をしながら語り合いの時間を持った。	12月8日	1	29
お話広場	未就学児対象の絵本や紙芝居の読み聞かせと、参加者がお気に入りの本の魅力を紹介し合い、読み聞かせを実践するなど、絵本の効果や育児についての情報交換を行った。	3月7日	1	11
泉中シニア塾文化コース	「歴史に残る地震と津波について」「フェルメールの魅力を探る」「民話に学ぶ先人の知恵」「楽しく記録を残してみよう」「昭和の歌謡史」講話を中心に学んだ。	9月28日・10月12日・11月9日・12月7日・1月11日	5	185
泉中シニア塾健康コース	「歴史に残る地震と津波について」「楽しく生きる・明るく生きる」「介護予防」「かまぼこの健康機能性」「昭和の歌謡史」など講話と実技をとおして学んだ。	9月28日・10月26日・11月30日・12月21日・1月11日	5	143

★みんなの音楽会	「高校生の合唱」「シンガーソングライターの弾き語り」「トーンチャイムによる秋のコンサート」「高校生の吹奏楽とゴスペルによるクリスマスコンサート」「仙台市市民文化事業団共催街かどコンサート」を開催し、地域の方々に様々な音楽に触れてもらった。	6月4日・18日・10月15日・12月18日・3月9日	5	258
★防災講座	地域住民を対象に救命救急講習会を行った。避難所生活で発症しやすいといわれているエコノミークラス症候群予防について講話と実技をとおして学んだ。	11月11日・2月8日	2	24
社会学級連携企画会	七北田・市名坂小学校の社会学級生を企画員として、地域住民のための講座を企画する。	7月6日・8月25日・9月29日・10月28日・11月16日・12月22日・1月13日・18日	8	50
まつりだよ！泉区中央！	各サークルによるステージ発表、作品展示のほか、復興支援のアート作品の展示、巨大落書き体験、産直野菜や加工品の販売、お茶席、手作り体験など、盛りだくさんの内容で地域の方々と交流した。プレ企画として群読会を開催した。	11月20日・12月3日・4日	3	396
★泉中懇話会	震災当時の地域の状況や問題点や今後の避難所運営等について情報の交換を行った。市民センターの利用方法や地域連携事業の持ち方について情報交換を行った	9月17日・3月3日	2	17
★東日本大震災後の地域の活動記録	指定避難所、地域避難所の様子を職員や町内会長などに聞き取り調査を行った。	6月21日・30日・7月22日・27日・8月3日	5	9

根白石 市民センター

〔沿革〕

昭和 21 年 11 月、根白石小学校内に設置され、昭和 23 年役場の移転に伴い独立施設としての活動がはじまる。昭和 28 年公民館新築促進が決議されてから 10 年の経過を経て昭和 38 年 7 月、待望の公民館が移転新築された。以来 20 年余、根白石唯一の社会教育施設として活動を続けてきたが、老朽化により昭和 63 年根白石字杉下前に新築移転、4 月に開館した。

当センターは、泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景に豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、又スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

館の特色として、299 席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有する。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	昔あそびボランティアスキルアップ講座		
参加者	成人	参加延人数	17人
開催日	全4回 11月10日(木)、12月22日(木)、1月26日(木)、2月9日(木)		
ねらい	平成 22 年度で実施した、身近にある竹を活用した「昔あそびボランティア養成講座」で身につけた技をより磨き、応用創作の技量を向上させボランティア活動の場を広げられるようにする。		
概要・成果	野菜鉄砲、和凧づくりで竹の素材としての汎用性の広さを学んだ。 受講生が三小学校(根白石、福岡、実沢)を訪問し、卒業生の夢を寄書して掲げてもらうように、完成した凧を寄贈した。学校訪問のきっかけとなり、ボランティア活動の一步が見えた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
あつまれ!元気キッズ	福岡小学校・実沢小学校・根白石小学校に出向きさまざまな遊びや体験を提供	7月27日・9月27日・10月4日・26日・11月18日	5	145
市民企画講座「男のくつろぎ交流会ー料理と語り」	男性向けの調理実習を実施。2 回目の調理実習実施後地域で活動中のサークルのみなさんとの交流会を実施	2月29日・3月14日	2	28
ストレッチ!心とからだのリセット時間	託児付き講座を開催し、子育てで溜まった疲れやストレスを解消する軽運動を実施	11月18日・25日・12月2日	3	19
さわやか大学	震災後関心の高いテーマや陶芸、転倒防止、大正琴とオカリナコンサート、声帯と表情筋を鍛えることで若々しく元気に過ごすコツなどを学んだ。	10月20日・11月17日・12月15日・1月19日・2月16日	5	144

出前講座	地域の集会所に出向き、落語や読み聞かせを実施し来館しにくい高齢者に学びの機会を提供。	7月27日・9月27日・10月4日・26日・11月18日	5	89
根白石民俗ミニ七夕づくり	住吉台・川崎福岡地区の老人会のみなさんを対象に地域の集会所を会場に根白石に伝わる七夕を制作。祭り当日会場に飾り地域行事に参加。	7月12日・20日・26日・27日・8月2日・4日	6	65
★東日本大震災-あの時地域では！	東日本大震災の時の地域での対応を振り返り、今後の地域の防災の対応課題について考えた。また泉消防署防災アドバイザーによる講話	11月9日	1	22
冠のふるさと伝承まつり	根白石小学校・福岡小学校・実沢小学校・根白石中学校の子どもたちが、各地域に伝わる貴重な郷土芸能を地域の保存会の方から指導を受け、その成果を発表	10月15日	1	370
地域ぐるみふれあいコンサート	管内3校に今年は高校生が加わっての吹奏楽合同コンサートを実施。地域の交流に役立っている。	11月5日	1	239
市民センターまつり	震災を受け、地域のつながりをより深められるよう、町内会と協力し実施。まつり実行委員会形式での開催の足がかりとなった。	11月5日	1	400
ふれあいウォーキング	根白石町内会と共催し健康講話と毎日を健康に過ごすための運動を紹介。その後、町内会をみんなでウォーキング。町内会による昼食会を実施、親睦を図った。	10月30日	1	64
地域懇談会	地域住民から広く意見を交換し地域課題を共有できた。	12月15日	1	19
★東日本大震災後の地域の活動記録	地域懇談会や利用者・町内会の各種団体から、震災に関連した事情聴取や情報収集を行い今後の地域づくりに役立てる。	通年	1	—
市民企画会議「男のくつろぎ交流会」	定年後の男性を対象に仲間づくりや地域活動のきっかけづくりについて話し合い、講座を企画した。	12月7日・14日・21日・1月18日・2月29日・3月14日 (2回)	7	20

南光台市民センター

〔沿革〕

昭和52年4月、南光台公民館として開館し、昭和62年8月に泉図書館南光台分室がセンターに併設された。その後、平成2年4月に南光台市民センターと改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成23年3月の東日本大震災により使用不能となり、平成23年4月より仮事務所で生涯学習事業を行っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★南光台地域防災力向上計画		
参加者	南光台中学校生徒・南光台地域町内会役員・地域住民	参加延人数	1,235人
開催日	全4回 6月27日(月)、7月9日(土)、11月21日(月)、2月22日(水)		
協力者・協力団体	南光台中学校・泉消防署八乙女分署・南光台地区町内会・老人会・婦人会 他		
ねらい	高齢者の多い南光台地区において、地域の防災力として中学生が果たす役割は大きい。災害発生時の様々な想定をもとに 中学校と地域の関係団体が協力しながら、各方面で連携した体制を整えていく。		
概要・成果	防災講演会、実技学習(簡易トイレ組み立て、非常食づくり、救急救命AED訓練、災害用伝言ダイヤル実践、多言語表示学習)、地域防災連絡会を行った。 中学生にとっては、地域の方たちと一緒に活動ができ、地域の一員としての自覚が生まれた。また災害に対する危機意識や共助の大切さが、中学生・地域住民それぞれの立場でさらに強く認識されるようになった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
仙台の伝統を学ぼう 「仙台凧作りにチャレンジ」	南光台小学校2年生全員を対象に、伝統の「仙台凧」作りを体験してもらおう。講師として「南光台学院生」と「昔あそびわらすこの里」のメンバーを迎えた。	12月3日・10日・17日・1月31日	4	150
ワケルくんに学ぼう	子どもの社会性や、豊かな情緒を育むための、学習の機会を提供する。環境について学習している4年生を対象に、ごみの分別について学習した。	10月19日	1	134
ジュニアリーダーと遊ぼう	市民センターで活動しているジュニアリーダーのスキルアップと活動の広報をめざし、ゲームを中心に講座を実施した。(南光台児童館・南光台東児童センター)	1月21日・3月27日	2	50
★伝統ある日本文化で癒されよう	震災後の南光台住民の活力を取り戻し、精神面からの復興を図った。遠野民話をきく。篠笛と箏の演奏を味わった。	11月18日～12月13日	9	160

南光台学院	地域に暮らす高齢者が様々な視点から学び、自らの視野を広げる機会と仲間づくりの交流の場を提供する。講話・実技・見学等を実施した。	6月3日～ 2月17日	9	371
★東日本大震災復興コンサート in 南光台 2011	恒例のコンサートの開催が難しいため、「新日本フィル交響楽団ミニコンサート」の開催により地域住民の癒しの場を提供した。	12月10日	1	210
「台原森林公園」一知 られざる魅力を探る 一	多様な動植物を育む台原森林公園をフィールドに、地震によるダメージや、地震後の再生状態を学んだ。	10月18日	1	11
南光台にひびけ大地 の歌	南光台中学校合唱コンクールに、市民センター利用団体が参加をし、地域復興の絆を強くする。コーラス指導者の中学校派遣。ほか	7月12日・13 日	2	455
社会学級連携企画会 議	南光台小・南光台東小の社会学級生と企画会議を行い、地域に向けて発信することを目的に講座を企画した。	10月13日	1	20
★東日本大震災後の 地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や各種団体からの意見聴取などで情報収集や記録をする。今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	通年	10	200
★地域懇談会	東日本大震災後の地域状況について、町内会や各種団体から情報収集し今後の地域づくりの参考にする。	2月22日	1	37

黒松市民センター

〔沿革〕

昭和47年4月開館の八乙女公民館(旭丘堤1丁目、建物面積144㎡)を前身とする。平成4年10月移転新築により、拡充され「黒松市民センター」として、地下鉄黒松駅に隣接する現在地(黒松1丁目、延床面積1,491㎡)に開館した。

当市民センターは地域における生涯学習の拠点として、また、交通の利便性により広域からの施設利用者にも活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●防災プロジェクト2011 ～その時わたし達にできること～		
参加者	地域住民、中学生	参加延人数	885人
開催日	全1回 10月26日(水)		
協力者・協力団体	八乙女中学校、泉区役所、泉消防署、仙台市水道局		
ねらい	高齢化した地域の中で災害時に貴重な労力を提供できる中学生が、災害時の「共助」を目指し、適切な対応や処置ができるよう、地域住民と一緒に防災体験学習を行う。		
概要・成果	①講話 ②実技(簡易トイレ組立体験、避難所体験、バケツリレー、AED、消火訓練、濃煙体験) 東日本大震災で中学生の活躍が見られたことから、連合町内会と合同での訓練が徐々に定着化してきた。また、中学生にとって体験を通じて地域の課題に取り組むよい機会を提供することができた。学校としても有意義な体験学習であり、さらに内容をレベルアップしていきたいとのことである。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
黒松おやこひろば	未就園児の親子が気軽に集える場の提供。絵本の読み聞かせ・紙芝居・手遊び・軽体操 等。終了後は交流タイムを設け、子育てについての情報交換など行った。	6月24日～3月2日	10	141
パパママ一緒に親子でレッツダンス	父親が比較的参加しやすい日曜日に、未就園児から小学校低学年の子どもを持つ家族が、運動とチアロダンスを通して、親子のスキンシップと家族同士の交流を深めた。	1月22日・29日	2	85
わくわくタイム	子ども達に様々な体験の場を提供し、気づいて学ぶ楽しさの習得を図る。昆虫採集と標本づくり。土壌生物の観察。立体工作。国際交流の体験と調理。黒松児童館との共催のスポーツチャンバラ 等	7月28日・8月3日・9月10日・11月19日・2月4日・3月4日	6	130
黒松どきどきキャンパス	小学校高学年～中学生むけの体験学習。バルーンアート作りを学び、センターまつりにてボランティア活動。東北大サイエンスエンジェルによるワークショップ。東北工大生に発電とモーターの仕組みなどを学んだ。	9月19日・10月15日・1月14日	3	48

健康講座ノルディックウォーキング黒松歩き隊in台原森林公園	地域資源である近くの公園を会場にノルディックウォーキングを行い、心身のリフレッシュおよび健康増進を図る。様々な住民の参加ができるよう手話付講座として実施、また仲間作りと継続的に運動できるようサークル化を推進。	10月4日・12日・18日	3	22
★震災で気づいた大事なこと～食から今の暮らしを見直そう～	社会学級共催事業検討会を経て企画された講座。震災を通して、今までの便利で豊かな生活が当たり前ではないという気づきを、今後の生活に役立てるため、食材のあり方と活かし方の講話、および調理実習を体験。	2月9日	1	34
黒松寿大学	高齢者が意欲的に学習し、健康で心豊かに生活を送るための生涯学習の機会を提供する。〔内容〕運営委員会で決定。声楽・笙コンサート、仙台市の昭和史、江戸しぐさに学ぶ、コーヒーの淹れ方と交流他	9月15日・10月20日・11月17日・12月15日・1月19日・2月16日	6	285
黒松ポッチャ大会	高齢化の進む地域で、地域活力向上の一助となるよう、関係する団体と共催して、ニュースポーツのポッチャ大会を開催。職場体験学習中の中学生による準備や運営手伝いにより、参加者との交流が生まれる。	11月8日	1	32
社会学級共催事業検討会	センターエリアの八乙女中学校校区の2つの社会学級と協力して、地域の課題を共有し、地域のネットワークや生涯学習環境の整備・向上を図り、共催事業を企画する。顔合わせ/内容検討/講座開催/評価と反省	6月15日・7月12日・9月21日・10月5日・1月26日・2月9日	6	26
黒松市民センターまつり	地域団体や地域住民と協同し、「地域の人々の集うまつり」を目指す。〔内容〕実行委員会で内容を決定。サークルや学校等からの作品展示、舞台発表。中学生やジュニアリーダーのボランティア参加による、子ども向けイベント、町内会等の出店	9月24日	1	1,650
黒松市民センター懇談会	地域課題の共有・解決のため、地域団体との情報交換やコーディネーターとしての役割を果たす場とする。〔内容〕震災対応、情報交換、市民センターの役割等紹介、次年度地域行事日程調整確認	7月26日・2月28日	2	46
★ゲームで学ぶ防災	東日本大震災時は様々な難しい判断を求められる場面が多々あったが、関係団体と連携して、こうした場面での対応力についてクロスワードゲームを通して学習。町内会、防災関係者、中学生等の参加による意見交換の実施。	12月18日	1	39
★黒松みんなの輪コンサート	震災で、使用できるホールが限られた中、音楽の癒し効果で、元気になり地域の活性化につなげる。仙台ブリティッシュプラスバンド・八乙女中学吹奏楽部・八乙女社会学級コーラスグループの3団体によるコンサート	12月17日	1	160

将監市民センター

〔沿革〕

昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として「将監会館」が開館した。昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月「将監市民センター」と改称された。

平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月新装開館し現在に至っている。当センターは、軽スポーツ活動が可能な多目的ホールを有し、多くの人々に利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★社会学級共催事業「暮らしの防災セミナー」		
参加者	社会学級生および地域住民	参加延人数	企画会議:32人 防災セミナー:50人
開催日	企画会議: 全4回 7月14日(木)、9月6日(火)、11月16日(水)、11月29日(火) 防災セミナー: 全1回 11月29日(火)		
協力者・協力団体	将監小学校社会学級・将監中央小学校社会学級・将監西小学校社会学級		
ねらい	将監地区の3社会学級と共催し、「社会学級共催講座企画会議」を経て地域住民のニーズを反映した事業を開催し、世代間交流と地域住民の交流の推進を図る。震災後、防災対策への関心が高まっているなか、普段からできる身近な防災対策について学ぶことで、災害に対する不安を解消し防災に強い地域づくりに資することを目的とする。		
概要・成果	防災キャスターを講師に迎え、3.11大震災の体験と活動についての講話と、ペットボトルや電球を使った科学実験を通して、防災対策について学んだ。 市民センターが3社会学級と企画会議をもち事業を行うことで、連携が深まり、より多くの地域情報の共有が図られた。 また、普段からできる防災対策について科学実験を交えながら学ぶことで、各人が災害に対する不安を解消し、防災意識を高める良い機会となった。自助・共助・公助について、また、日頃の心がけの大切さについて改めて再認識することができた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
こどもチャレンジ講座「サイエンス・マジック」	1 回目、泉ヶ丘小学校において実施「ペットボトル風車で発電してみよう」。2回目、市民センターで実施「色が変わる水-液体の性質を調べます」。	8月4日・1月9日	2	46
将監こども映画館	地域の子どもたちに映画上映と、ボランティアグループによる絵本の読み聞かせを行った。折り紙のボランティアグループ作成の折り紙作品を参加者にプレゼントした。	8月18日・12月3日・2月4日	3	183
泉ヶ丘小学校連携講座「夏の講座」	市民センターで活動している講師を、交通アクセスが不便で来館が困難な泉ヶ丘小学校に派遣し、泉ヶ丘地区の児童・保護者・地域住民を対象に、夏休み期間中に多様な体験会を開催。	7月16日～8月12日	10	109

将監東中学校連携講座「災害に備えて」	災害に備えて、将監東中学校生徒、職員が避難訓練を行い、その後、東日本大震災の DVD を鑑賞し、泉消防署員による講話を聴いた。	11月15日	1	402
あなたもわたしも筋力UP！	講話と実技を通して自宅でできる筋力トレーニングやストレッチ運動について学んだ。若い世代も参加できるよう託児付講座とし、地域の人達の交流を深めた。	1月20日・27日・12月3日・10日	4	92
将監寿大学	地域の高齢者を対象に、健康で生きがいのある毎日を過ごせるように、健康・環境・歴史・文化など身近な問題・課題について学習した。	7月20日～2月21日	8	283
つくろう！仙台七夕飾り	仙台七夕まつりについて学習し、七夕飾りを地域に飾り付ける。折り紙ボランティアサークルに活動の場を提供し、資質の向上を図った。	6月25日・7月9日・16日・23日・30日	5	82
天体観望会～夜の星空散歩～	親子・家族・地域の方々がベガ号で夜空の星を観測した。	3月16日	1	20
将監ふれあいコンサート	地域の人たちが年齢を問わず幅広く参加できるコンサートを開催し、地域住民の交流を行った。演奏内容はフルート、吹奏楽、声楽、女性コーラス。	11月3日	1	350
街かどコンサート	在仙の若い音楽家5人による、マリンバとピアノの演奏会を開催した。	3月4日	1	150
将監児童館・将監西児童館・将監児童センター・将監市民センター4館共催事業「グラウンドゴルフ大会にあつまれ」	将監地区の児童館、児童センター、市民センターが共催して、子どもから高齢者までが気軽に参加できるパッゴーを実施し、世代間交流を行う。雨天のためグラウンドゴルフは中止とした。	9月3日	1	45
社会学級共催講座企画会議	地域の3小学校の社会学級と共催し、地域のニーズにあわせた事業を実施するための企画会議を実施した。	7月14日・9月6日・11月16日・29日	4	32
将監市民センターまつり	市民センターの利用団体が学習の成果を発表する場として、展示発表、舞台発表、サークル体験を行った。	10月2日	1	1,500
★将監地域づくり懇談会“3.11”を語り合おう	地域団体、地域内の小・中学校、保育所、児童館、児童センターの代表、地域住民参加による懇話会。震災後の状況を情報交換し、地域課題解決の糸口を探った。	8月27日・9月10日	2	31
★東日本大震災の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応および復興状況を正確に把握するため、利用者、町内会等各種団体から情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	通年	1	-
ジュニアリーダーといっしょにチャレンジ！	ジュニアリーダー「将監くれよん」メンバー3人の指導により、地域の小学生がフリスビー作り、集団遊び、なわとびのダブルタッチを行い、集団遊びの楽しさを体験した。	8月19日	1	53
サークル体験しませんか	センターを拠点として活動しているサークル25団体が体験会を実施した。	2月14日・15日・16日・17日・18日・19日	6	47

加茂市民センター

〔沿革〕

昭和58年4月、加茂公民館として開館した。その後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成2年に現施設名に改称された。平成10年には併設していた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成5年4月の長命ヶ丘市民センターの開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺には加茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	シニアカレッジ		
参加者	高齢者	参加延人数	108人
開催日	全5回 10月20日(木)、11月10日(木)、12月8日(木)、1月19日(木)、2月16日(木)		
協力者・協力団体	地域参加者6名		
ねらい	中高年の方々に多方面からの講座を提案し、市民センターの講座に気軽に参加していただけるようにする。また、仲間づくりや学ぶことに積極的に意欲をもてる様、継続的な学習の発展へと繋がって行くことをねらいとする。		
概要・成果	地域の高齢化が進み、市民センターでの高齢者向けの継続的な学習への要望に応えることができた。 受講者からも続けて講座を受けたいとの要望があり、平成24年度には老壮大学「ワイワイ若がえり塾」として発足する事となった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
加茂中学校区青少年健全育成推進協議会との共催事業	中学生と地域の方を対象に、携帯電話の安全な使い方、迷惑メールや架空請求の実態と、それぞれの対処法について学んだ。	11月17日・12月12日	2	266
加茂中学校へ行ってみよう	中学校の選択授業の染物体験でストールを染め、自校給食の給食体験をし、また、地域との繋がりについての講話を校長先生より伺った。	9月27日	1	20
加茂地域防災協議会共催「いざという時のために防災について学ぶ」	今回の東日本大震災の教訓と反省点を踏まえ、加茂地区総合防災訓練、加茂中校長先生による、防災に関する講話・仮設トイレ設置・アルファ米の炊き出し等をおこなった。	10月1日	1	294
●加茂市民センター出前講座	区役所の区民生活課と連携し、虹の丘地域の防犯診断講習会・防犯パトロールの強化等の講話を泉警察署職員より伺った。	12月22日	1	20

ウォークラリーで町探検	異年齢の子ども達がグループになり、チェックポイントを歩きながら、問題をみんなで考えて解き、ゴールに戻ってくる。町を探検した。	12月17日	1	51
加茂地域防災協議会共催 「いざという時のために」	救命救急・応急手当での講習会。心肺蘇生法・AED救命／三角巾法などを学んだ。	6月26日	1	84
地域懇談会	①虹の丘地域の各種団体との情報交換と交流会②市民センター事業の紹介・格団体事業報告及び情報交換。	1月7日・25日	2	38
★東日本大震災の地域の活動記録	震災後の地域全体・市民センターの対応及び復興状況などの情報収集・記録することにより地域づくりを進める。	通年	—	—

※改修工事のため、平成23年9月1日から平成24年4月16日まで休館

高森市民センター

〔沿革〕

当センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として平成元年 4 月高森公民館として開館した。その後、機構改革に伴い高森市民センターと改称された。

この地域は、昭和 48 年以降、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか高森東公園や高森西公園などには豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的である。

町内会や地域ボランティア団体を中心に、「新しいふるさとづくり」を目指して、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化を推進している。その中で、地域への愛着心を育む交流の場として多くの地域住民に利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	高森ミニ農園		
参加者	成人	参加延人数	382人
開催日	全13回 5月14日(土)、5月28日(土)、6月11日(土)、6月25日(土)、7月9日(土)、7月16日(土)、8月6日(土)、8月20日(土)、9月10日(土)、9月17日(土)、10月1日(土)、10月22日(土)、11月12日(土)		
協力者・協力団体	高森ミニ農園ボランティア・世話人		
ねらい	土作り・堆肥作り・野菜の栽培・収穫・調理・野菜くずの堆肥化と一連の流れを実践する有機栽培の野菜作りに取り組むことで食の安全を考える。また、郷土料理や保存食などを作ることで参加者同士の交流を図りながら、健康的な食生活の実践を目指す。		
概要・成果	震災により、開講が遅れたり講座実施回数が減ったりしたが、世話人の丁寧な指導のもと、初心者でも講座の中で野菜作りの一連の流れを学ぶことができた。 開講以来20年の高森ミニ農園の実績を活かすべく、世話人を中心に地域貢献の機運が高まり、地域・世代間交流の重要なきっかけとなりつつある。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
★高森地域防災講座「いざ！という時、私たちにできること」	地震発生に備え、中学生と地域住民が災害発生時の様々な支援活動について学び、自分達にどのようなことができるかを考える機会を提供する。	10月26日	1	298
チャレンジ！！楽しい工作	小学生を対象に科学を活用したサイエンス工作「虹のふしぎ」虹の仕組みを学び実際に虹を作る体験工作を実施。	8月3日	1	18
伝統行事を学ぼう	地域の伝統行事を子供達に継承し、各世代間の交流を図る。ミニ七夕作り、小正月のだんごさし。	7月26日・1月14日	2	27
インリーダー研修子ども会交流会	子ども会活動の充実を図り、地域の子ども会のリーダーとして活動する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション・工作・ゲーム等を学習した。	11月26日	1	99
わら縄をなってみよう！	小学生が地域の縄ないサポーターの指導の下、稲作の産物であるわらをなう伝統技術体験。	11月16日・25日	2	91
地域安全マップを作ろう！	小学生が、地域内の犯罪が起こる危険性が高い場所を歩いて探しマップを作成し、危険を察知して回避できる能力を身につける。マップサポーターや保護者、地域の方などに協力を得て完成したマップを使い発表。	6月17日・7月1日・2日・9日	4	156

地域の技もち人に学ぶ	地域の特技を持っている人材を発掘し、講師として地域の方が気軽に参加できる講座を実施。金魚ねぶたづくり、韓国家庭料理。	7月8日・15日・10月27日	3	37
私のチャレンジタイム	心身の健康を保つために様々なことに挑戦し、生活のリフレッシュ図った。育児中の方の社会参加のきっかけと地域の方との交流。ストレッチ、エコ家事、子供に安心して食べさせられる野菜スイーツ作り。	9月2日・30日・10月14日	3	53
健康ウォーキング～高森の魅力を訪ねて～	地域内の堤や公園等の自然に触れながら歩き、誰もが気軽に取り組めるウォーキングを通して健康増進を図った。	6月9日・30日・7月7日	3	28
困ったときの男性料理	非常時に、家に買い置きしてある保存食などを利用して、郷土料理やフライパンで作るナンを手作りした。また、食生活における男性の自立を目指す学習となった。	7月5日・26日	2	21
レク体操交流会	音楽を使った体操やゲームを通して、地域住民と地域にある授産施設通所者との交流。障害者が安心して暮せる環境を作り、地域住民の障害者を支援するきっかけを作った。	2月5日・16日・23日	3	134
高森塾	高齢化社会に適応した学習活動を推進し、学習を通して受講生同士の親睦を深め、健康で生きがいのある生活を目指した。国際交流、健康講話、歴史講話、音楽、施設見学等。	5月27日～2月24日	9	360
高森福祉地域交流大会「高森ふれあいちんどんパフォーマンス」	活動10周年の記念事業として、震災後の地域を盛り上げる機会とし、「ちんどんパフォーマンス」を通して昭和の時代を回顧共有することで、子供達には昔の生活文化に触れる機会となった。	11月26日	1	160
高森小学校社会学級連携企画会議	高森小学校社会学級と市民センターが、共通の課題について企画会議を開き、地域に向けて発信する講座を企画した。	1月12日・21日・2月17日・3月3日	4	5
高森福祉地域交流大会企画会議	高森東社会福祉協議会に所属しているボランティア、「もくれん」と連携して高森福祉地域交流大会を企画、運営。	8月4日・10月15日・28日・11月1日・26日	5	22
星空ミニミニコンサート	地域で音楽活動をしている人材を活用した夜間コンサート。和楽器琴と尺八の演奏。	8月19日	1	18
★街かどコンサート in 高森	避難所運営の教訓を踏まえ、地域交流と地域の活性化を図り、地域住民が気軽に参加できる行事(コンサート)を実施。	3月3日	1	55
高森市民センターまつり	センター利用団体や、地域活動団体の生涯学習の場として、また地域住民の交流の場としてセンターまつりを開催。作品展示、舞台発表等。	9月24日・25日	2	4,370
★高森地域懇談会「高森地域の震災対応について語ろう」	東日本大震災の経験を踏まえて、地域との連携をより深めるため、市民センター運営に対する意見を交換し、地域課題等を地域住民と共有する場として、懇談会を開催。	9月3日	1	8
★東日本大震災後の地域活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握し、懇談会や利用者、町内会等各種団体から直接聴取し情報収集、記録を資料として残した。	通年	1	—
縄ないサポーター養成講座	稲作の産物である、わらをなう伝統技術を体得し、地域の小学校との連携事業にサポーターとして活動する人材を養成。	10月21日・28日・11月16日・25日・12月9日	5	70
高森市民企画会議	地域住民が自らの知識や経験を生かし、多方面に渡る情報や人材についての情報を収集し、地域の課題やニーズに応える講座を企画、運営。	5月13日・7月5日・26日	3	31
サークル体験会	市民センターや地域で活動しているサークル団体の活動を見学。参加サークル15団体。	2月14日・15日・16日・17日・18日・25日	6	28

松陵市民センター

〔 沿 革 〕

松陵市民センターは、泉区の北東に位置する松陵ニュータウン内にあります。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の6つの町をエリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれています。付近には、街路樹ロードとスポーツ施設のある松陵公園があり、幅広い年齢層の方が自然を愛し、親しんでいる姿が見られます。

当施設は、生涯学習の拠点として、市民に大いに利用され親しまれることを目指して、事業推進に努力しています。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔 特色ある事業 〕

事業名	松陵っ子土っと来い！まつり		
参加者	地域の子どもと親	参加延人数	600人
開催日	全1回 11月5日(土)		
協力者・協力団体	松陵地区各団体(松陵小学校・松陵西小学校・松陵小学校 PTA・松陵西小学校 PTA・松陵小学校区子ども会育成会・松陵西小学校区子ども会育成会・松陵児童センター・はつらつ遊樹会・松陵 YOSAKOI 隊・松陵生活学校・松陵えほんの会)		
ねらい	子どもたちの居場所作りと活動の場として「松陵っ子土っと来い！まつり」を行ない、子どもたちの健全育成と地域活性化を図る。		
概要・成果	地域の各団体が、市民センターを会場に子どもたちのまつりを行なった。子どもたちが、各団体の楽しいブースをスタンプラリーで回りながら体験していく。(リサイクル工作・的あてゲーム・折り紙・安全教室・バルーンアート等) 子どもたちの居場所作りと活動の場として定着し、年々参加者が増えてきている。今年は特に親子連れが多く、楽しく活動している様子が見られ、親子のコミュニケーションの場ともなった。		

〔 平成 23 年度 事業実績 〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
共催事業「ワクワク！ドキドキ！てんたん人形劇がやってくる！！」	多くの親子が参加できる事業として、人形劇を実施する。向陽台児童館で開催することで、向陽台地域への周知拡大を図った。	10月19日	1	40
子どもゼミナール'11	体験学習を通し、子どもたちの創造性や社会性を育み、さらに年齢を超えた子どもたちとの交流を図る。料理、工作	12月3日・12月10日・1月21日	3	68
いきいき楽々講座	高齢者が、いきいきと元気で有り続けるための生きがいづくりや、交流を図る場を提供する。一般教養、福祉、健康、歴史等	7月8日・9月9日・10月14日・11月11日・12月9日・1月13日・2月10日	7	299

男の料理教室	男性高齢者が、家族に頼らずに食事の用意ができる為の、初歩的な料理講座を開催し、食への関心を深めると共に高齢者の自立を促した。	2月1日	1	8
なごみコンサート'11	センター利用団体の演奏発表の場作りとともに、近隣住民の気軽な来館促進を目指す。	11月19日・2月25日・3月10日	3	161
荒川智子ファミリーアンサンブルコンサート「しあわせのたね」	地域住民も気軽に聞けるコンサートとして、地域活性化へとつなげた。	9月16日	1	251
「デイキャンプとオリエンテーリング」	地域諸団体と共催し、小学生の親子や地域の方々が気軽に参加できる事業を行う。火おこし体験やオリエンテーリングを行った。	10月8日	1	138
松陵ふれあい合唱	小学生から成人まで、幅広い年齢層で共に歌う楽しさを学び、交流を図った。	9月17日・24日・10月1日・8日・15日・22日・29日	7	124
第20回松陵ふれあいコンサート合同練習	地域の小・中・高の先生や大人達の指導者を中心に、青少年と共に吹奏楽練習を通して、技術の向上と心身の健やかな成長を培い、異世代間のコミュニケーションを図った。	8月21日・10月10日・23日・29日	4	880
第20回松陵ふれあいコンサート	小学生から社会人まで、地域の方々が吹奏楽の演奏や合唱のコンサートに参加することで、異世代間交流・地域交流を図った。	10月30日	1	500
松陵小・松陵西小社会学級共催事業企画会	地域の2社会学級と共催し、地域活性化のための事業を企画した。	6月17日・8月30日・10月26日・3月10日	4	8
第22回松陵市民センターまつり	センター利用団体・地域団体・地域住民の活動発表と地域交流の場を提供した。	11月6日	1	1,000
地域懇談会	町内会、諸団体との意見交換を行い、地域課題やニーズを把握し、センター事業に反映させる。	11月29日	1	25
★東日本大震災後の地域の活動記録	震災後の復興状況を把握するために、各種団体から情報収集を行い、記録し、資料とする。	7月～9月	10	—

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区を受け持っている。

寺岡地区は、昭和50年代後半から急速に発展し、団地としては成熟している一方高齢化も進んでいる。新しく造成された紫山地区は、若い世代を中心に住民も年々増加しており、対照的な年齢構成になっている。また、団地周辺には宮城県図書館を始め、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設がある他、平成20年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。今後もますます発展と活性化が期待できる地域である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★中学生と地域協働でコミュニティ防災訓練		
参加者	寺岡中学校3年生 地域住民	参加延人数	150人
開催日	全1回 10月19日(水)		
ねらい	今までの“防災”という考え方では捉えられないほどの大災害を経験したことで、中学生と地域住民が訓練を通じて、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を高めることを目的とする。		
概要・成果	今年度初めて寺岡中学校3年生が寺岡・紫山の町内会ごとに4つのグループに分かれて「AED講習」「応急手当講習」「非常用トイレ設営」に取り組んだ。 大災害の再来が予想される今日、地域の中学生と地域住民が協働でこのような防災訓練に取り組むことで、「地域コミュニティを活性化し、人々が助け合う」ことが、“防災”につながるという意識を育み、次年度の「寺岡・紫山地域防災ネット」づくりに繋がった。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
★親と子の心のカウンセリング	大震災による心のケアと、不登校について考えることにより、子どもたちとのコミュニケーションのとり方を学んだ。	7月6日・10月12日	2	34
子ども体験塾～アートと『和』を楽しもう！	子どもに様々な体験学習の機会を提供し、世代間交流を交え工作や日本文化を楽しみながら学習した。	7月22日・9月10日・11月27日・1月28日・2月18日	5	81
星空観察会～寺岡から見える星空を観察しよう～	星空を見ながら親子でゆっくり語り合い、コミュニケーションを深めながら天体に関する興味を促す機会を作った。	5月20日・9月22日	2	82
ジュニアリーダー活用講座「ジュニアと遊ぼう」	ジュニアリーダーの技術向上、活用の場と、次世代のジュニアリーダー育成のための素地をつくった。	2月19日	1	9
いずみふるさと探訪～魅力再発見！泉ふるさと学～	地域の歴史を学び実際に目で見ることによって、地域への愛着を深め魅力を再発見した。	10月26日・11月9日	3	30

ストレッチ&レクダンスで健康・元気！	高齢化社会に対応し、初心者でも簡単にできるストレッチとダンスで健康増進と介護予防に役立てた。	7月7日・14日・21日・28日	4	120
★英国式リフレクソロジーで心と体をリフレッシュ	寺岡小学校区社会学級と連携し、東北大震災で受けたストレス解消や仲間作りをした。	1月25日	1	25
多聞塾	地域の高齢者を対象に、生涯学習の機会を提供し、受講生同士の交流と生き甲斐作りの場を提供した。	7月7日・8月4日・9月1日・10月6日・11月10日・12月1日・1月12日・3月8日	7	237
市民センターまつり	地域で活動するサークルに発表の場を提供し、地域住民の交流を深め文化の向上を図った。	10月22・23日	2	2,000
市民センターで楽しむちょっとすてきなコンサート	住民が気軽に集えるコンサートを通じて、地域住民の交流と地域活性化を促した。	12月17日	1	160
★「傾聴」について学ぼう～聴くことの大切さ～	震災後、不安な心を和らげる傾聴について学ぶことで、身近な人間関係のコミュニケーション力を高めた。	11月30日	1	49
寺岡・紫山懇談会	地域課題を抽出し、センター事業へ反映させるとともに、地域住民との交流を深めた。	9月25日・1月15日	2	30
★東日本大震災後の地域の活動記録	大震災後地域の対応、復興状況を情報収集し記録すると共に、作業を通じて人材発掘、課題の把握をした。	通年	1	10

長命ヶ丘市民センター

〔沿革〕

長命ヶ丘市民センターは、平成 5 年 4 月に泉区 10 番目の市民センターとして開館された。当市民センターの周囲は昭和 50 年以降に造成された長命ヶ丘団地で形成されている。利用者の約 65%が長命ヶ丘地区、25%が近隣地区、残り 10%が他地区からとなっており、地域に密着した市民センターといえる。地域優先の 28 サークルをはじめ、常時 80 以上のサークルが活動している。本年度は東日本大震災の影響で約 3 ヶ月間休館したが、40,000 名を超える利用者があった。当市民センターは、子どもから高齢者までのあらゆる住民の層からの支持を得ながら、サークル活動はもとより、地域の生涯学習活動の拠点として定着しており、益々その役割機能は、重要性を増している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	夫婦共学		
参加者	地域住民(夫婦単位)	参加延人数	60人
開催日	全4回 9月16日(金)、10月21日(金)、11月11日(金)、1月27日(金)		
ねらい	長命ヶ丘地区は高齢化が進み、高齢夫婦の世帯が増加してきている。 夫婦二人で共に学ぶことにより、夫婦のコミュニケーションを図りながら、相手をあらためて見つめなおしこれからの夫婦のあり方や自立を考える機会を提供する。		
概要・成果	概要： ①夫婦一緒にできるリラクゼーション体操 ②夫婦一緒に産土美術館見学 ③生きる力を生み出す ～夫婦一緒に声を出し歌う～ ④夫婦で学ぶ元気メニュー ～一緒に作る・食べる・健康の話～ 成果： ・夫婦で体験する事で互いにコミュニケーションを図る様子がうかがえた。 ・家庭でも話題にできる内容が多くライフスタイルを前向きにとらえるきっかけを提供できた。 ・参加者同士の交流もあり参加者の満足度が高かった。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
子育て講座	同一地域内にある市民センター・児童センター・保育所がそれぞれの特徴を生かし、運動あそびや造形あそび、子育てに関する講話、食育コンサート等を行なった。	5月26日・10月8日・1月10日・1月26日・2月23日	5	242
休日自由楽校	自然の素晴らしさと共感し、家族の絆を再認識するために、川遊び・燻製作りとスノーシューハイキングを行なった。	10月30日・2月12日	2	26
子育てママのほっと一息	子育て中のママのストレスを少しでも緩和し、明るく前向きに、子育てや家事をするママになってもらえるように、心と身体に効くリラクゼーションヨガ(託児付)を開催した。	11月26日	1	9

「本と仲よし！長命ワ ンダーブックランド」	子ども読書活動を推進するために、図書まつりを開催した。内容は本の情報コーナー、譲りますコーナー、ブックカフェ、DVD シアター、ブックトーク、うたとお話のコンサートで、多くの来館者でにぎわった。	9月23日	1	180
ジュニアリーダーとあ そぼう「わくわくチャレ ンジラリー」	長命ヶ丘市民センターまつりを訪れる多くの子どもたちを対象に、ジュニアリーダーを活用し、バルーンアート、輪投げ BOX のブースを設け、さまざまな遊びやゲームを通して異年齢・世代間交流を図った。	10月16日	1	45
フレンドスクール	地域に開放されている長命ヶ丘小学校マイスクールの場所を会場に、放課後の小学生対象にニュースポーツ、おはなしの部屋、木の枝工作、ALT の先生とゲーム、昔あそびを開催した。	10月19日・11 月16日・12月 15日・1月27 日2月15日	5	49
長命ヶ丘発歴史の旅 「長命ヶ丘から根白 石へ探訪の道」	市民企画で企画した事業で、長命ヶ丘から根白石までの街道沿いの史跡をたどり、その歴史的背景や郷土の魅力を学ぶ。泉区への転入者や市民センターの講座を受講した事のない方を対象とし、地域理解と交流を深めた。	10月12日・26 日・11月9日	3	53
続 ガーデニングの いろは	一年草のポット移植、苗の植え付け、宿根草の挿し芽を株分け、シクラメンの手入れ方法の講話などを行なった。	9月22日・10 月27日・11月 15日・12月22 日	4	19
長命大学	地域に大勢いる高齢者に、いきいき生活してもらうための目標や学習の機会や場を提供した。	7月6日～2 月15日	8	427
健康講座「介護予防 とリハビリテーション」	地域にあるリハビリテーション専門学校の協力を仰ぎ、高齢者が心身ともに自立した状態である健康寿命の延伸を図るため、高齢者の歩行、バランス能力、高齢者の嚥下について、講話と実技。	8月23日・24 日・25日	3	54
長命ヶ丘市民センタ ー地域懇談会	市民センターの事業や施設に対する地域住民との意見交換の場を設け、学習ニーズや地域課題を共有し、収集した情報をもとに市民センター事業へ反映させた。	6月10日	1	45
長命ヶ丘市民センタ ーまつり	市民センタを中心に活動している団体の学習成果の発表機会を提供。舞台発表・作品展示・子どもの広場・模擬店・じゃんけん大会など。	10月15日・16 日	2	2,570
★長命コンサート	震災後の再開館最初の事業として、地域の人々が楽しむことが出来るコンサートを実施した。本格的コンボバンドによる昭和歌謡と映画音楽で地域交流につながった。	7月10日	1	100
★東日本大震災後の 地域の活動記録	懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録した。	6月10日・ 8月27日・ 9月11日	3	15
『転入者のための歴史講座』を企画してみませんか	長命ヶ丘地域にいる歴史に関する知識や歴史散策の経験豊富な人材を活用し、転入者のための歴史講座を企画・運営した。	7月22日・29 日・8月5日・ 9月14日・11 月9日	5	40
できることでボランテ ィア	仙台ボランティアセンターの副所長を講師に迎え、活動紹介やボランティアのエピソード、ボランティア活動の心構えや留意点について話を聞いた。	1月13日	1	18

松森市民センター

〔 浴 革 〕

当市民センターは平成12年1月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内11番目の市民センターとして開館した。

市民センターの北側に、戦国時代の武将である国分氏が居を構えた松森城跡を仰ぎ、北東には鶴が丘団地、東西に細長く松森地区がある。近年大型店舗の進出や幹線道路の整備が進み人口増加の傾向にある。一方南側は、一面広大な田園地帯となっており、七北田川・仙台バイパスまで眺望が広がり、自然環境にも恵まれている。施設の特徴としては、市民が気軽に利用できる親子室・娯楽室・図書室・市民活動室や広々としたラウンジがある。地域のニーズに応える生涯学習の拠点施設として、相互交流の輪を持てる多様な事業を提供・支援している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	まなこみネット鶴が森推進事業 「巨大紙相撲鶴が森場所 2011」「冬のお楽しみ会」		
参加者	小学生、中学生、地域住民	参加延人数	439人
開催日	全2回 7月18日(月)、1月7日(土)		
協力者・協力団体	鶴が丘中学校、鶴が丘小学校、松森小学校、鶴が丘児童センター 鶴が丘中学校親父の会、松森・鶴が丘学区民体育振興会 鶴が丘小学校区社会学級、松森小学校社会学級 鶴が丘中学校区健全育成推進協議会		
ねらい	まなこみネット鶴が森推進委員会で企画された事業。市民センターが核となり、地域の団体と連携してネットワークを広げ地域活性化を図る。子供達の健やかな育ちを支援し、さらに世代間交流を行う。		
概要・成果	「巨大紙相撲鶴が森場所 2011」 子どもから大人まで一緒にダンボールで巨大力士を作成し、鶴が森場所を開催。 「冬のお楽しみ会」 小正月の行事(もちつきとだんごさし)を地域のお年寄りから学ぶ。 巨大紙相撲は3回目、もちつきとだんごさしは5回目となり、どちらも多くの親子が参加した。毎回関わってくださるボランティアスタッフも多く、まなこみが地域の行事として定着している。また学校とも連携し、多くの中学生ボランティアが活躍した。		

〔平成23年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
みやぎの食文化リサーチ隊	仙台白菜と仙台味噌の原料である大豆の学習を核に、昔ながらの食文化が現代の食育に通じるものであること、さらには外国の食文化も取り入れ進化していく、宮城の伝統食文化を体験学習により学んだ。	8月27日・10月29日・2月18日	3	64
ジュニアちゃれんじ!	小学校の長期休暇や土日を利用して、学校ではできないモノ作りや遊びなどの体験から、子どもたちの自主性や創造力、理解力を養う。またジュニアリーダーや高校生などとの交流を通してコミュニケーション能力を養う。	8月5日・11月23日・12月24日	3	41

城前大楽	地域の高齢者に生涯学習の場を提供し、又、話し合いの場をつくり参加者同士がふれあい、親睦を深め、さらに自主活動ができ心豊かな生活がおくれるように支援する。	7月21日・8月25日・9月22日・10月20日・11月25日・12月16日・2月16日	7	251
松森ラウンジコンサート	地域の人材やサークルに演奏発表の場提供と、地域の方々の気軽な来館促進を目指す。	12月25日・3月3日	2	76
まつもりゆるゆるアートまつり	地域のアーティストが表現活動できる場を設けることで、地域住民が身近な施設で芸術的表現活動に触れる機会を提供した。また、高校のサークルにも参加してもらい、地域住民への活動PRの場とした。	12月3日	1	65
(学びのコミュニティ推進事業)まなこみネット鶴が森推進委員会	市民センターが核となって地域の様々な団体が連携し、事業を企画立案、運営することによって子供たちの健全育成と地域の活性化を図る。	6月8日・7月6日・8月3日・9月7日・10月5日・2月8日	6	112
社会学級共催企画会議	地域にある社会学級と市民センターが、現代の諸問題について意見交換をしながら、地域に発信できる講座を企画した。	6月8日・8月3日・9月27日	3	12
松森市民センターまつり	市民センターで活動するサークルの学習発表や地域住民との交流を促進する場となった。また実行委員会を組織し、自分たちのまつりであることを確認し、地域の和を意識したまつりを実施することができた。	10月16日	1	1,200
鶴が森コミュニティ2011	地域や団体の代表者が一同に会して、地域課題・地域ニーズについての意見交換及び情報交換を行い、地域づくりの拠点の機能を果たす。	2月11日	1	13
図書ボランティア養成講座	読書活動の推進のための図書ボランティアの人員確保とスキルアップを図る。	2月1日・8日・15日・29日	4	42
ママのハッピー企画室	地域に住む子育て中の親が企画委員となり、身の回りの様々な問題について情報交換しながら、子育て支援に有効な企画を考えるとともに子育ての仲間づくりを目的とする。	5月31日・6月14日・28日・8月30日・11月15日・22日・2月28日	7	24
「ママのハッピー企画室」実施講座	親子で参加できるコンサートを開催することで、震災のストレスから心を開放し、親子のふれあいを図った。また託児付き講座を企画し、日頃できない手仕事をしながら母親同士交流を深めた。	12月6日・2月28日	2	69
社会学級共催事業「季節を染める～草木染め～」	草木染めを通して震災後の落ち着いた気持ちを穏やかにし、自然の大切さを見直すとともに、参加者同士がモノ作りを通して交流を図った。	9月27日	1	38
サークル一日体験	市民センターで活動するサークルの様子を地域の方々に紹介し、体験することにより、地域での自分探しとなり、交流をするきっかけづくりとする。	2月8日・9日・10日・14日・15日	5	6

桂市民センター

〔沿革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地であり、高齢化率も比較的 low、若く活気にあふれた街である。一方、将監地区は昭和 40 年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。

児童センターとの併設館ということもあって利用者の年齢層は乳幼児から高齢者まで幅広い。開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んできた。23年度は、これまで同様に生涯学習環境の整備・拡充に努めるとともに、東日本大震災で被災した経験を元に桂地区の諸団体と更なる連携を深めながら、地域づくりのために有効な事業の展開を図る。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 桂ロビーコンサート 音楽が生まれる街～地域をつなぐ		
参加者	一般	参加延人数	550人
開催日	全5回 9月8日(木)、9月17日(土)、11月19日(土)、2月5日(日)、2月19日(日)		
ねらい	市民企画会議の結果を踏まえて利用団体の練習成果発表の場とし、来館促進を目指す。センターで把握していない潜在的な音楽家を掘り起こし、交流を図る。東日本大震災で被災した心を癒し復興へと繋がるよう、住民相互の絆を深める一助とする。		
概要・成果	企画委員3名が、企画会議を経て5回のコンサートを企画した(4回目は、桂市民センター開館10周年記念コンサート)。多彩なコンサート開催により、市民センターが文化創造の拠点となり、地域の人々が集まる催し物として定着した。今年度は被災者の心を癒し、参加者同士の一体感を生み、未来の生活への期待に繋がるような感動を与えた。		

〔平成 23 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
桂の森のキッズランド	「いいぶちゆみとりバースファイブ」による♪おいしいしあわせコンサート♪を開催。歌とパフォーマンスで幼児子どもにもわかりやすい栄養・献立・食事マナー等についての学習ができる食育コンサート	9月7日	1	162
桂子ども交通安全教室	正しい交通ルールと自転車の乗り方の講話	10月29日	1	23
桂ジュニアカレッジ	①サバ飯作り体験、空き缶でごはんをつくろう②ジュニアリーダーと遊ぼう③ダンボールであそぼう④お菓子づくり	7月22日・23日・11月17日・2月15日	4	96
絵手紙でコミュニケーション	絵手紙の技術習得・サークル化の話し合い	8月24日・31日・9月7日・14日・21日・28日	6	104
初心者でも楽しめるクラシック講座	プロ指揮者によるクラシック入門講座。講話：①音楽とは何？②西洋音楽の変遷を考える③ヴィヴァルディの音楽④⑤パツハについて⑥ハイドンについて⑦⑧⑨ベートーヴェンについて⑩第九を楽しむために	7月22日～12月13日	10	566

食を通じて健康づくり	生活習慣病予防を目的とした講話と調理実習	1月13日・20日・27日	3	50
桂友くらぶ	講話「震災から立ち上がる」・軽体操・ギターコンサート・エッグアート製作・講話「陸奥国分寺・薬師寺」・移動学習・講話「仙台藩七北田刑場跡」・講話「私の熱中時間」	7月14日・8月11日・9月8日・10月6日・11月10日・12月8日・1月12日・2月9日	8	324
桂文化祭	センター利用サークルと地域住民による文化祭。展示発表・ステージ発表・児童センターまつり・出店	10月15日	1	1,500
★桂地域懇談会	桂地域諸団体の代表者に集ってもらい、地域づくりについて、また東日本大震災後の地域課題について意見交換し、解決を目的とした講座について検討した。市民センター施設利用団体の代表者による懇談会も実施。	6月24日・9月9日・11月11日	3	23
★桂地区地域防災訓練	防災のための講話と実技・防災クイズ・地震体験・消火訓練	9月11日	1	200
★東方落語に来てください～地域を元気に～	震災後の地域を元気にすることを目的に、東北弁での落語を実施した。また、被災地の様子や家族の絆等も語られた。	11月18日	1	77
★東日本大震災後の地域の活動記録	東日本大震災後の地域全体、市民センターの対応及び復興状況を正確に把握するため、懇談会や利用者、町内会等各種団体からの直接聴取などの方法を用いて情報収集、記録することにより、今後の地域づくりを進めていくうえでの資料とする。	6月～9月	1	—
桂小学校区社会学級連携事業企画会議	市民センターと社会学級とが連携して、地域課題の解決に結びつく講座開催に向け、企画会議を実施した。	6月23日・7月7日・28日・11月18日・22日	5	97
桂ロビーコンサート企画会議	市民企画講座「桂ロビーコンサート」の企画会議を4回開催。桂ロビーコンサートを6回企画開催。	6月15日～3月7日	10	20

南中山市民センター

〔 沿 革 〕

当市民センターは南中山団地の中心部に位置し、南中山中学校区における南中山、北中山、西中山の3連合町内会傘下16町内会を対象範囲としている。さらに、新規住宅の建築も盛んで人口も増加傾向にある。

当市民センターは、昭和59年にオープンした「泉中高年齢労働者福祉センター(サンライフ泉)」が平成15年3月をもって閉館した後、施設改修を行い、平成15年11月13日に「南中山市民センター」としてリニューアルオープンした。地域には障害者関係教育機関があり、住民や小中学生、大学生などと障害者との交流も活発に行われるなど、地域住民の市民活動も活発で、市民センター活動への期待と関心も大変高い。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔 特色ある事業 〕

事業名	いずみ中山愛菜ボランティア講座 ～野菜を作ろう～		
参加者	成人	参加延人数	196人
開催日	全15回 5～12月 毎月第2、4土曜日		
協力者・協力団体	南中山小学校		
ねらい	野菜作りに興味を持っている地域住民に、市民センターの「いずみ中山愛菜農園」を実践の場として提供し、作り方を学んでもらう。		
概要・成果	野菜作りを通じて、受講生同志の交流が今まで以上に活性化し、絆が強化された。ボランティアに対する意欲も高まり、小学校での活動も新年度からすることに決まり期待される。		

〔 平成23年度 事業実績 〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	参加延人数
ママのほっとサロン	孤立しがちな子育て中の母親を対象に、親子遊びや情報交換の場を提供して、「ほっ」と一息休息となるよう講座を開催した。	7月21日・9月15日・10月20日・11月17日・12月20日	5	57
わくわく子どもチャレンジ	小学1～4年生の子どもたちが、おもちゃ作り、芋掘りと試食、茶道、ダブルダッチ、バレンタインのお菓子作りを体験した。	7月27日・30日・10月12日・12月10日・2月11日	5	55
門松をつくろう	小学生とその家族がミニ門松づくりを行い、その後地域の方による伝統的なお正月の過ごし方についてのお話を聞いた。	12月25日	1	51
南中山・北中山小学生交流会	南中山小学校と北中山小学校の児童、保護者の交流を目的に、ゲーム大会、ろうそくづくり、交流食事を実施した。	2月4日	1	72

さわやか健康塾 脱メタボ宣言	メタボ、生活習慣病、生活不活発病対策として各自に合った運動メニューを作るための健康講話、体力測定、基本運動の指導と、運動継続後の体力測定を行い、QOLの向上をはかった。	9月8日・15日・22日・29日・10月6日	5	77
かがやきカレッジ	50歳以上の方を対象に、仙台の災害史や宮城の文学、伝統行事だんごさし、健康体操、コンサート等、幅広い学習の機会を提供した。	6月10日・7月8日・9月9日・10月14日・11月11日・12月8日・1月13日・2月10日	8	347
いずみ中山すずなりコンサート	地域ぐるみの音楽発表会として、夏に、センター利用4サークルのコンサートを実施。冬は南中山中学校吹奏楽部とジャズオーケストラが共演した。	7月16日・11月27日	2	270
南中山・北中山小学生交流会実行委員会	南中山小学校と北中山小学校の児童、保護者の交流を目的とした行事を企画・検討した。	9月24日・10月22日・11月26日・1月21日・2月25日	5	29
まなびねっと「いずみ中山」推進委員会	子ども達の健やかな成長と、子ども達同士の交流を目的とした行事を実施するため、地域の団体が連携してネットワークをつくり、月に一度推進委員会を開催して企画・検討を行った。	6月25日～2月25日	9	71
★南中山市民センターまつり	地域の学校・団体・センター利用サークルの発表、授産施設の販売、あそびのコーナー、震災後の地域の活動記録を集約、展示。	11月5日	1	430
地域懇談会	連合町内会等地域の団体を対象に地域懇談会を行い、地域ニーズや課題の収集、市民センターの活動状況の報告を行った。	3月3日	1	9
★東日本大震災後の地域の活動記録	地域の学校や、町内会等各種団体から、震災に関連した意見聴取、情報収集を行い、それらを記録化した。	8月1日	1	15
ジュニアリーダーとあそぼう	「長命ヶ丘巣子つぶ」のジュニアリーダーが小学生を対象にゲームを行い、小学生との異年齢交流やジュニアリーダー活動の紹介を行った。	7月30日	1	11